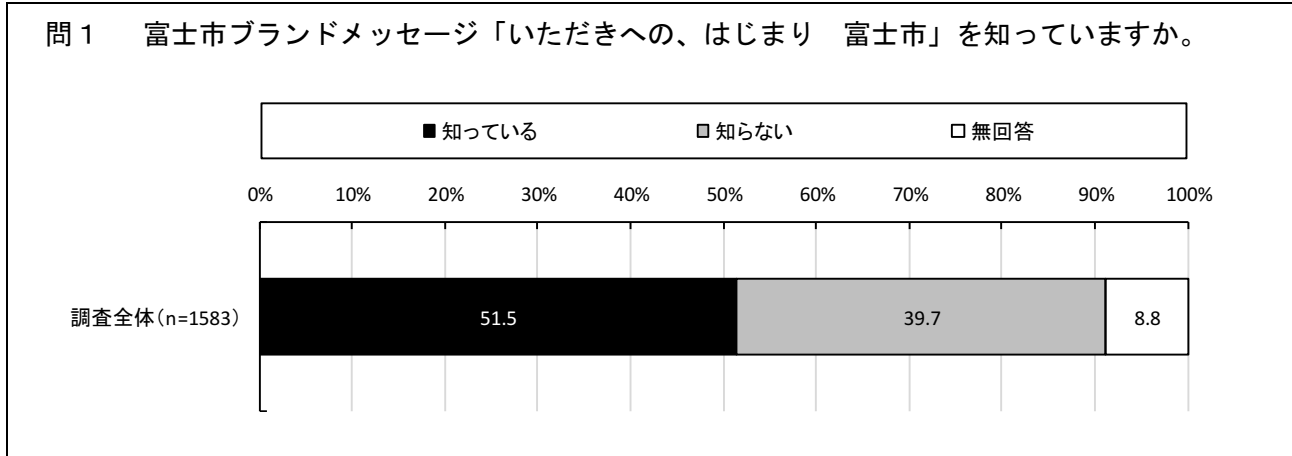


IV 調査結果

「ブランドメッセージ」について

(1) ブランドメッセージの認知度

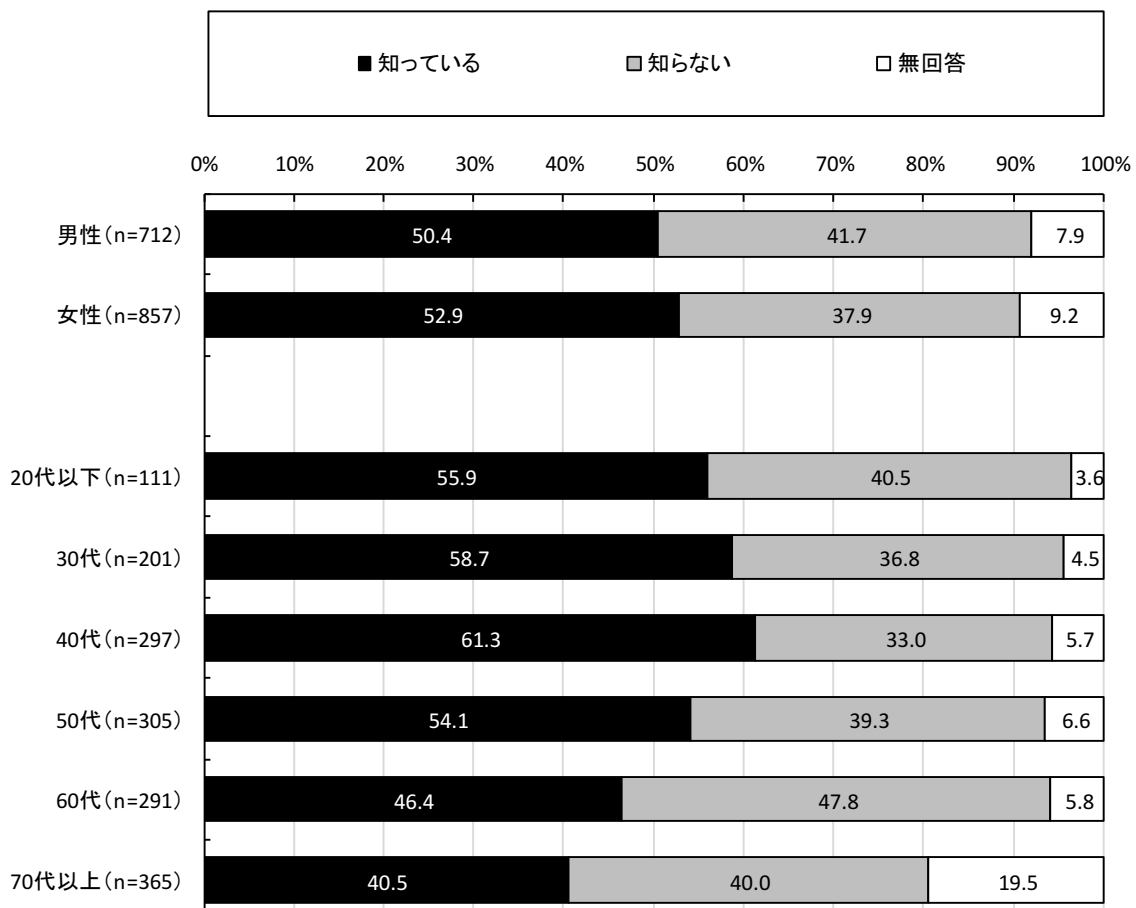


富士市のブランドメッセージの認知度について尋ねたところ、「知っている」は51.5%、「知らない」は39.7%となった。

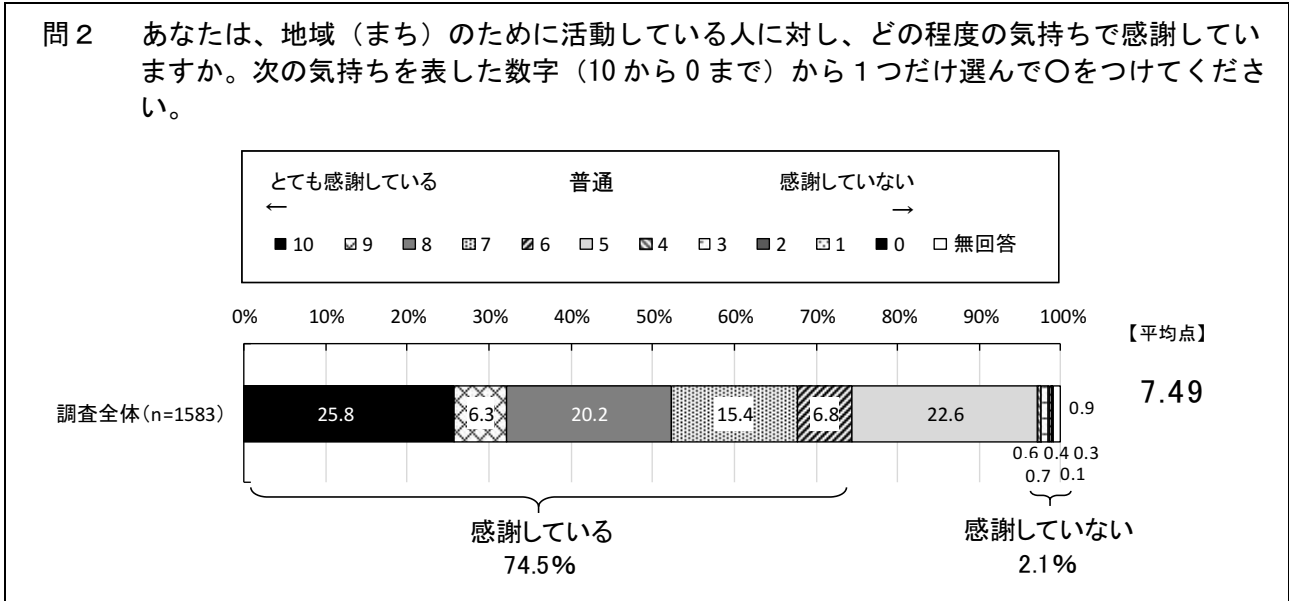
男女別に見ると、認知度は男性が50.4%、女性が52.9%で、女性のほうがやや高い結果となった。

年代別に見ると、認知度は20代以下～50代で半数以上となっている一方、60代以上は4割台にとどまった。

【性別・年代別】



(2) 地域活動をしている人への感謝意欲 (10点評価)

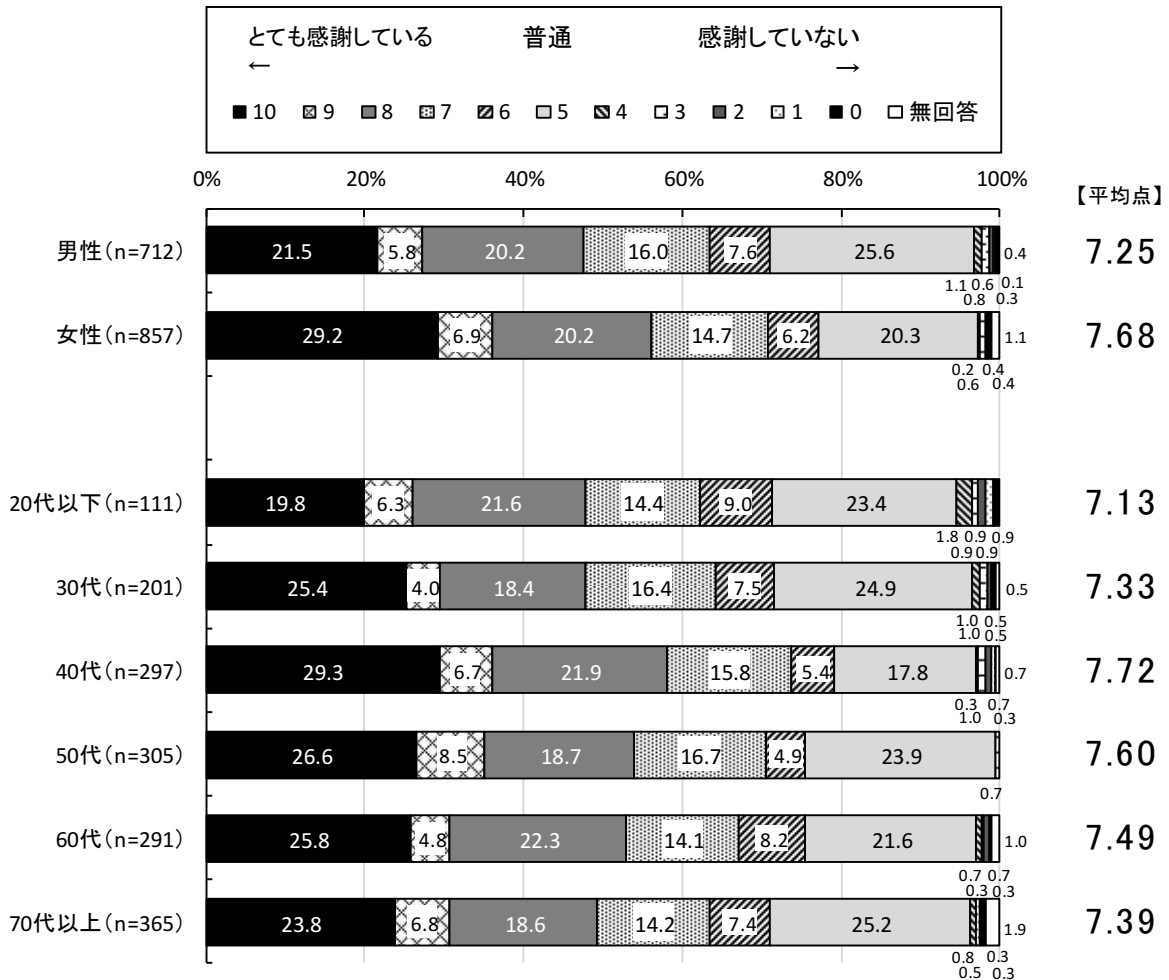


地域活動をしている人への感謝意欲について尋ねたところ、「10~6」の“感謝している”割合は74.5%を占め、平均点は7.49となっている。

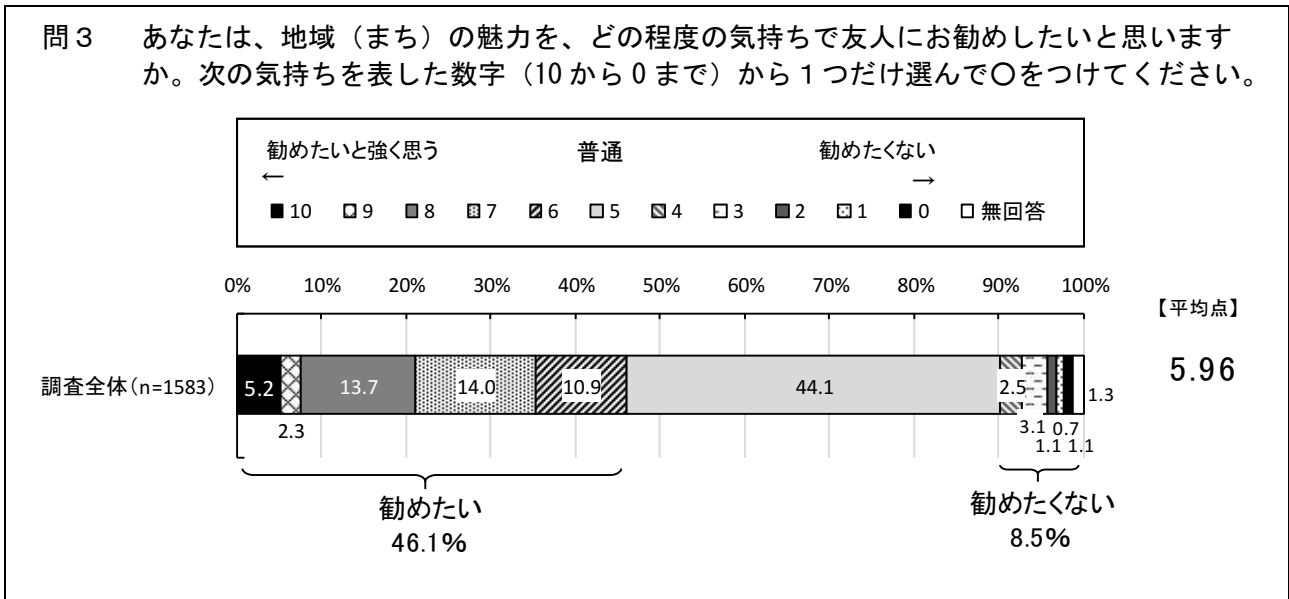
男女別に見ると、「10 とても感謝している」は男性で21.5%、女性で29.2%と男性より女性が高く、平均点も男性7.25、女性7.68で女性の点数が上回った。

年代別に見ると、特に40代が平均点7.72と最も高く、次に50代が7.60と高くなっている。

【性別・年代別】



(3) 地域の魅力の推奨意欲 (10点評価)

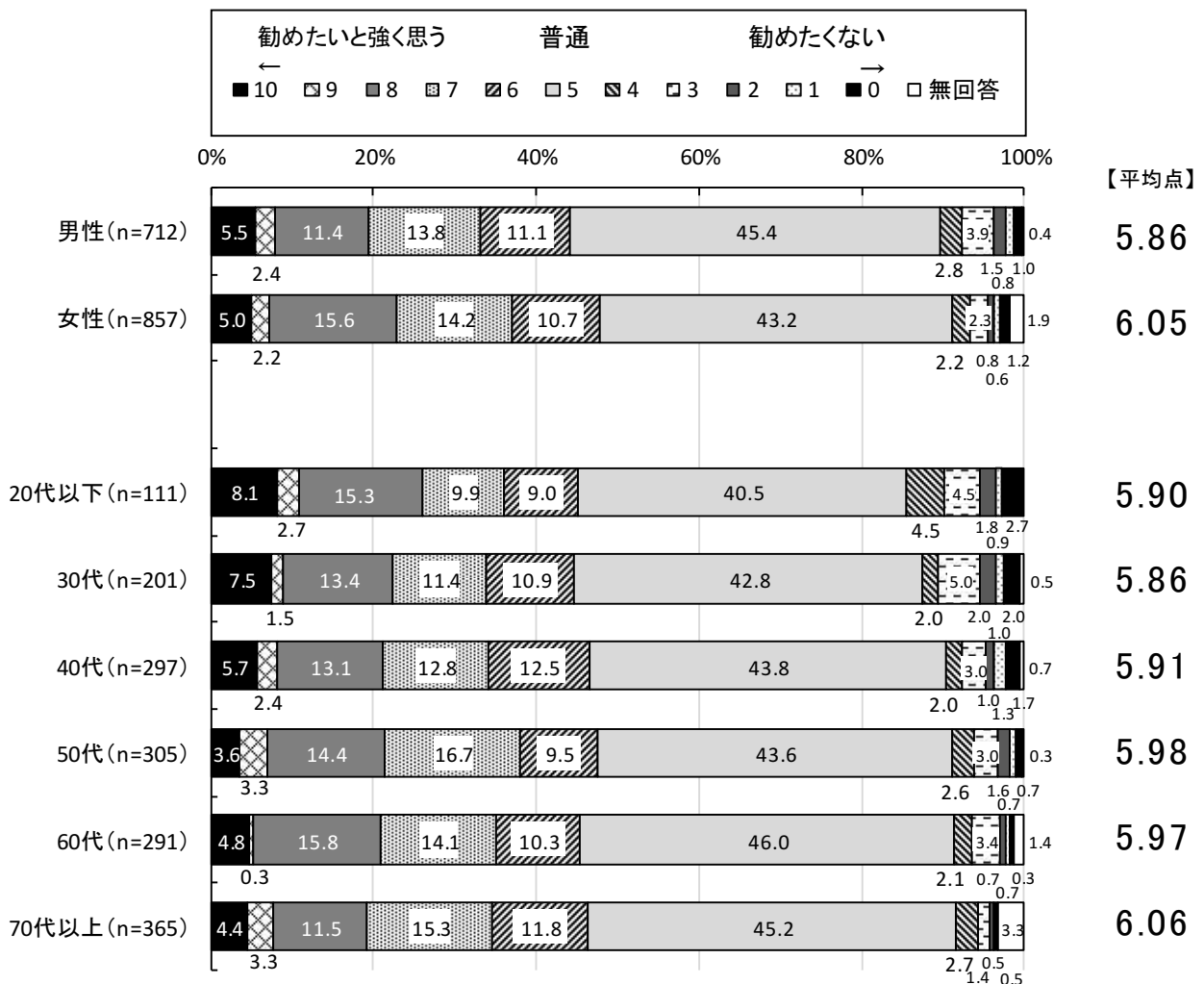


地域の魅力の推奨意欲について尋ねたところ、「10～6」の“勧めたい”割合が46.1%、「4～0」の“勧めたくない”割合が8.5%で、平均点は5.96となっている。

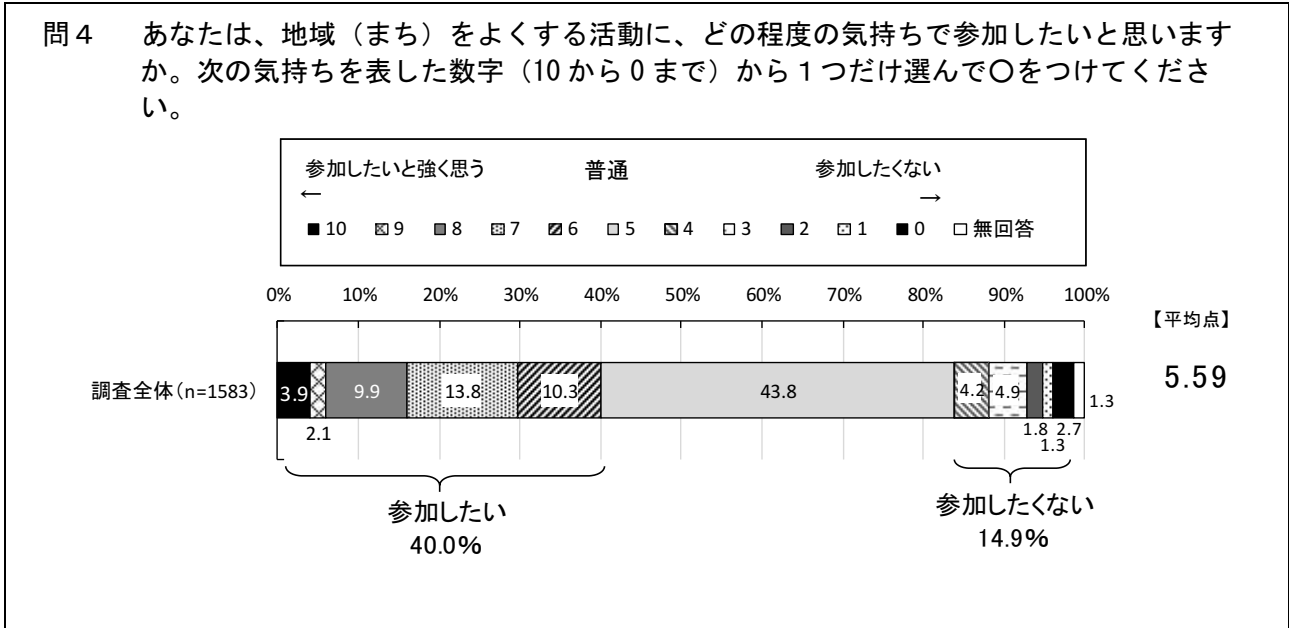
男女別に見ると、平均点は男性5.86、女性6.05で女性のほうがやや高い。

年代別では大きな差は見られない。

【性別・年代別】



(4) 地域活動の参加意欲 (10点評価)

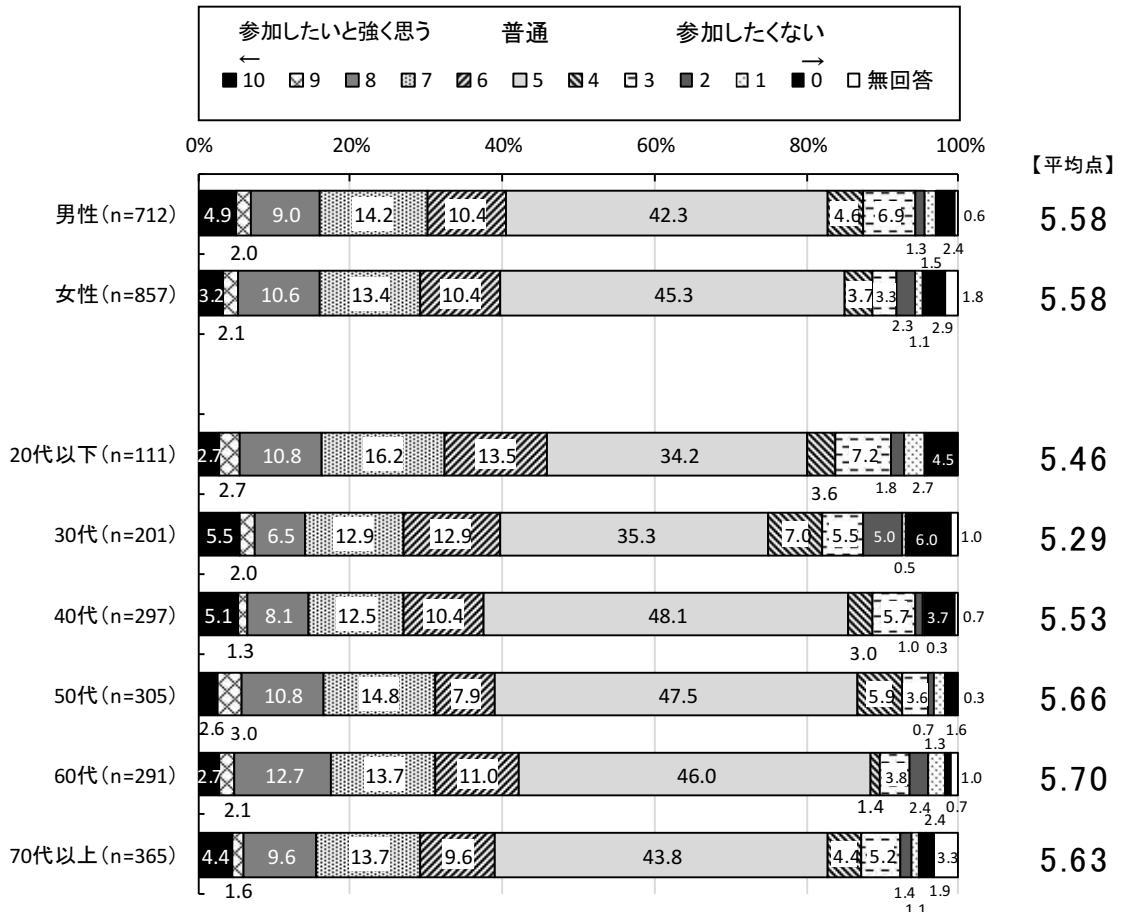


地域活動の参加意欲について尋ねたところ、「10~6」の“参加したい”割合が40.0%、「4~0」の“参加したくない”の割合が14.9%で、平均点は5.59となっている。

男女別に見ると、平均点は男女ともに5.58と同等であった。

年代別に見ると、60代の平均点が最も高く、次いで50代、70代以上となり、年代の高い層が高めの平均点となっている。30代では“参加したくない”の割合が24.0%で他の年代と比べて高くなっている。

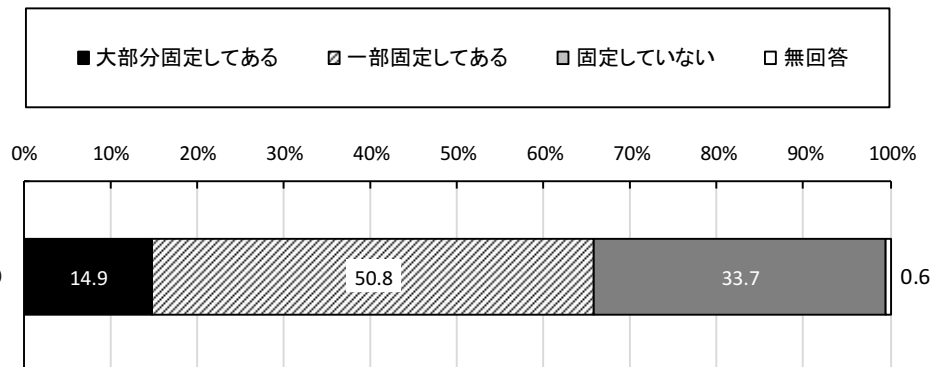
【性別・年代別】



I 「我が家の災害対策・同報無線」

(1) 家具・家電の固定状況

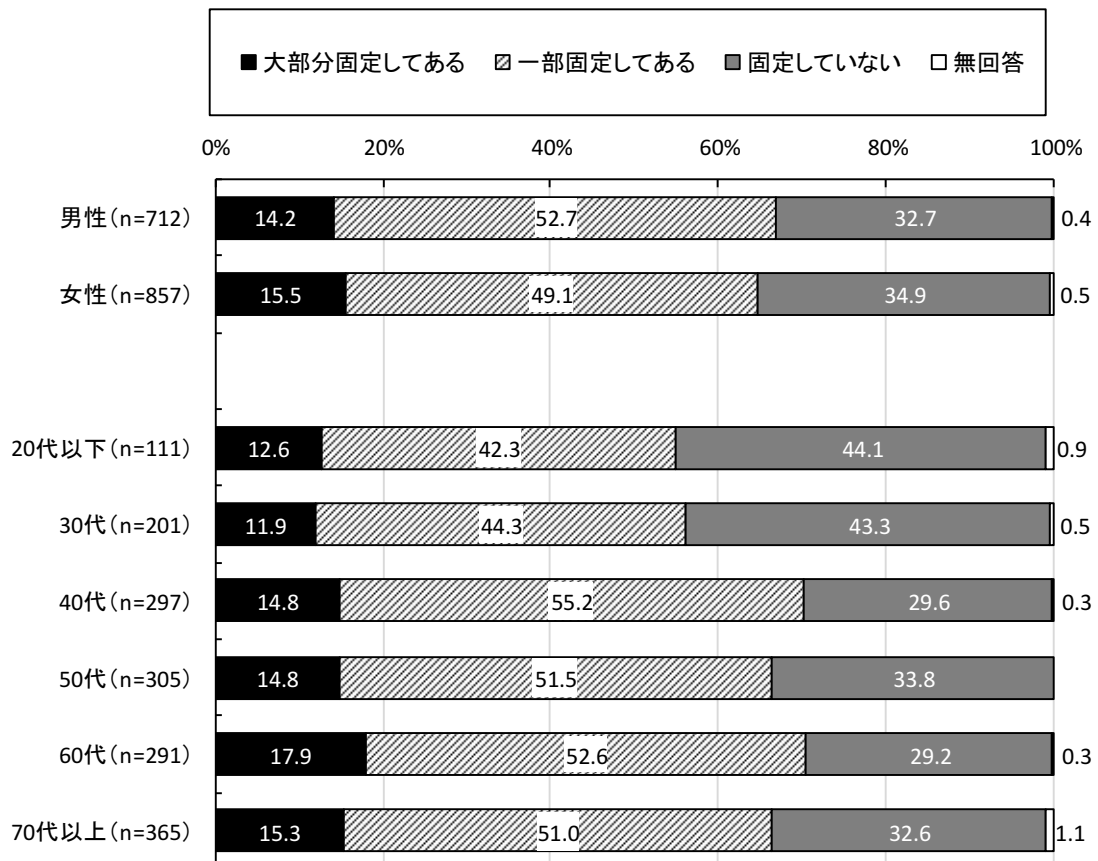
問5 あなたのお宅では大地震に備えて「家具・家電の固定」をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。



家具・家電の固定状況について尋ねたところ、「大部分固定してある」が14.9%、「一部固定してある」が50.8%、「固定していない」が33.7%となった。

年代別に見ると、40代以上では「大部分固定してある」または「一部固定してある」が6割以上を占めているが、30代以下では「固定していない」が4割台と高くなっている。

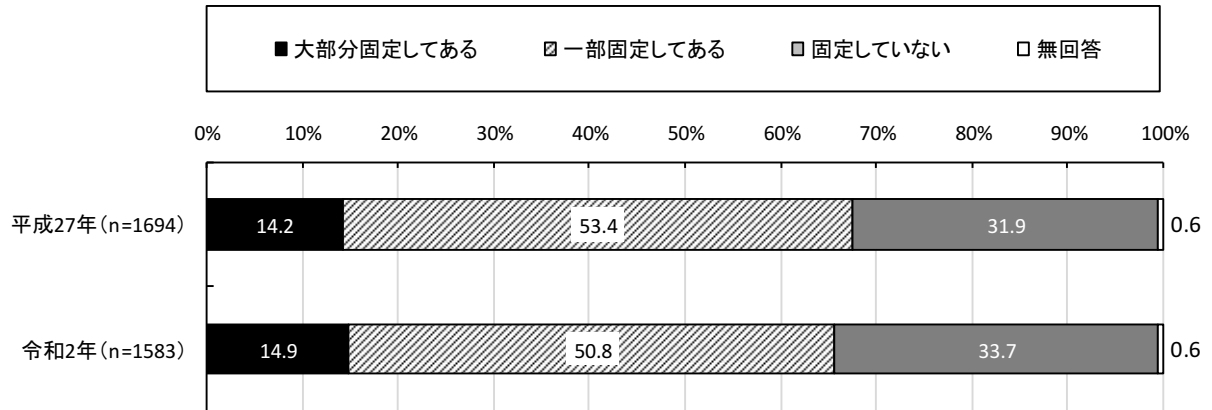
【性別・年代別】



IV 調査結果

平成 27 年度の調査結果と比較すると、「一部固定してある」が 53.4%から 50.8%と 2.6 ポイント減少し、「固定していない」が 31.9%から 33.7%と 1.8 ポイント増加したものの、大きな変化は見られなかった。

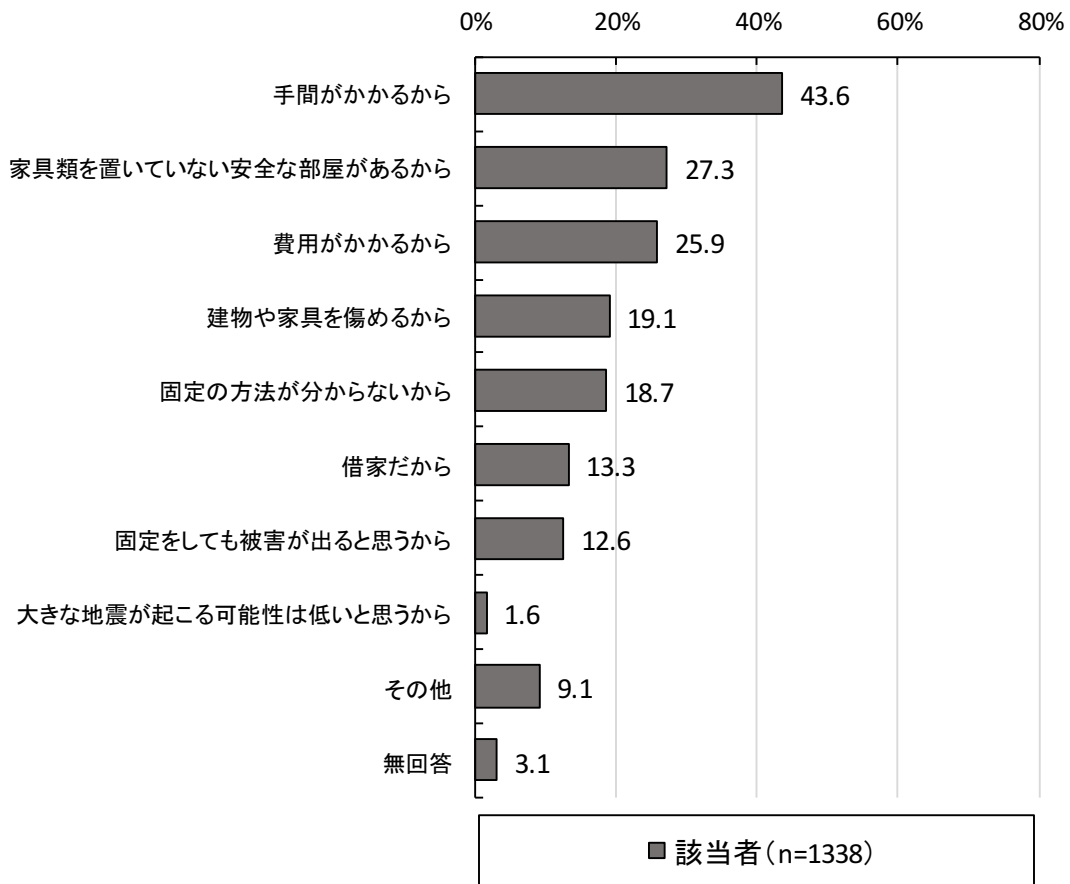
【経年変化】



(2) 家具・家電を固定していない理由

〈問5で「2 一部固定してある」または「3 固定していない」と答えた人に伺います〉

問5-1 「家具・家電の固定」をしていないのはどのような理由からですか。
次の中から主なものを3つ以内で選んでください。

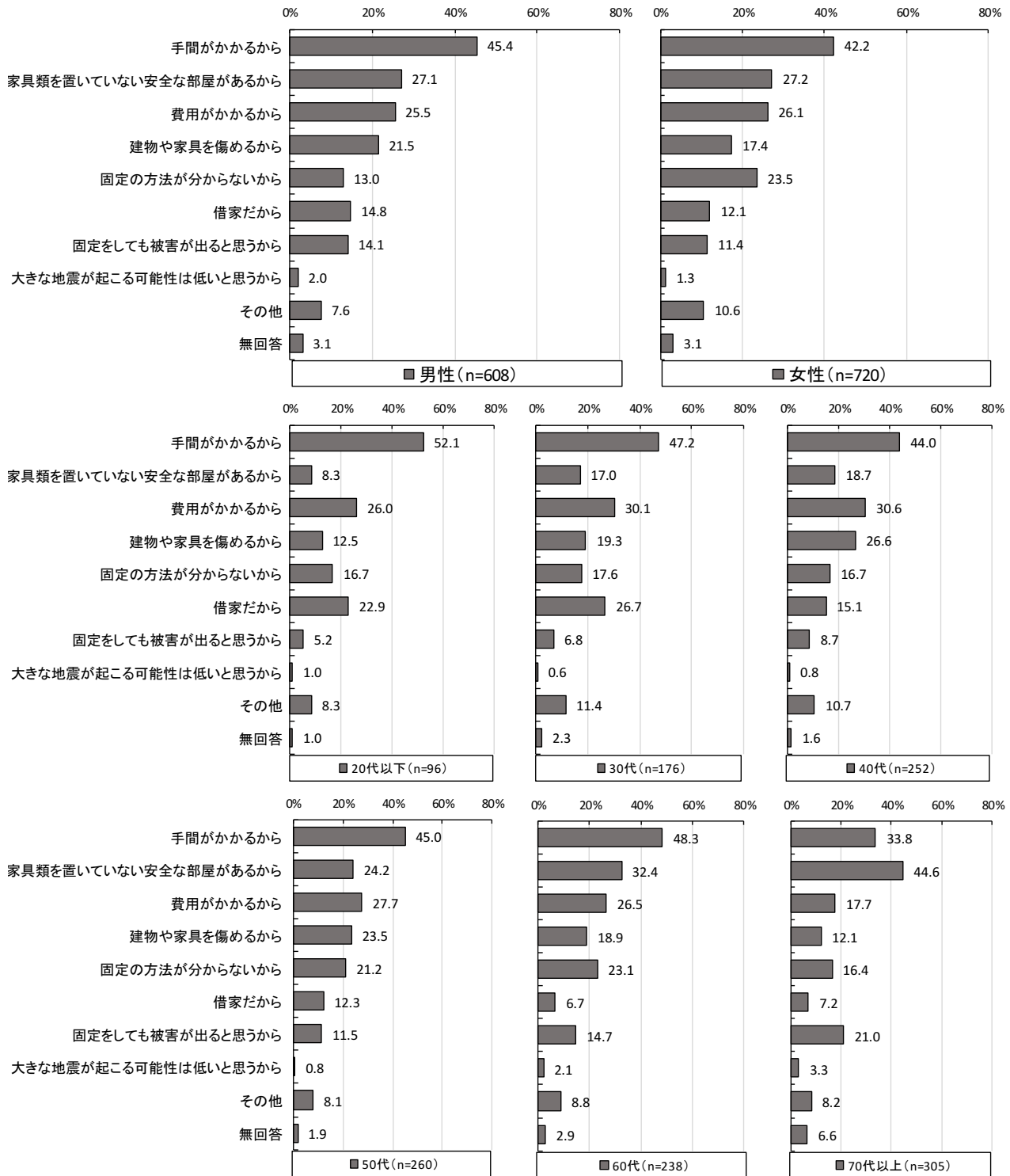


家具・家電の固定をしていない理由について尋ねたところ、「手間がかかるから」が43.6%と最も高く、次いで「家具類を置いていない安全な部屋があるから」が27.3%、「費用がかかるから」が25.9%と続く。

年代別で見ると、70代以上を除くいずれの年代も「手間がかかるから」が最も高くなっている。70代以上では「家具類を置いていない安全な部屋があるから」が最も高い。20代以下と30代では「借家だから」が2割以上と高めであった。

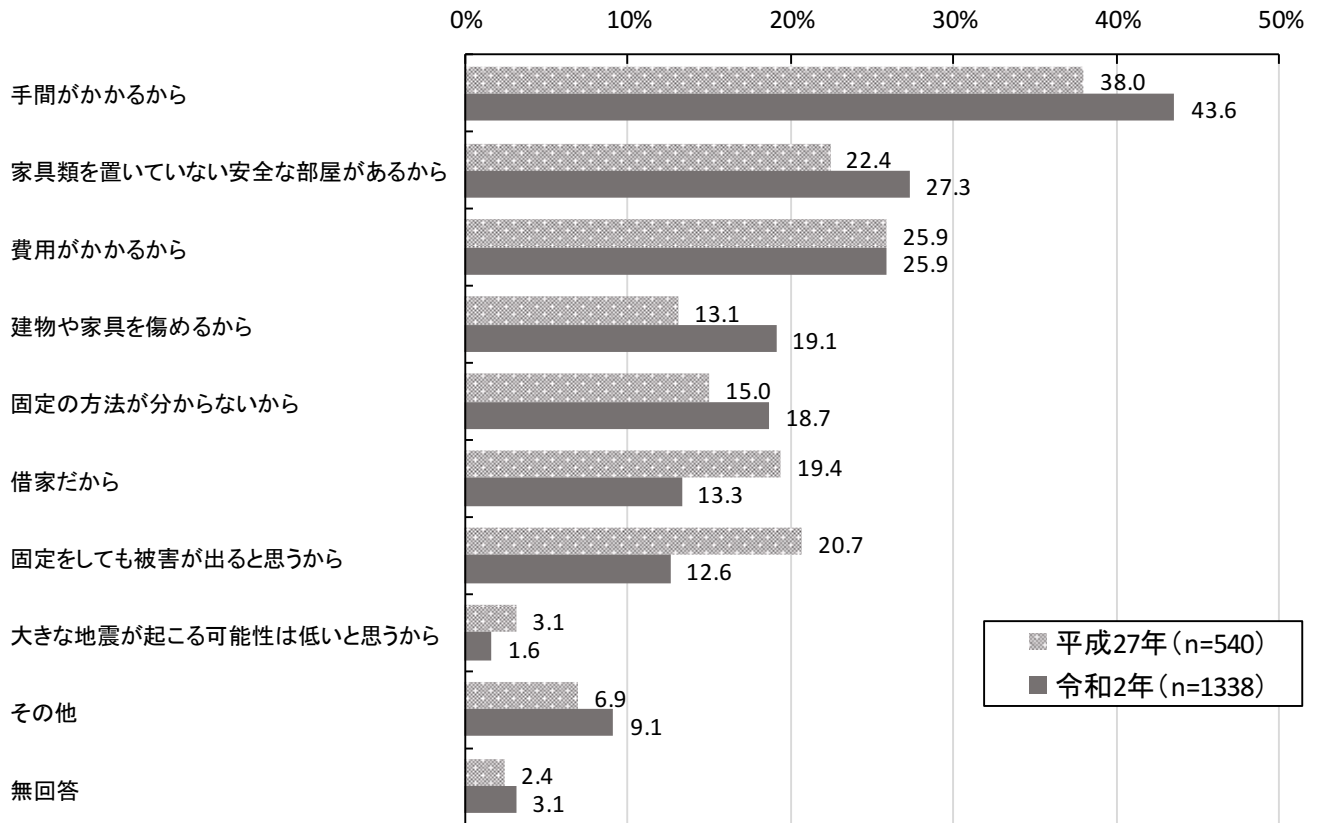
IV 調査結果

【性別・年代別】

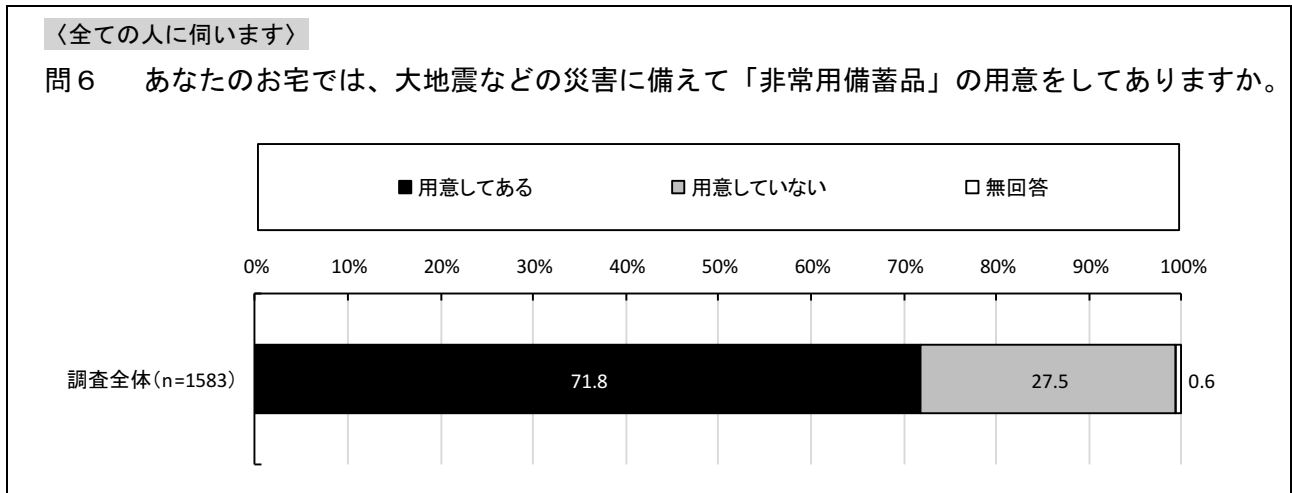


平成27年度の調査結果と比較すると、「手間がかかるから」、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」、「建物や家具を傷めるから」、「固定の方法が分からないから」が増加している。一方、「借家だから」、「固定しても被害が出ると思うから」は減少している。

【経年変化】



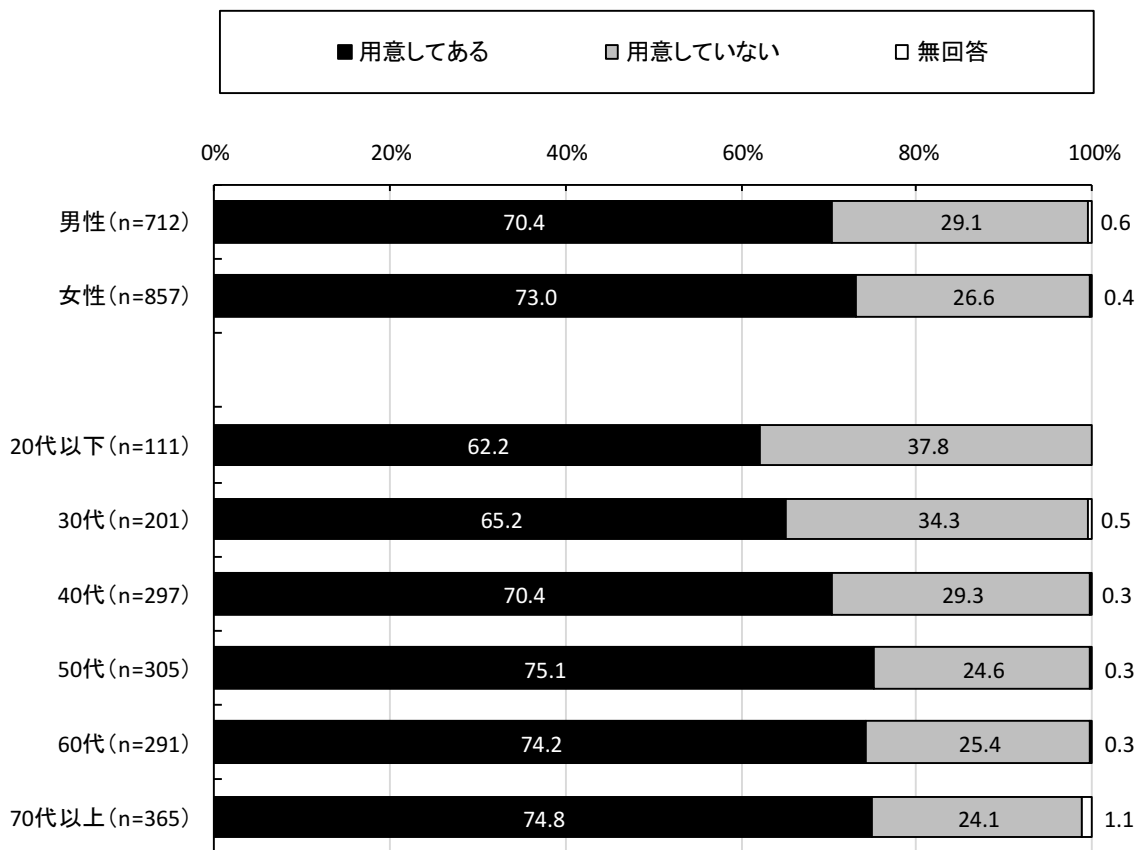
(3) 非常用備蓄品の用意



非常用備蓄品の用意について尋ねたところ、「用意してある」が71.8%、「用意していない」が27.5%となった。

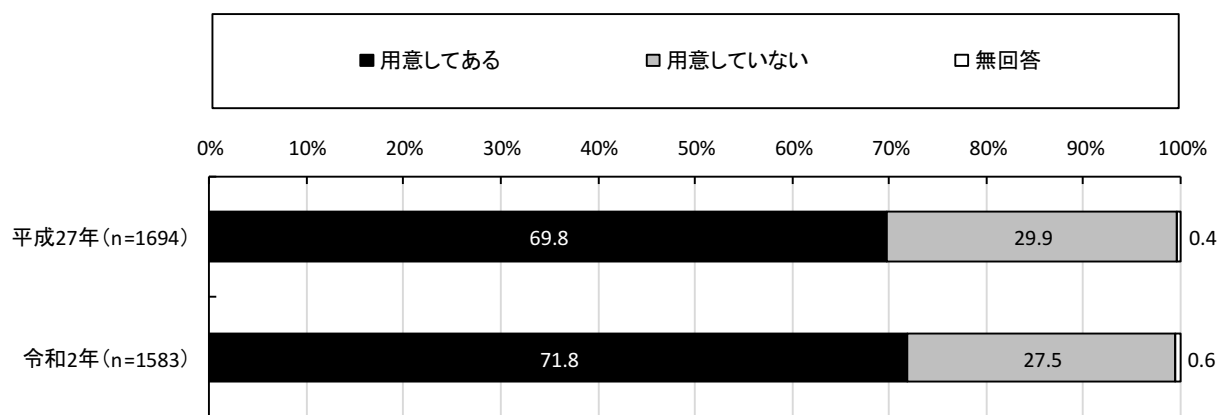
年代別で見ると、「用意してある」が年代を追うごとに高くなる傾向となっており、40代以上では7割以上に上る。一方で、30代以下では「用意していない」が3割以上を占めている。

【性別・年代別】



平成 27 年度の調査結果と比較しても、大きな変化は見られなかった。

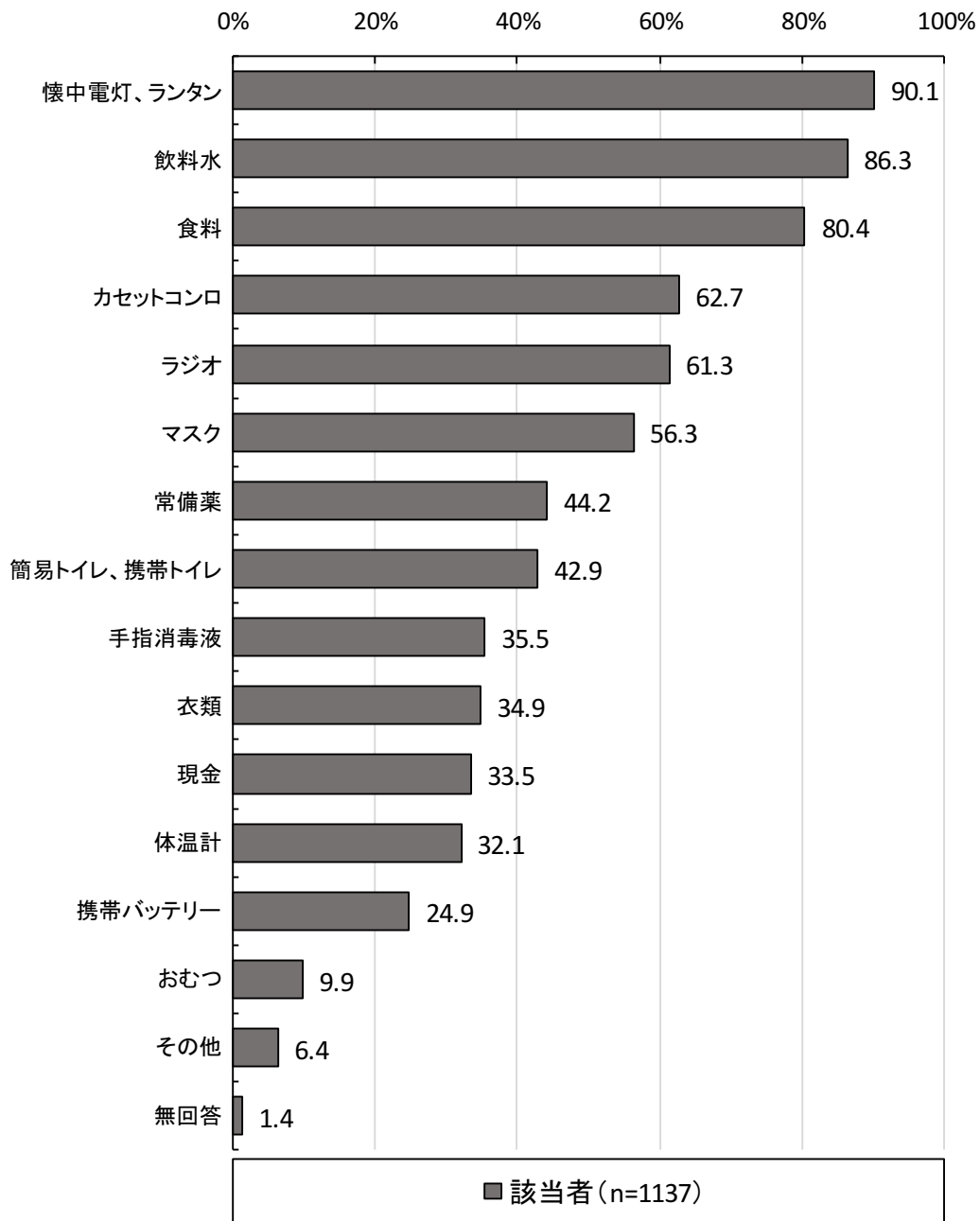
【経年変化】



(4) 非常用備蓄品で用意しているもの

〈問6で「1 用意してある」と答えた人に伺います〉

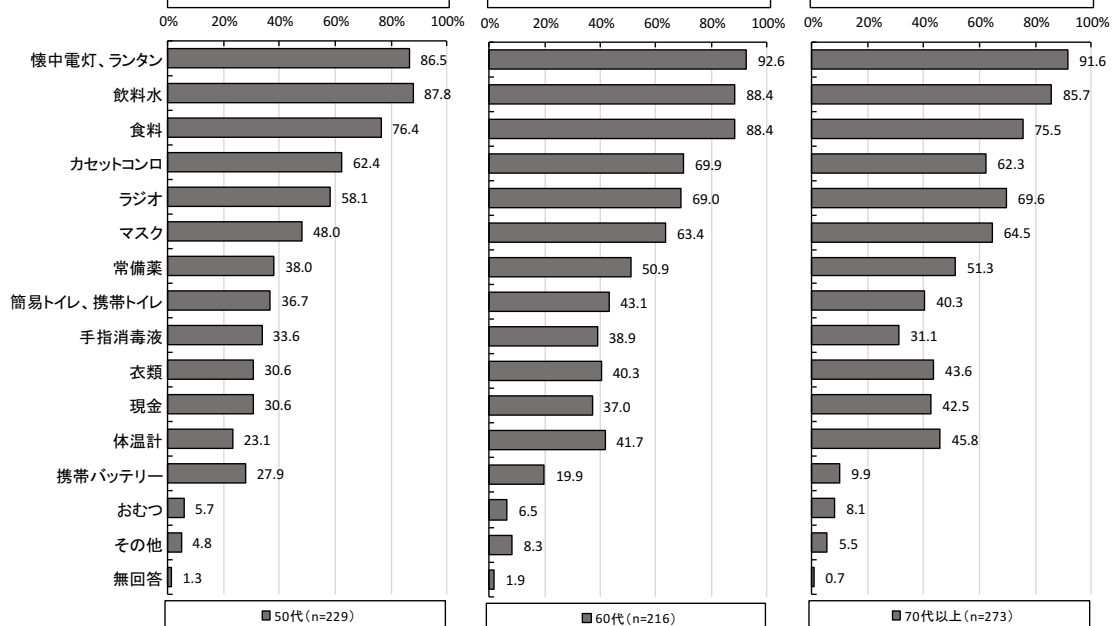
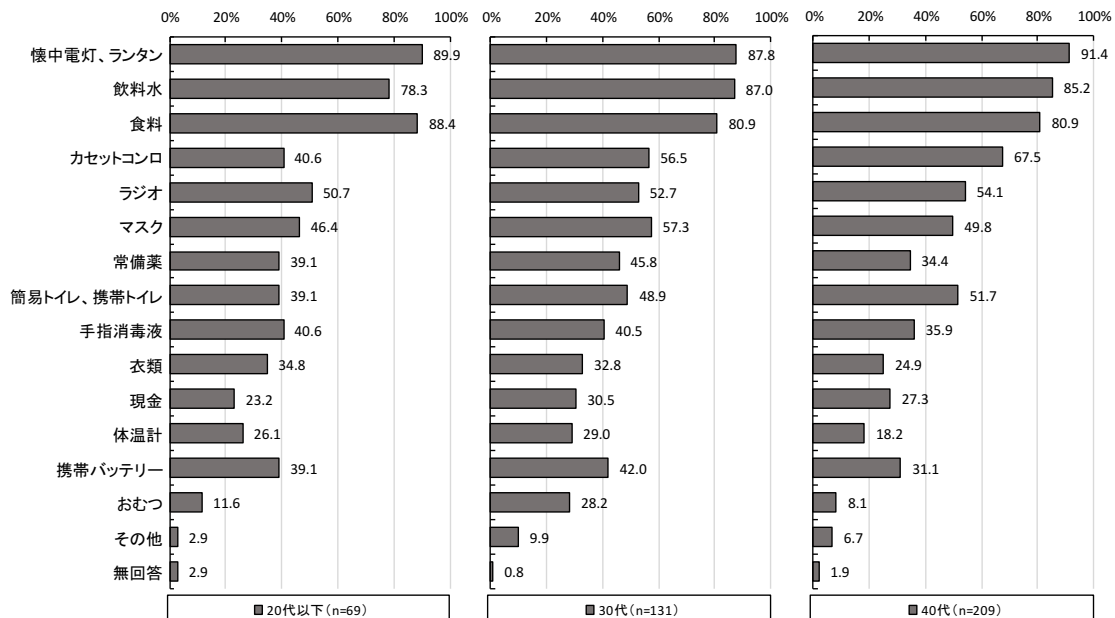
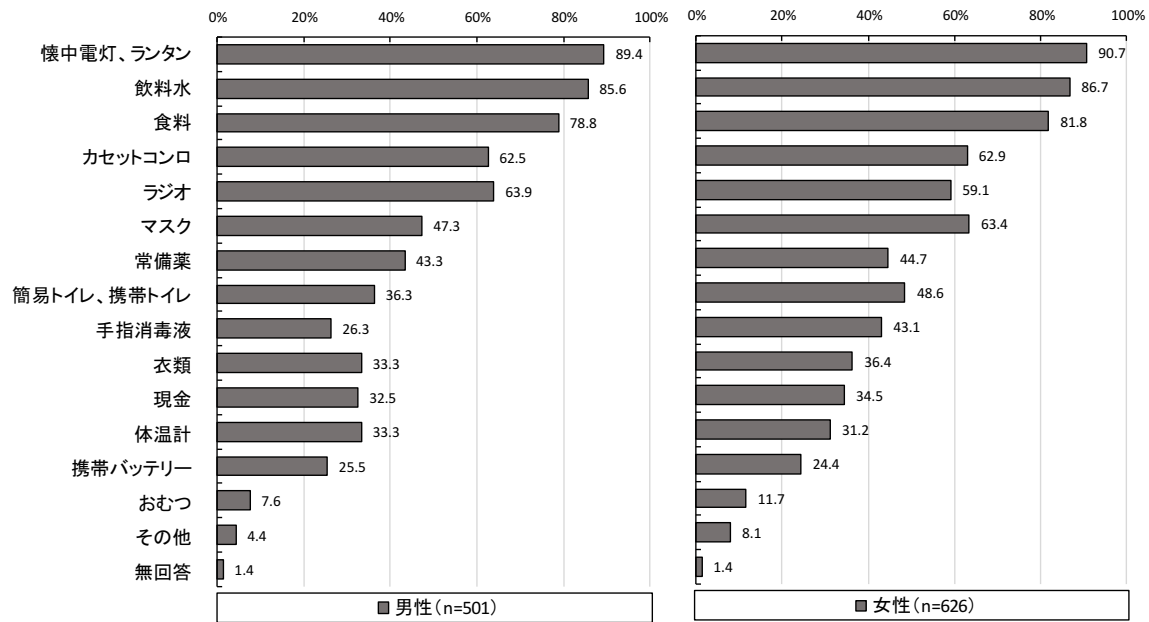
問6-1 「非常用備蓄品」としてどのようなものを用意してありますか。
次の中から用意してあるものを全て選んでください。



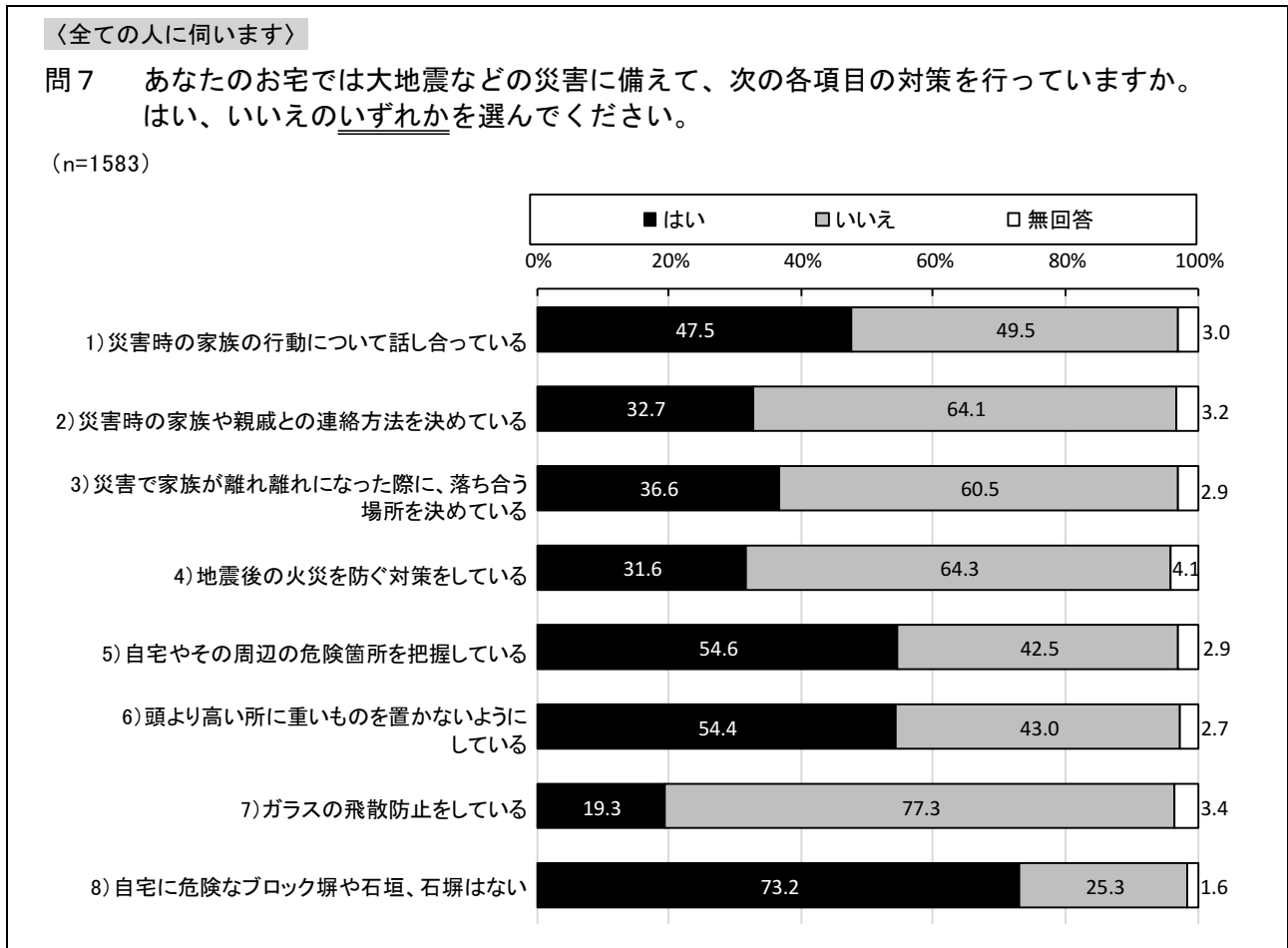
非常用備蓄品で用意してあるものを尋ねたところ、「懐中電灯、ランタン」が 90.1%で最も高く、次いで「飲料水」が 86.3%、「食料」が 80.4%と続いている。そのほか「カセットコンロ」62.7%、「ラジオ」61.3%、「マスク」56.3%となっており、5割以上と高い。

年代別で見ても上位3つは変わらない。30代と40代では「簡易トイレ、携帯トイレ」、60代以上では「常備薬」なども高くなっている。

【性別・年代別】



(5) 大地震などの災害への対策



大地震などの災害への対策について尋ねたところ、“5) 自宅やその周辺の危険箇所を把握している”、“6) 頭より高い所に重いものを置かないようにしている”、“8) 自宅に危険なブロック塀や石垣、石塀はない”などの項目で「はい」と回答した人が5割以上を占めている。

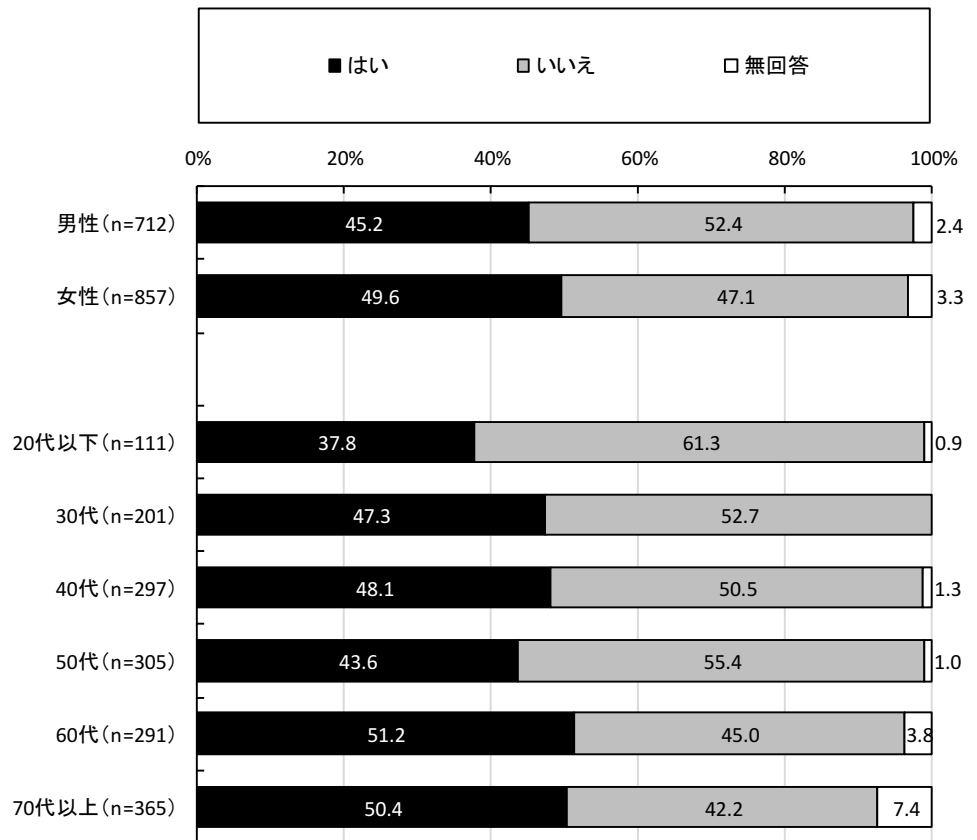
一方で、“2) 災害時の家族や親戚との連絡方法を決めている”、“3) 災害で家族が離れ離れになった際に、落ち合う場所を決めている”、“4) 地震後の火災を防ぐ対策をしている”などは「はい」とした人が3割台にとどまり、“7) ガラスの飛散防止をしている”については2割に満たない。

【性別・年代別】

1) 災害時の家族の行動について話し合っている

性別で見ると、「はい」と回答した人は男性で45.2%、女性で49.6%と女性がやや高くなっている。

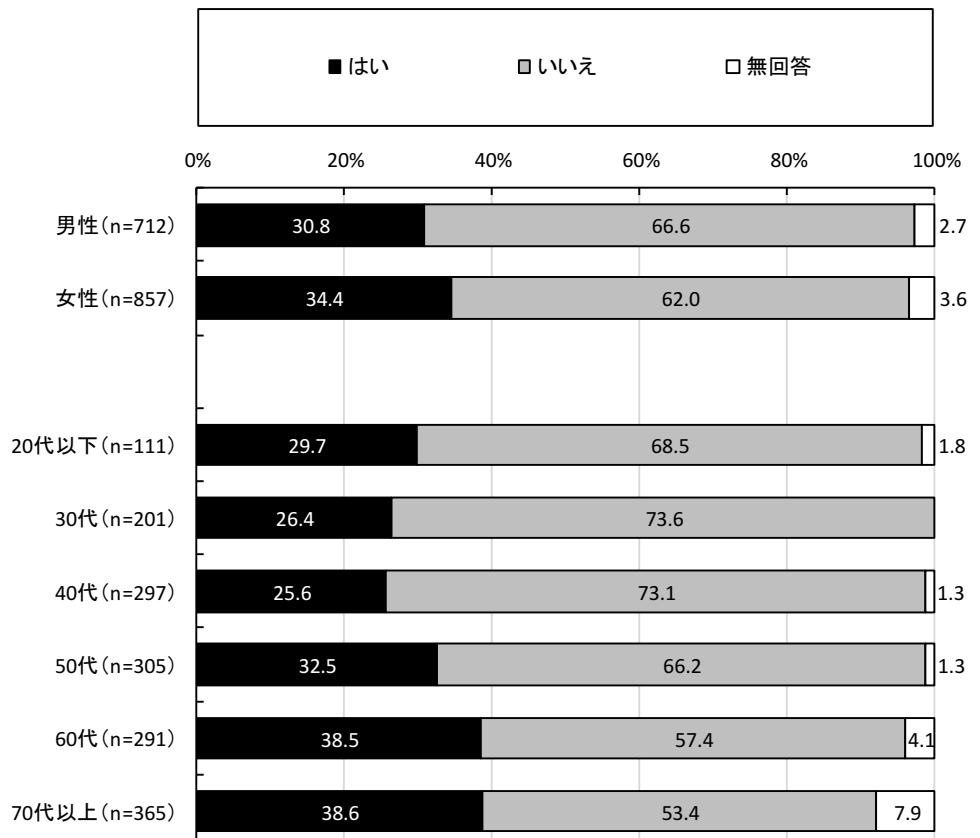
年代別では、その割合は20代以下では4割に満たず、60代以上では5割以上となっている。



2) 災害時の家族や親せきとの連絡方法を決めている

性別で見ると、「はい」と回答した人は男性で30.8%、女性で34.4%と女性がやや高くなっている。

年代別では、その割合は40代以下では3割に満たず、特に30代、40代は他の年代と比べて低くなっている。60代以上では4割近い数値となっている。

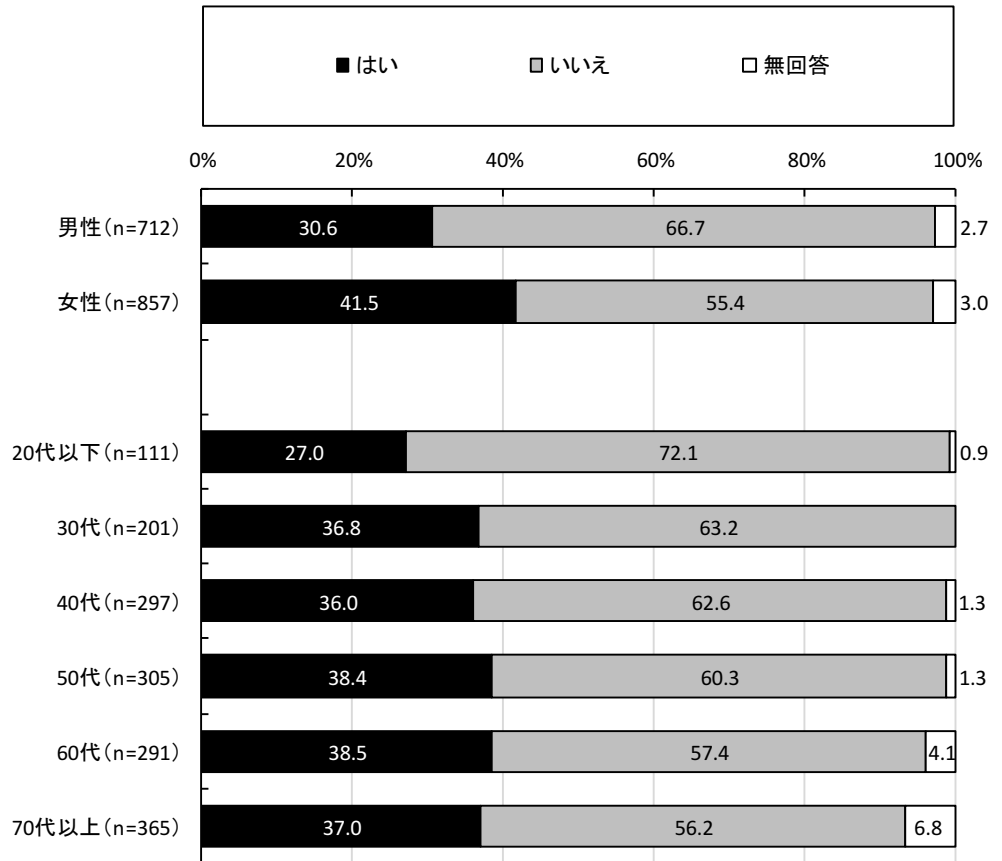


IV 調査結果

3) 災害で家族が離れ離れになった際に、落ち合う場所を決めている

性別で見ると、「はい」と回答した人は男性で30.6%、女性が41.5%で女性のほうが高い。

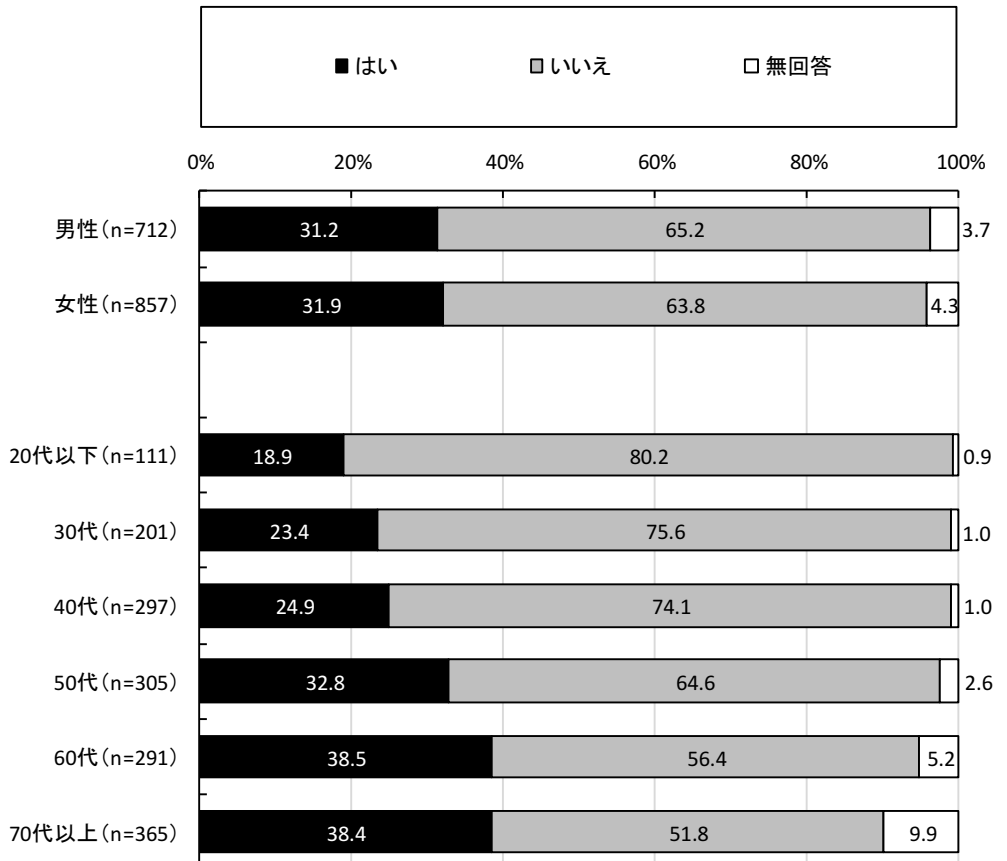
年代別では、その割合は20代以下では27.0%と他の年代と比べて低くなっているが、30代以上では軒並み4割近い数値となっている。



4) 地震後の火災を防ぐ対策をしている

性別で見ると、「はい」と回答した人は男女間で差は見られない。

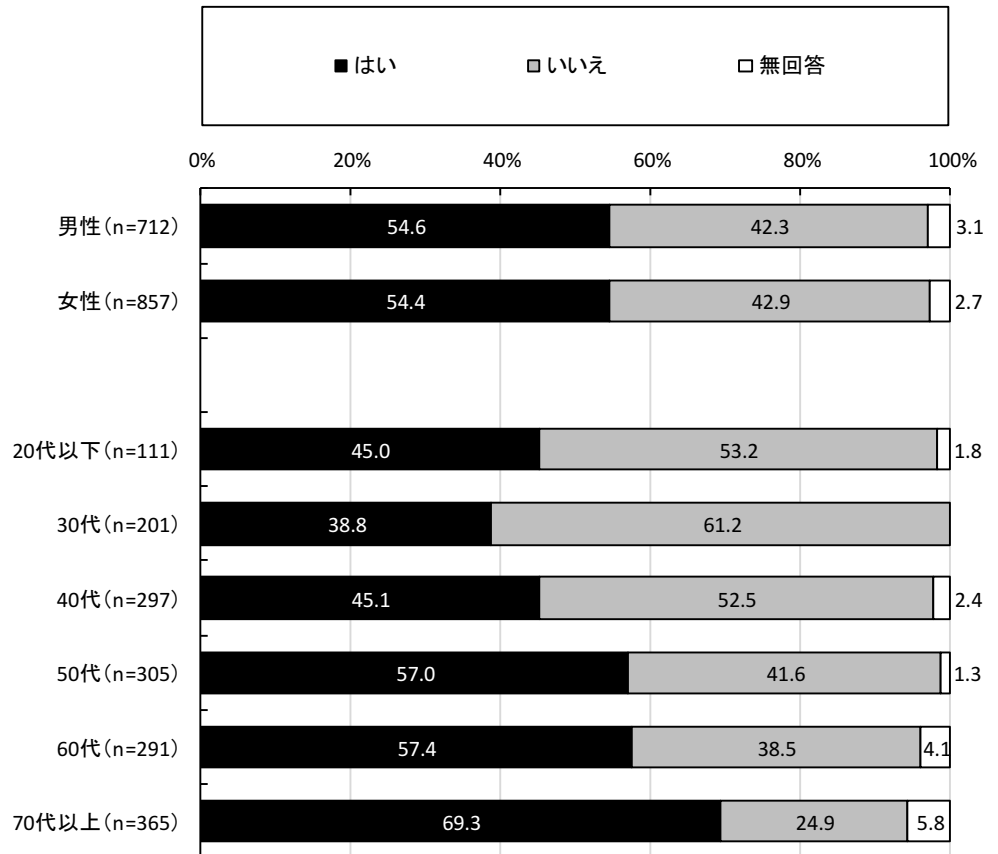
年代別では、その割合は年代を追うごとに高くなっており、40代以下ではおよそ2割、50代以上では3割以上となっている。



5) 自宅やその周辺の危険箇所を把握している

性別で見ると、「はい」と回答した人は男女間で差は見られない。

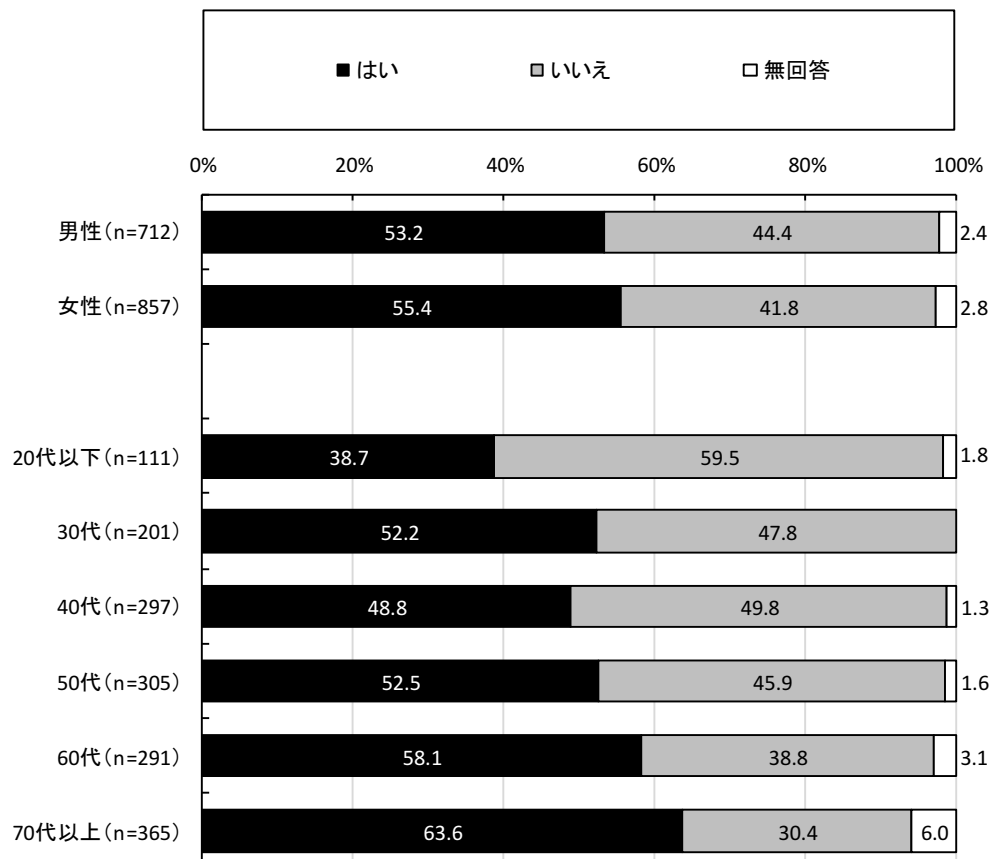
年代別では、その割合は年代を追うごとに高くなる傾向にあり、40代以下では5割に満たないが、50代以上ではおよそ6～7割に上る。



6) 頭より高い所に重いものを置かないようにしている

性別で見ると、「はい」と回答した人は男女間で差は見られない。

年代別では、その割合は年代を追うごとに高くなる傾向にあり、20代以下では4割に満たないが、30代～50代ではおよそ5割、60代以上になるとおよそ6割となっている。

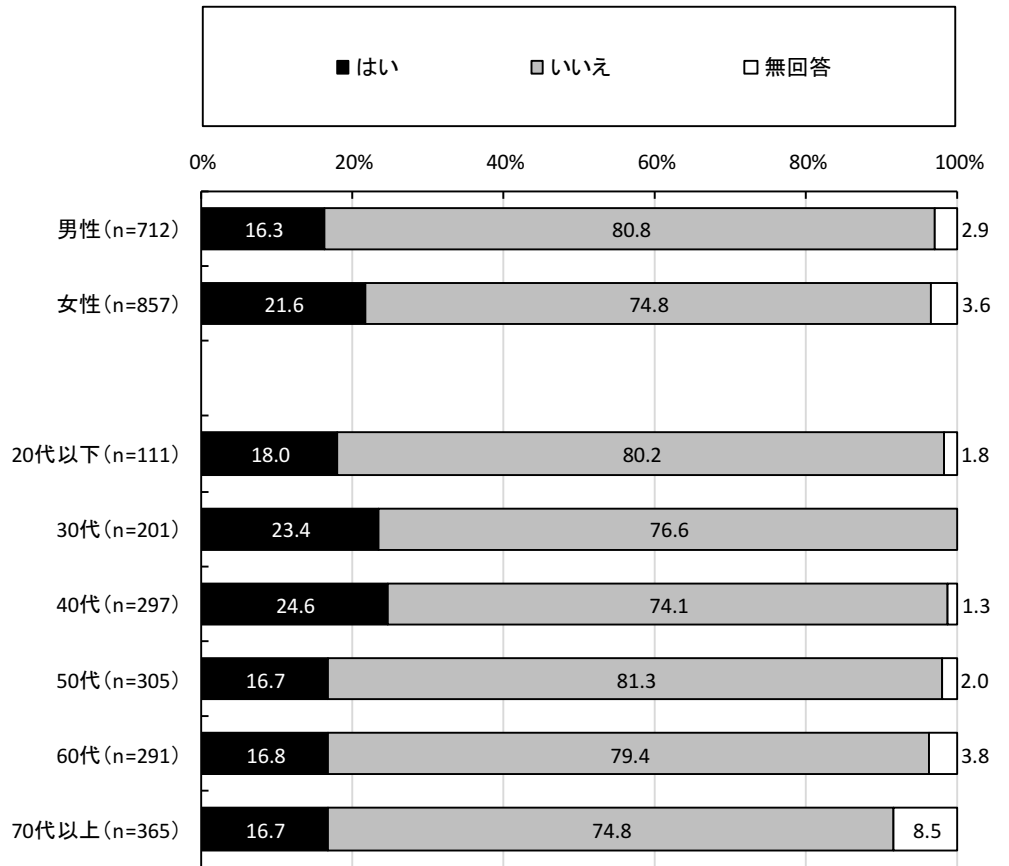


IV 調査結果

7) ガラスの飛散防止をしている

性別で見ると、「はい」と回答した人は男性で16.3%、女性で21.6%と女性のほうが高くなっている。

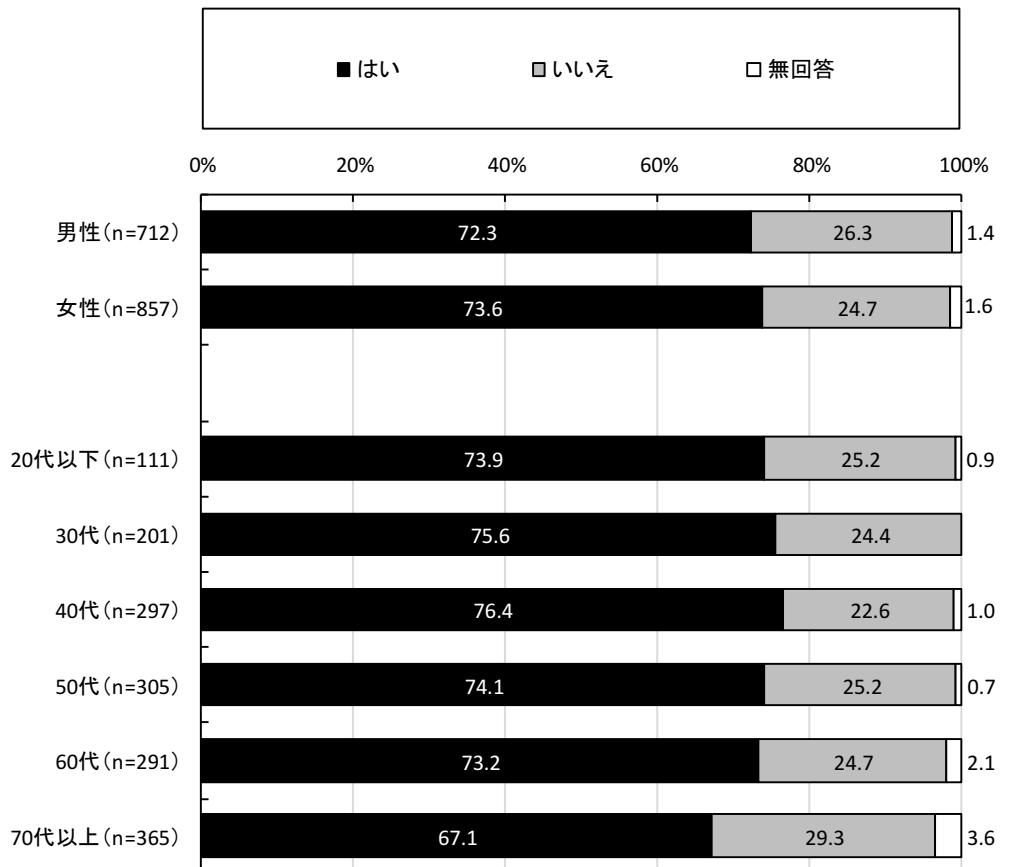
年代別では、その割合は30代と40代の子育て世代で2割台と他の年代よりも高くなっている。



8) 自宅に危険なブロック塀や石垣、石塀はない

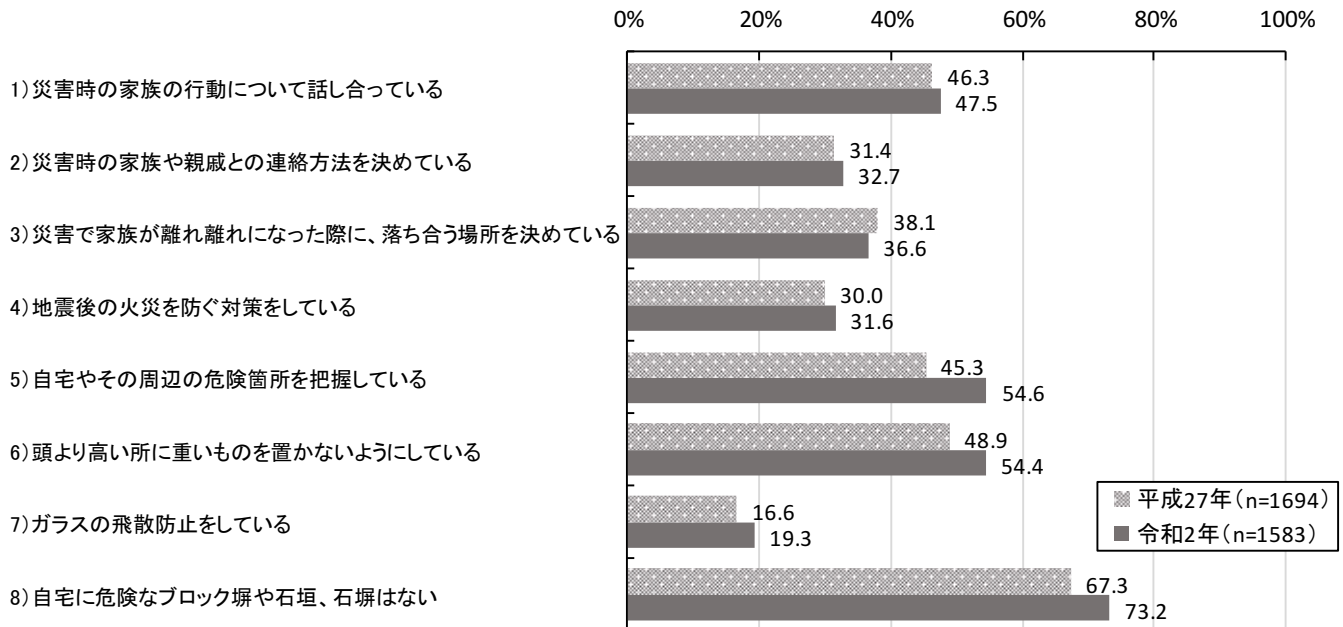
性別で見ると、「はい」と回答した人の割合は男女間で差は見られない。

年代別では、60代以下では軒並み7割台となっているが、70代以上では67.1%とやや低くなっている。



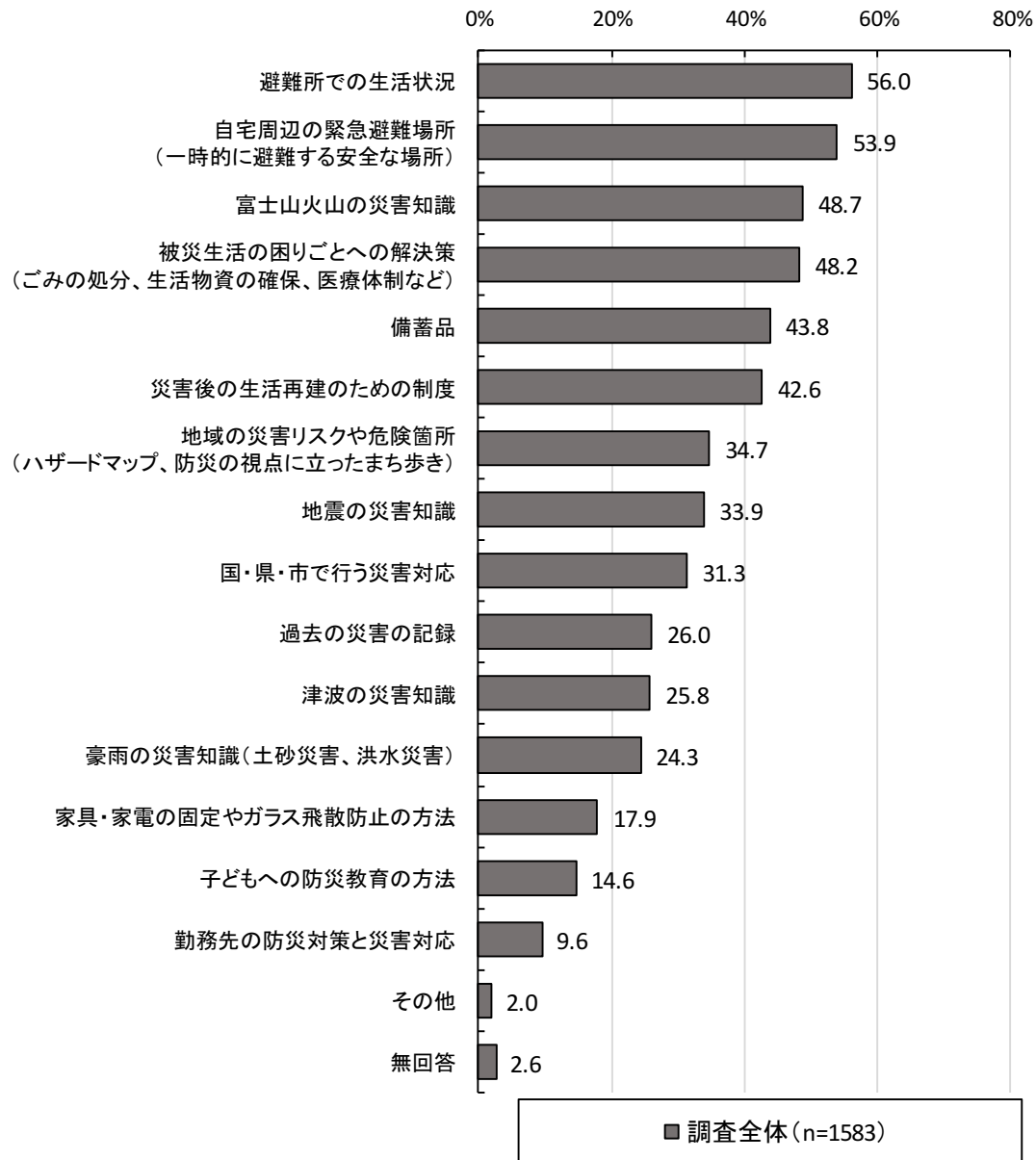
平成27年度の調査結果と比較すると、「自宅やその周辺の危険箇所を把握している」は9.3ポイント、「頭より高い所に重いものを置かないようにしている」は5.5ポイント、「自宅に危険なブロック塀や石垣、石塀はない」は5.9ポイント増加している。

【経年変化】



(6) 防災対策について知りたいこと

問8 家庭や地域での防災対策を考えると、どのようなことを知りたいと思いますか。
次の中から当てはまるものを全て選んでください。

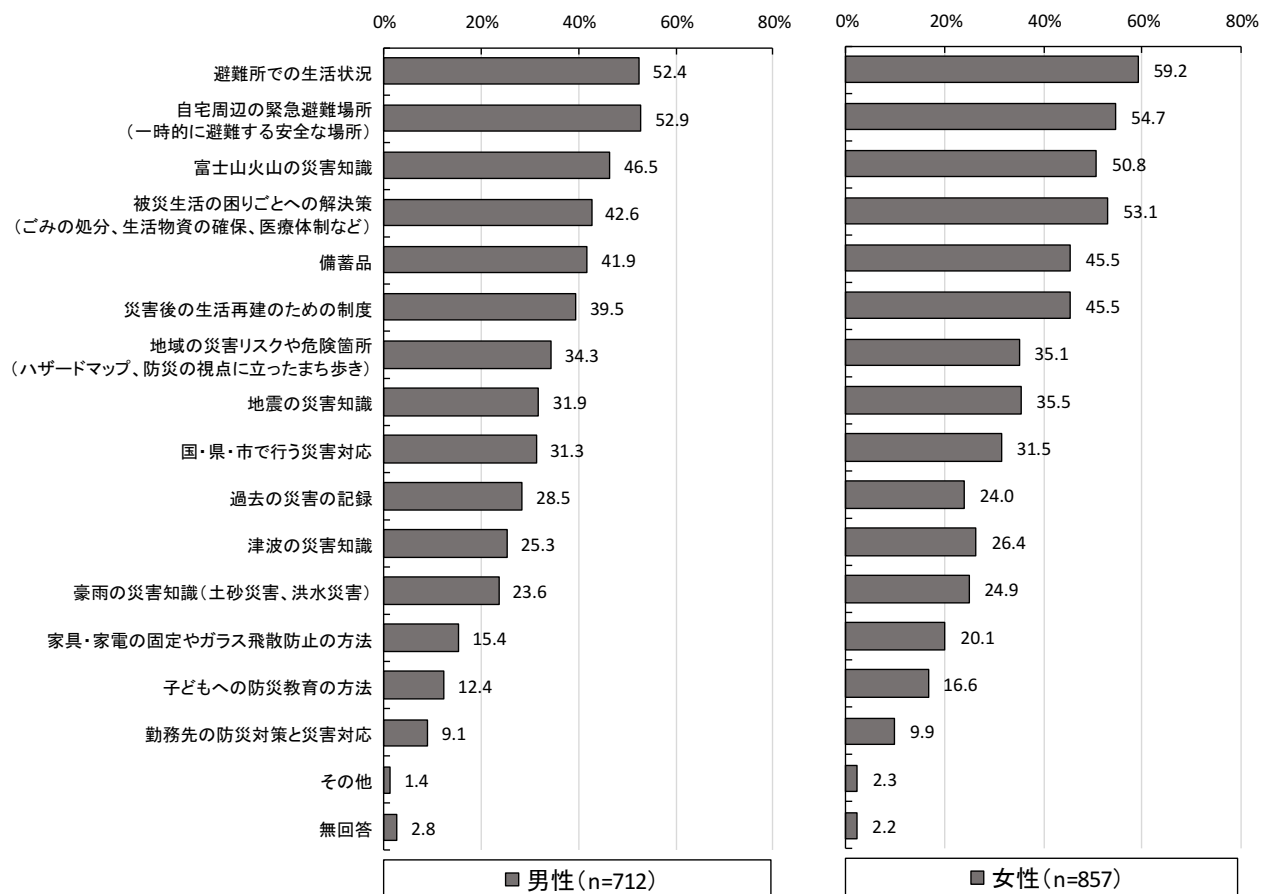


防災対策を考えると知りたいことについて尋ねたところ、「避難所での生活状況」が56.0%と最も高く、次いで「自宅周辺の緊急避難場所」53.9%、「富士山火山の災害知識」48.7%、「被災生活の困りごとへの解決策」48.2%、「備蓄品」43.8%、「災害後の生活再建のための制度」42.6%と続く。

性別で見ると、全体的な傾向に大きな差は見られないが、「避難所での生活状況」や「被災生活の困りごとへの解決策」、「災害後の生活再建のための制度」は男性よりも女性で特に高くなっている。

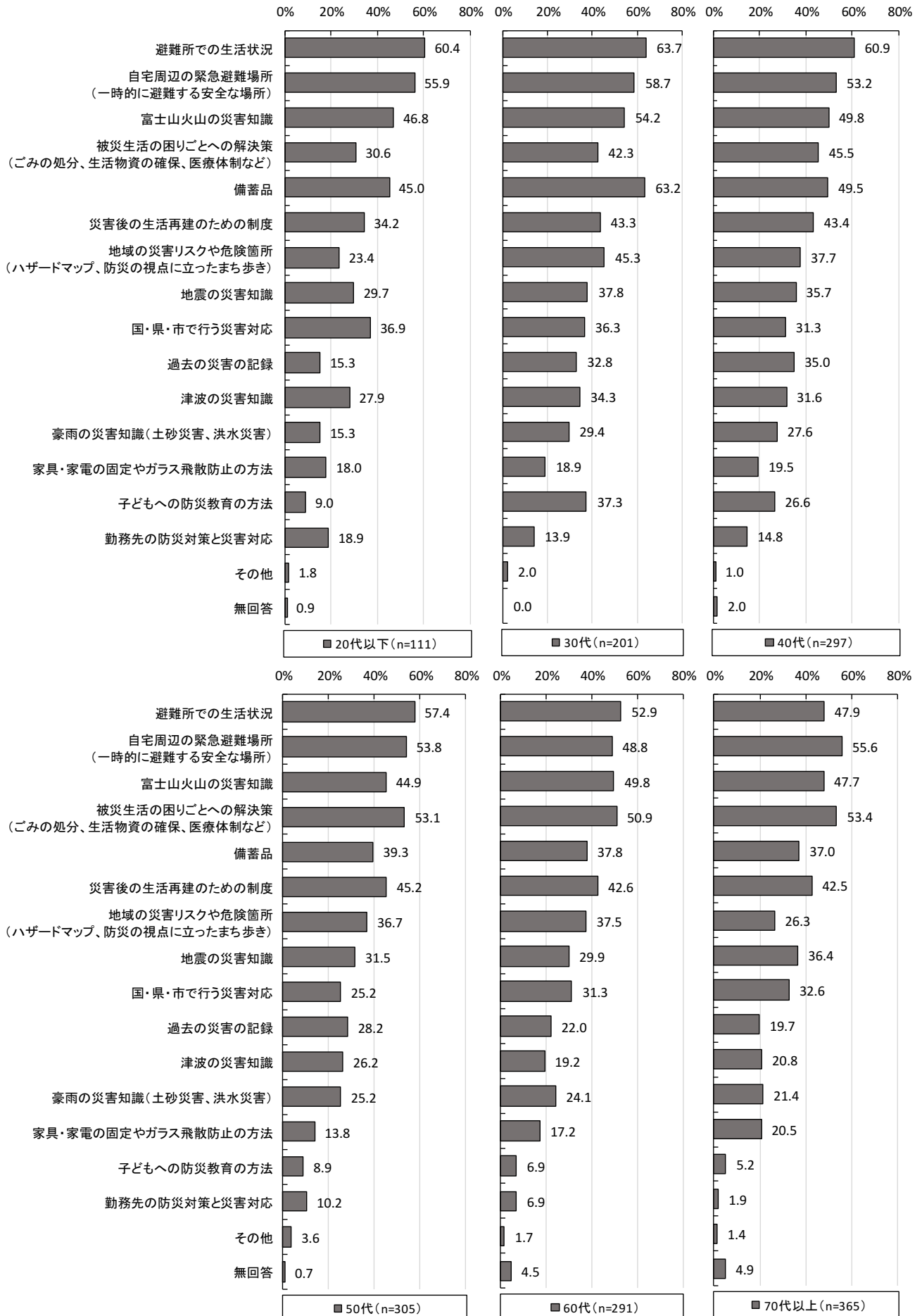
年代別で見ると、30代では「備蓄品」が、30代と40代の子育て世代では「子どもへの災害教育の方法」が他の年代と比較して高くなっている。「避難所での生活状況」については、年代の若いほうが、やや高くなっている。

【性別】



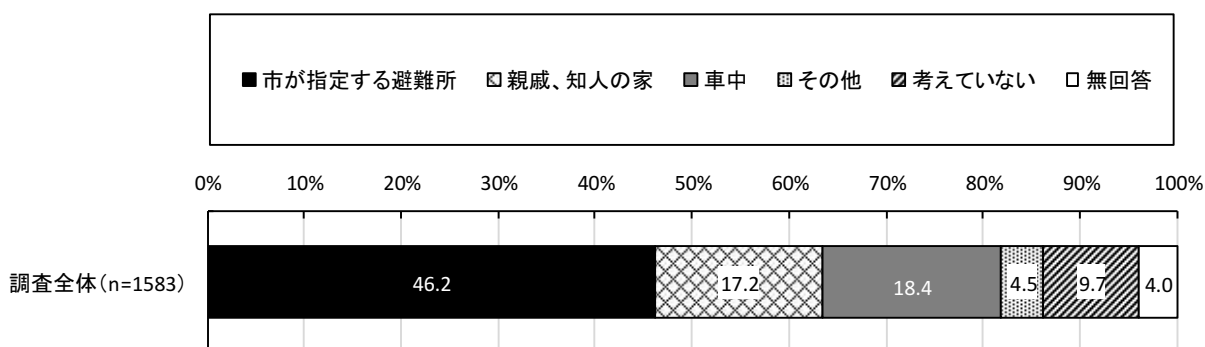
IV 調査結果

【年代別】



(7) 避難生活を送る場所

問9 地震等の災害で自宅が損壊した場合、あなたはどこで避難生活を送りますか。
次の中から1つだけ選んでください。

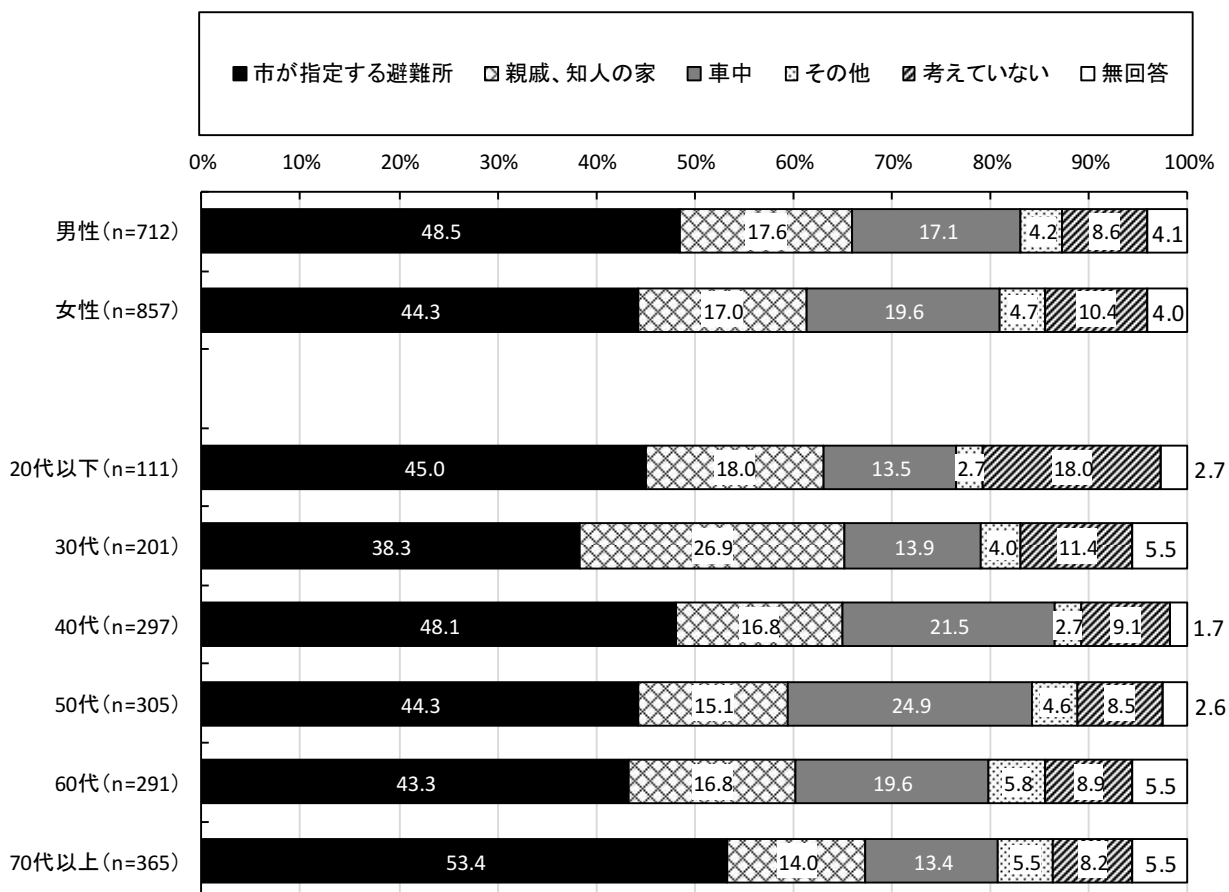


避難生活を送る場所について尋ねたところ、「市が指定する避難所」が46.2%と最も高く、次いで「車中」が18.4%、「親戚・知人の家」が17.2%となった。

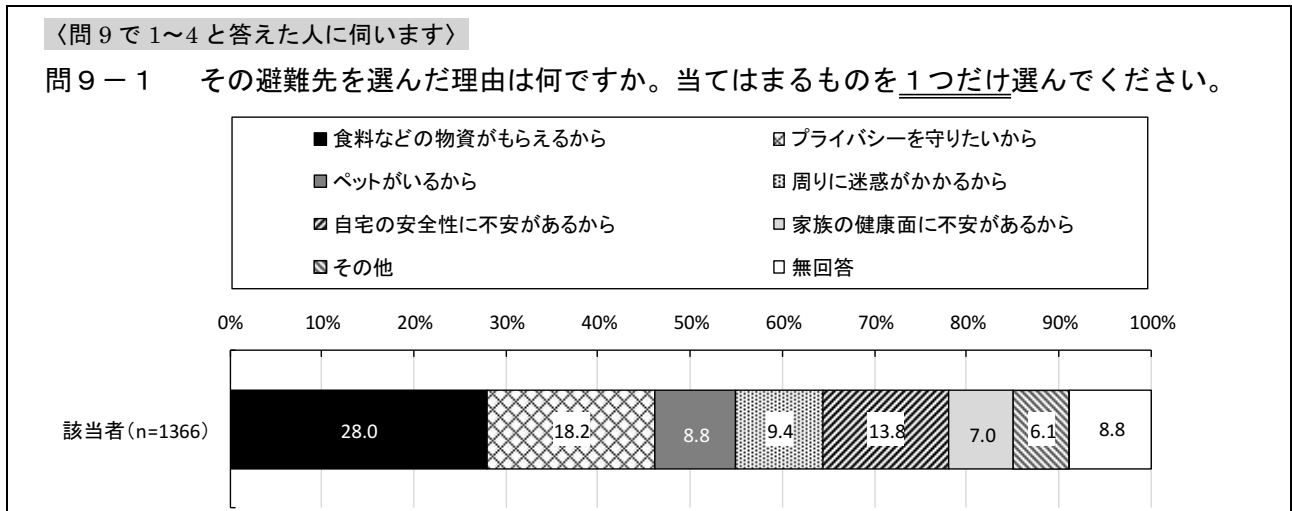
性別では、男女間に大きな差は見られない。

年代別に見ると、30代では「市が指定する避難所」が他の年代と比べて低く、「親戚・知人の家」が26.9%と高くなっている。40代と50代においては「車中」が2割台で高めとなっている。

【性別・年代別】



(8) 避難先を選んだ理由



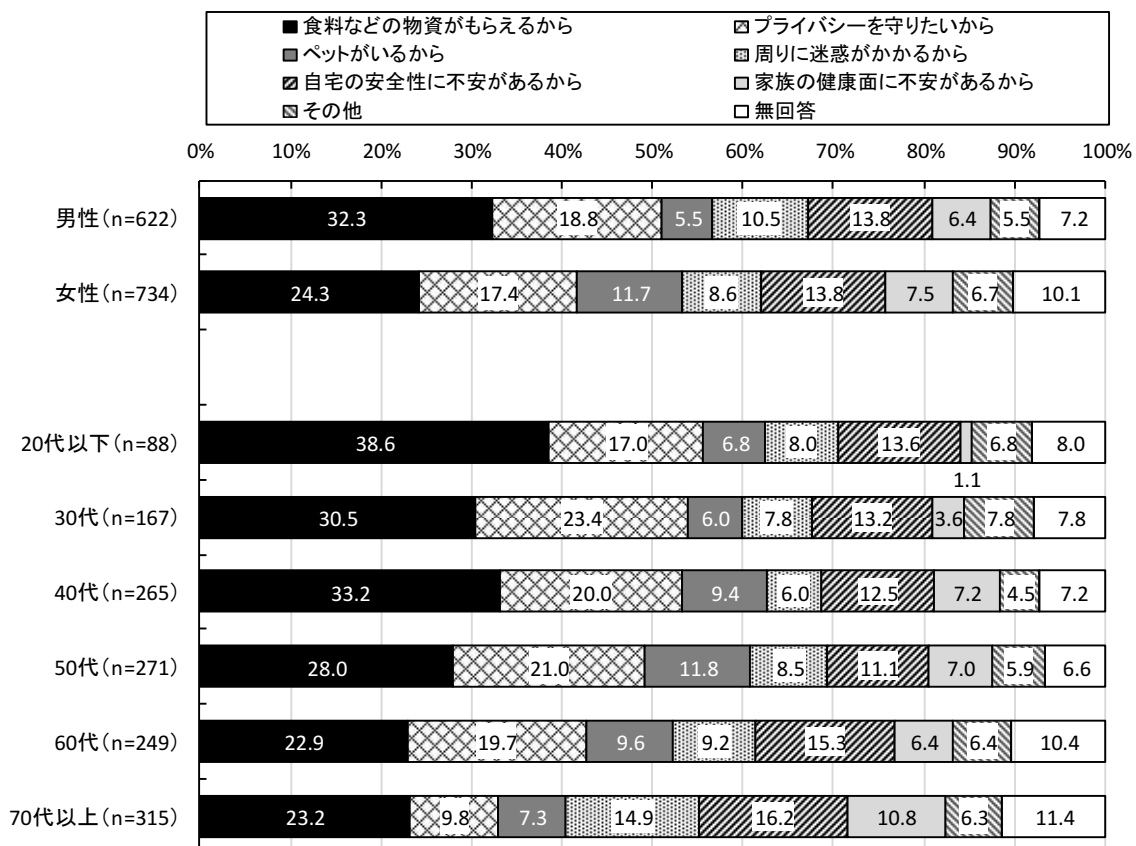
避難生活を送る場所として、その避難先を選んだ理由を尋ねたところ、「食料などの物資がもらえるから」が28.0%と最も高く、次いで「プライバシーを守りたいから」が18.2%、「自宅の安全性に不安があるから」が13.8%となった。

性別で見ると、「食料などの物資がもらえるから」は男性で特に高く、「ペットがいるから」は女性で高めとなっている。

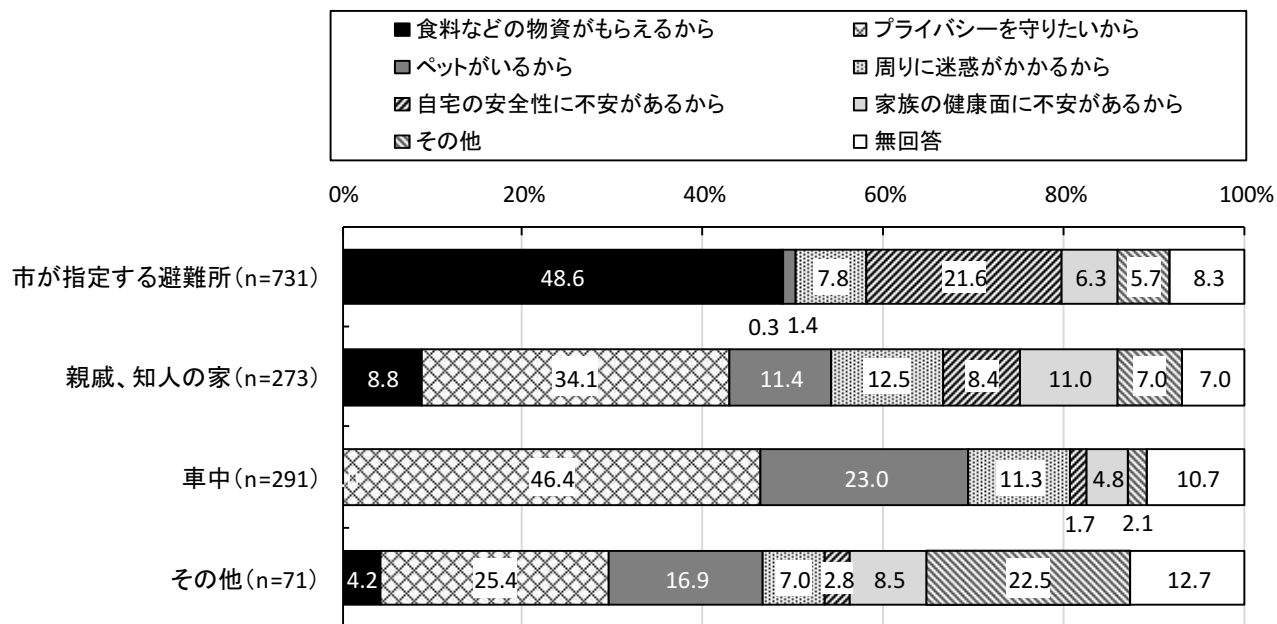
年代別に見ると、「食料などの物資がもらえるから」は年代の若いほうが高くなっている。60代以上では「周りに迷惑がかかるから」や「自宅の安全性に不安があるから」が他の年代と比べて高めとなっている。

選んだ避難先別に見ると、“市が指定する避難所”で「食料などの物資がもらえるから」が5割近くに上り、“親切、知人の家”と“車中”では「プライバシーを守りたいから」が最も高くなっている。

【性別・年代別】



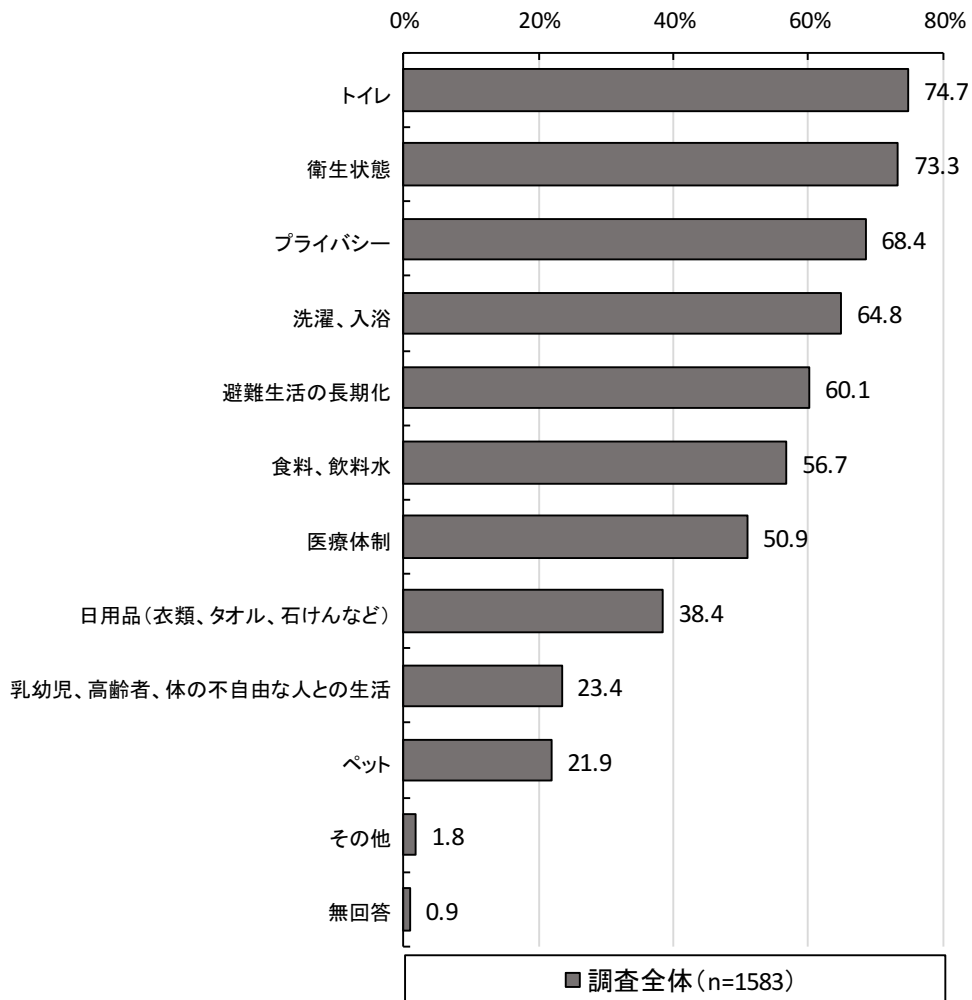
【選んだ避難先別】



(9) 避難生活で心配なこと

〈全ての人に伺います〉

問 10 市が指定する避難所で避難生活を送ることになった場合、どのようなことが心配ですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

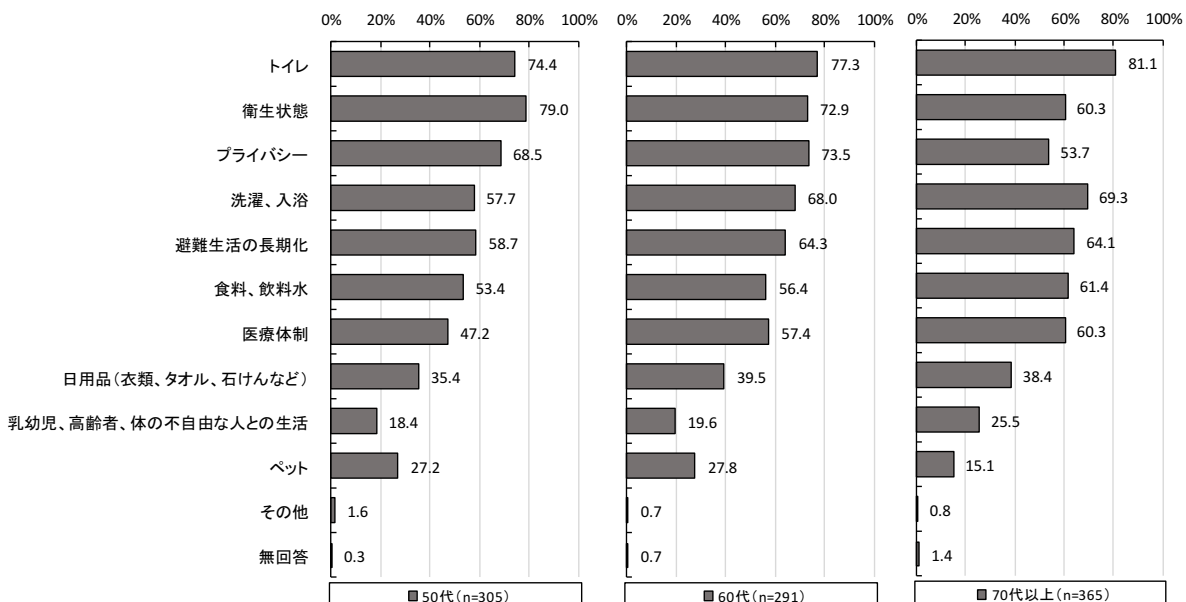
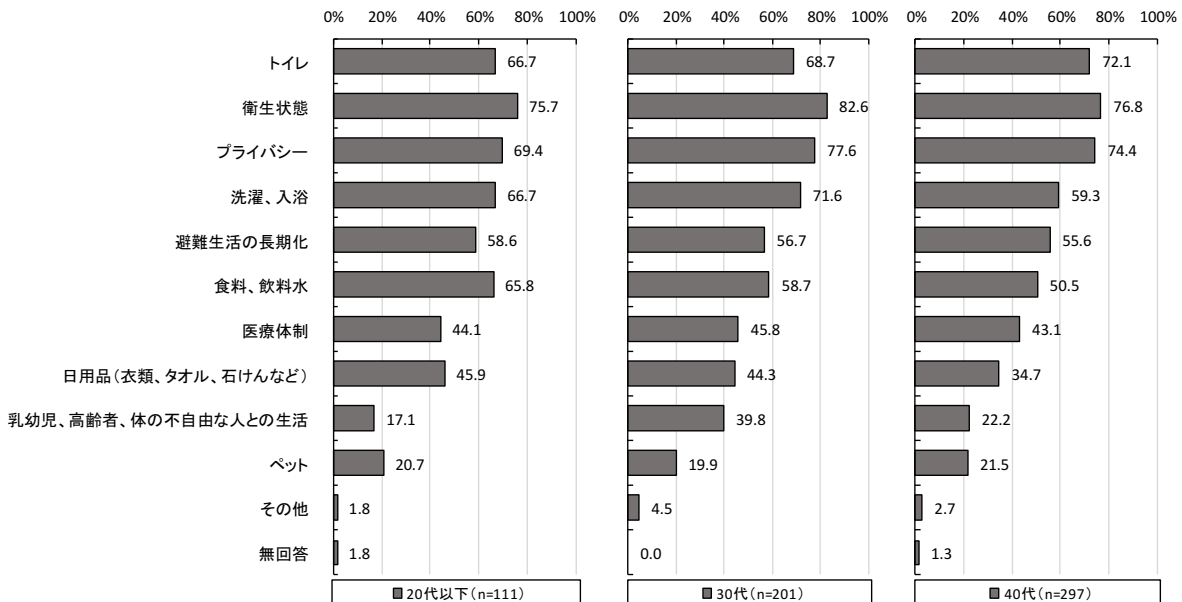
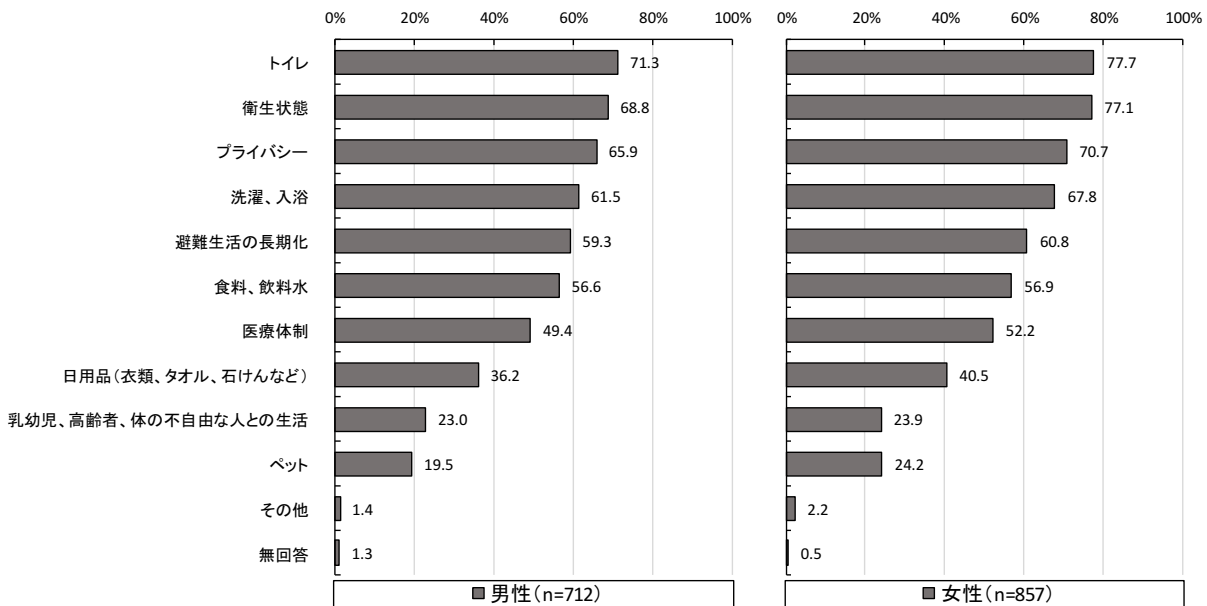


避難生活で心配なことについて尋ねたところ、「トイレ」が74.7%で最も高く、次いで「衛生状態」73.3%、「プライバシー」68.4%、「洗濯、入浴」64.8%、「避難生活の長期化」60.1%、「食料、飲料水」56.7%、「医療体制」50.9%と続く。

性別で見て、男女間で大きな差は見られない。

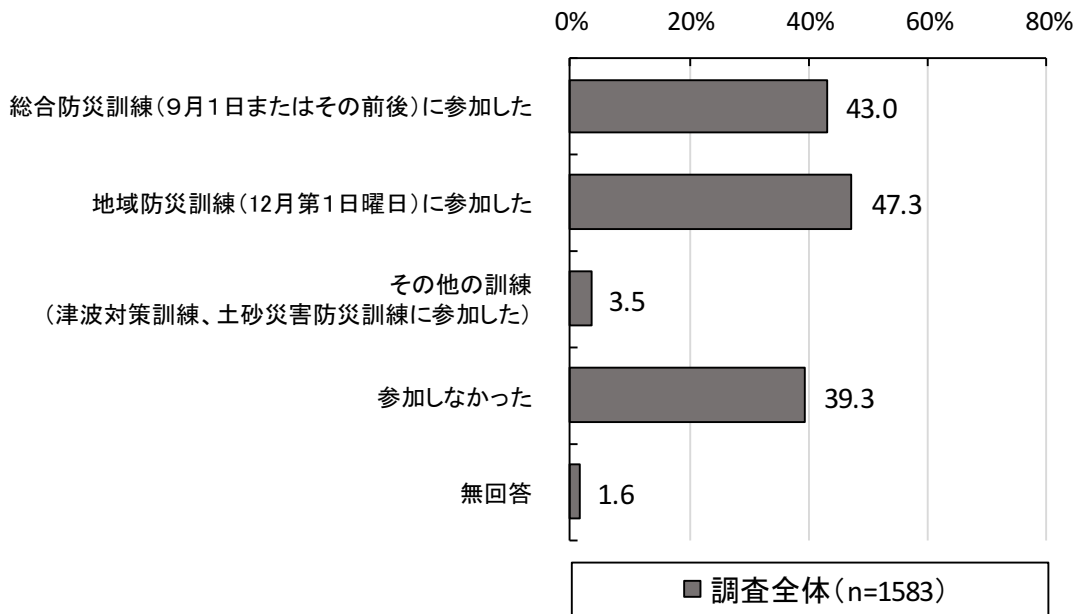
年代別で見ると、上位6つはいずれの年代も軒並み5割以上と高い。そのほか、30代では「乳幼児、高齢者、体の不自由な人との生活」が、50代と60代では「ペット」、60代と70代以上では「医療体制」が他の年代と比べて高くなっている。

【性別・年代別】



(10) 過去2年間で参加した防災訓練

問11 過去2年間で、地域で行う防災訓練のうち参加したものはありますか。
次の中から当てはまるものを全て選んでください。



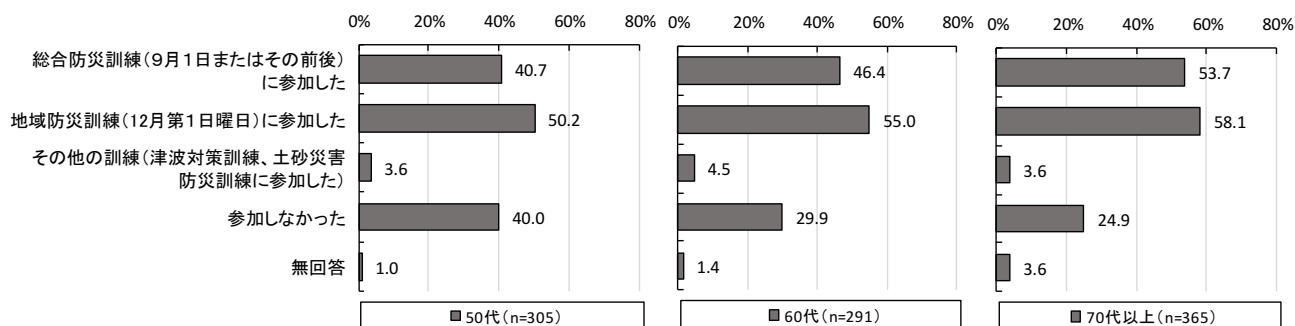
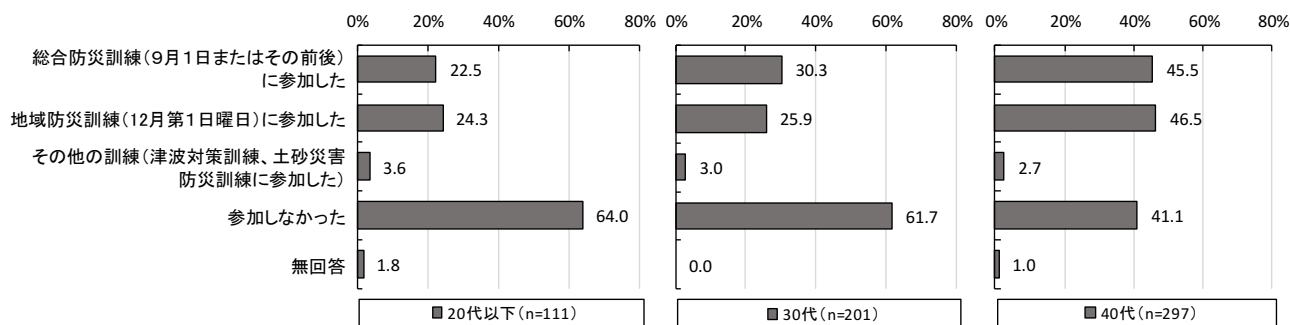
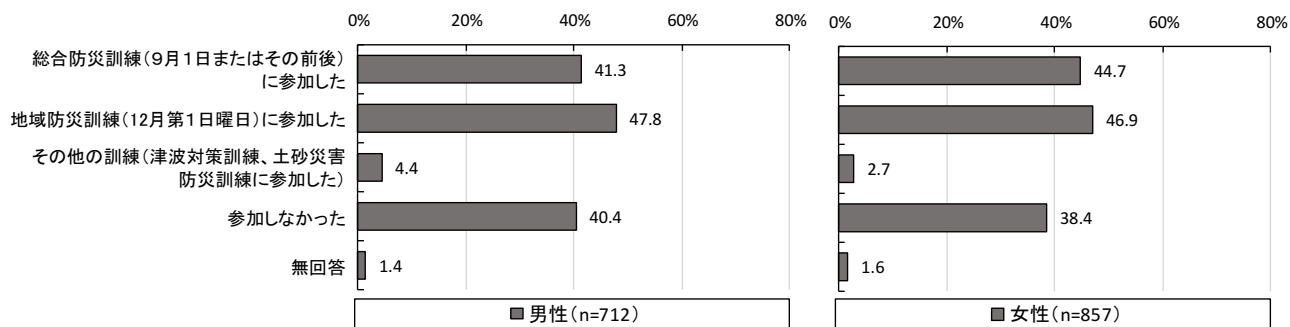
過去2年間で参加した防災訓練について尋ねたところ、「総合防災訓練(9月1日またはその前後)」が43.0%、「地域防災訓練(12月第1日曜日)」が47.3%となった。「参加しなかった」は39.9%。

性別で見て、男女間で大きな差は見られなかった。

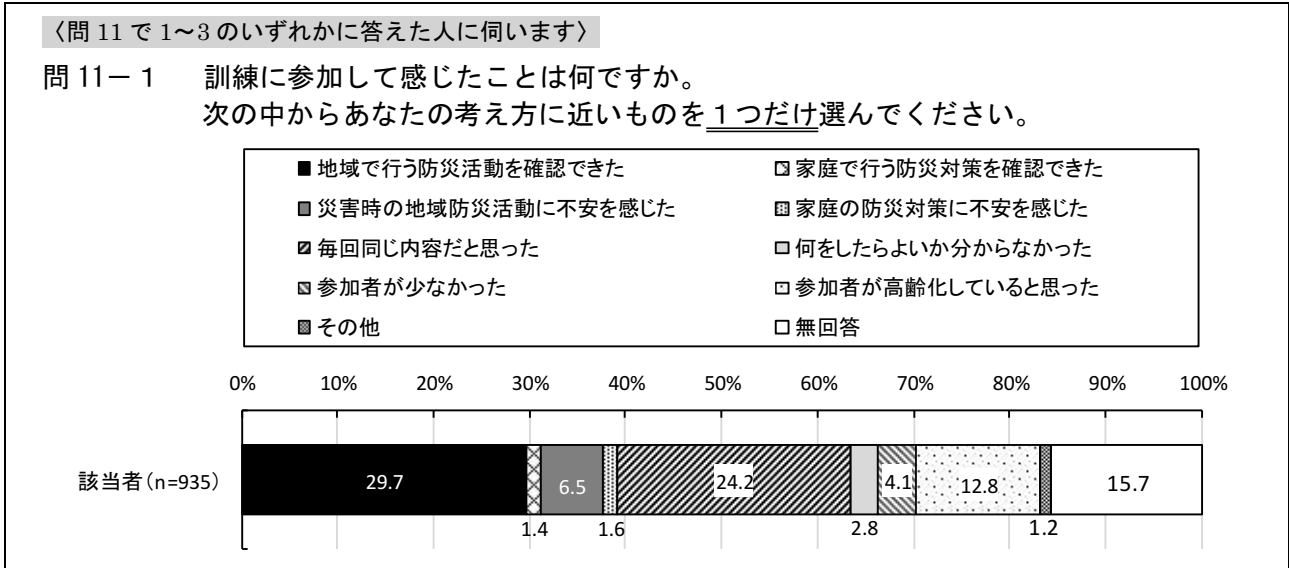
年代別で見ると、20代以下と30代ではいずれの防災訓練も3割以下と低い参加率となっており、「参加しなかった」が6割に上る。

一方、70代以上では「総合防災訓練(9月1日またはその前後)」が53.7%、「地域防災訓練(12月第1日曜日)」が58.1%と他の年代と比べて最も高い数値になっている。

【性別・年代別】



(11) 訓練で感じたこと

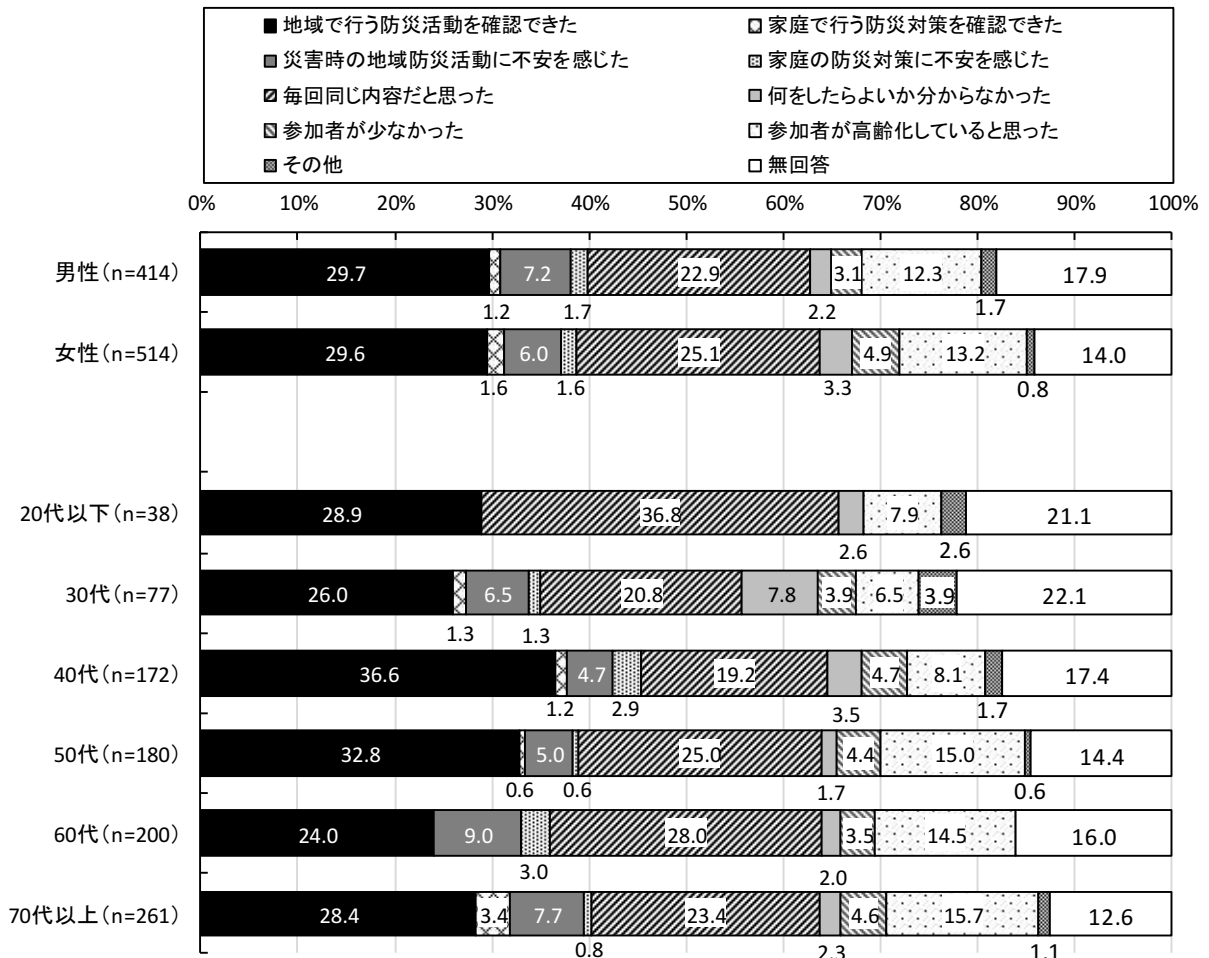


訓練参加者に、参加して感じたことについて尋ねたところ、「地域で行う防災活動が確認できた」が 29.7% で最も高く、次いで「毎回同じ内容だと思った」が 24.2% となっている。

性別で見て、男女間で差は見られなかった。

年代別で見ると、20 代以下では「毎回同じ内容だと思った」が 36.8% と最も高くなっている。「地域で行う防災活動が確認できた」は特に 40 代と 50 代で高くなっている。50 代以上では「参加者が高齢化していると思った」も高めとなっている。

【性別・年代別】

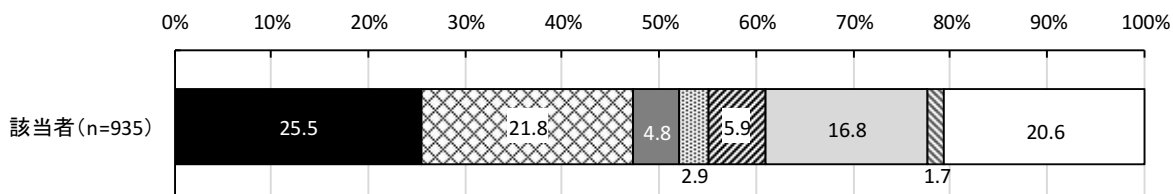


(12) 実施したらよいと思う訓練

〈問 11 で 1～3 のいずれかに答えた人に伺います〉

問 11-2 実施したらよいと思う訓練は何ですか。次の中から 1つだけ 選んでください。

- より詳細な家庭での防災対策の知識
- 地域内の企業と連携した訓練
- 小中学生が参加できる訓練
- その他
- 地域防災活動をより効果的にする訓練
- 複数の自主防災会と連携した訓練
- 避難所開設・運営の訓練
- 無回答

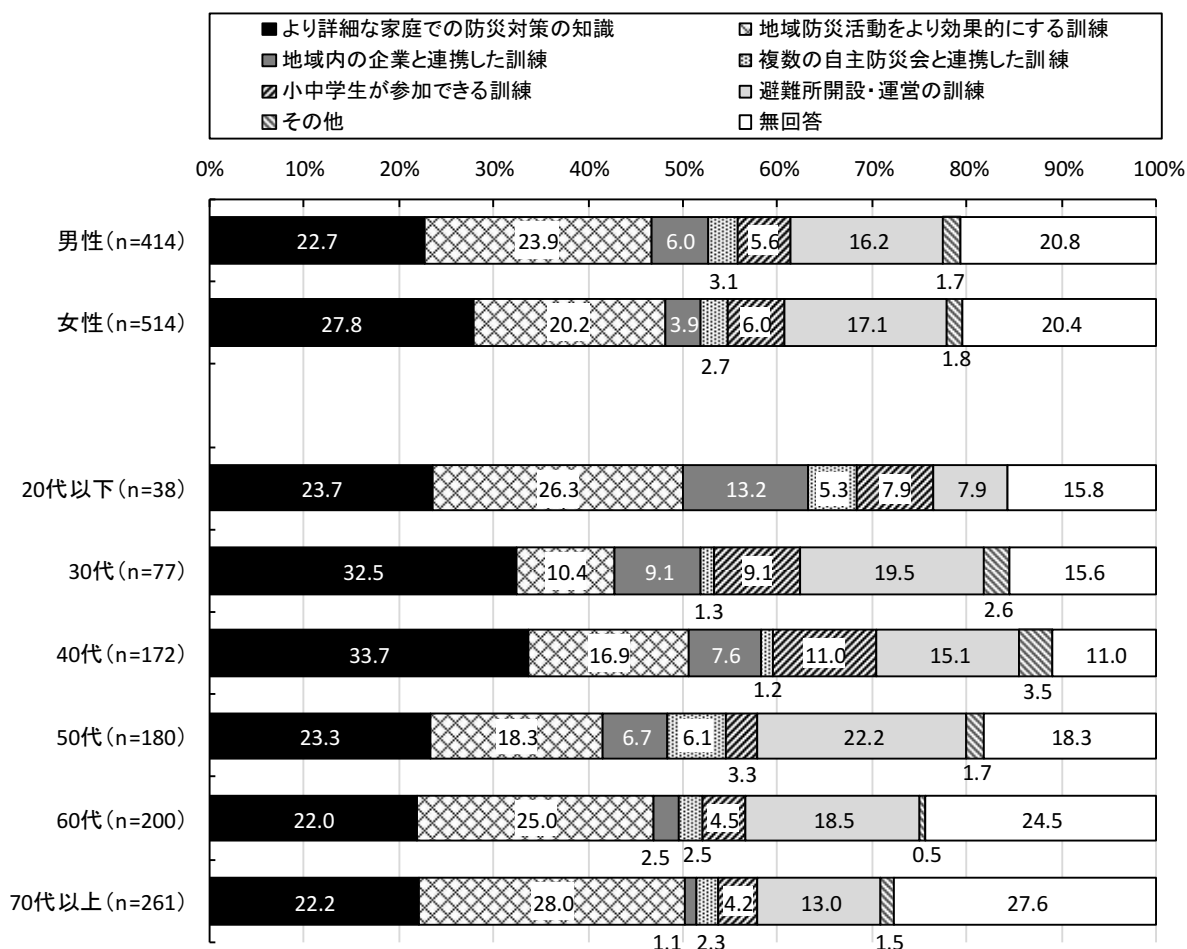


訓練参加者に、実施したらよいと思う訓練について尋ねたところ、「より詳細な家庭での防災対策の知識」が 25.5% で最も高く、次いで「地域防災活動をより効果的にする訓練」が 21.8%、「避難所開設・運営の訓練」が 16.8% となっている。

性別で見ると、「より詳細な家庭での防災対策の知識」は男性で 22.7%、女性で 27.8% と女性のほうが高くなっている。

年代別で見ると、「より詳細な家庭での防災対策の知識」は特に 30 代と 40 代で高く、「地域防災活動をより効果的にする訓練」は 20 代以下、60 代、70 代以上で高くなっている。

【性別・年代別】

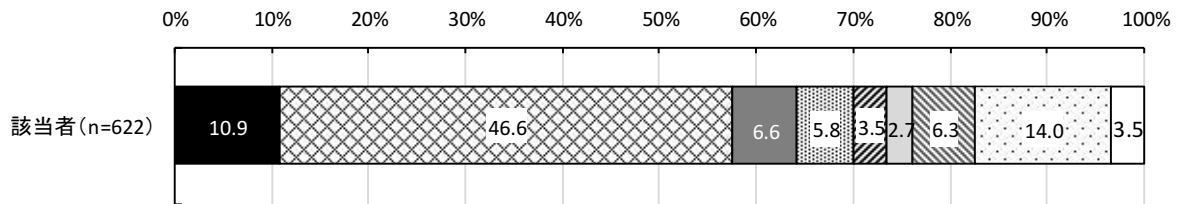


(13) 参加しなかった理由

〈問 11 で「4 参加しなかった」と答えた人に伺います〉

問 11-3 参加しなかった理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いものを1つだけ選んでください。

- 防災訓練があることを知らなかったから
- 面倒だと感じたから
- 参加してもやることがないから
- どこで実施しているか知らなかったから
- 無回答
- 都合が合わなかったから
- 毎回同じ内容だから
- 興味が持てないから
- その他

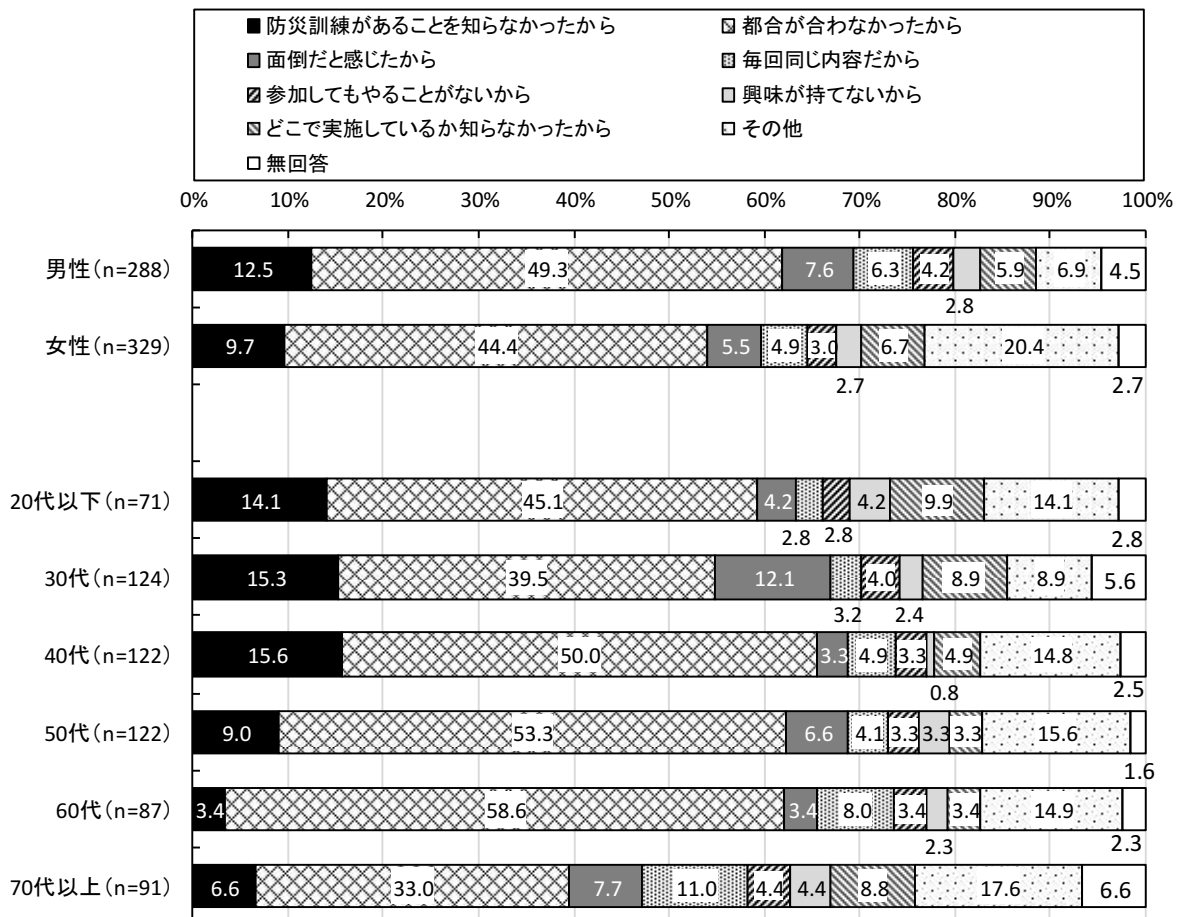


防災訓練に参加しなかった理由を尋ねたところ、「都合が合わなかったから」が46.6%と他を圧倒して高くなっている。そのほか「防災訓練があることを知らなかった」10.9%、「面倒だと感じたから」6.6%、「どこで実施しているか知らなかったから」6.3%などとなっている。

性別では、男女間で大きな差は見られない。

年代別で見ると、40代以下では「防災訓練があることを知らなかったから」が50代以上と比べて高めとなっている。30代では「面倒だと感じたから」が12.1%と他の年代よりも高く、60代と70代以上では、「毎回同じ内容だから」が他の年代と比べて高くなっている。

【性別・年代別】

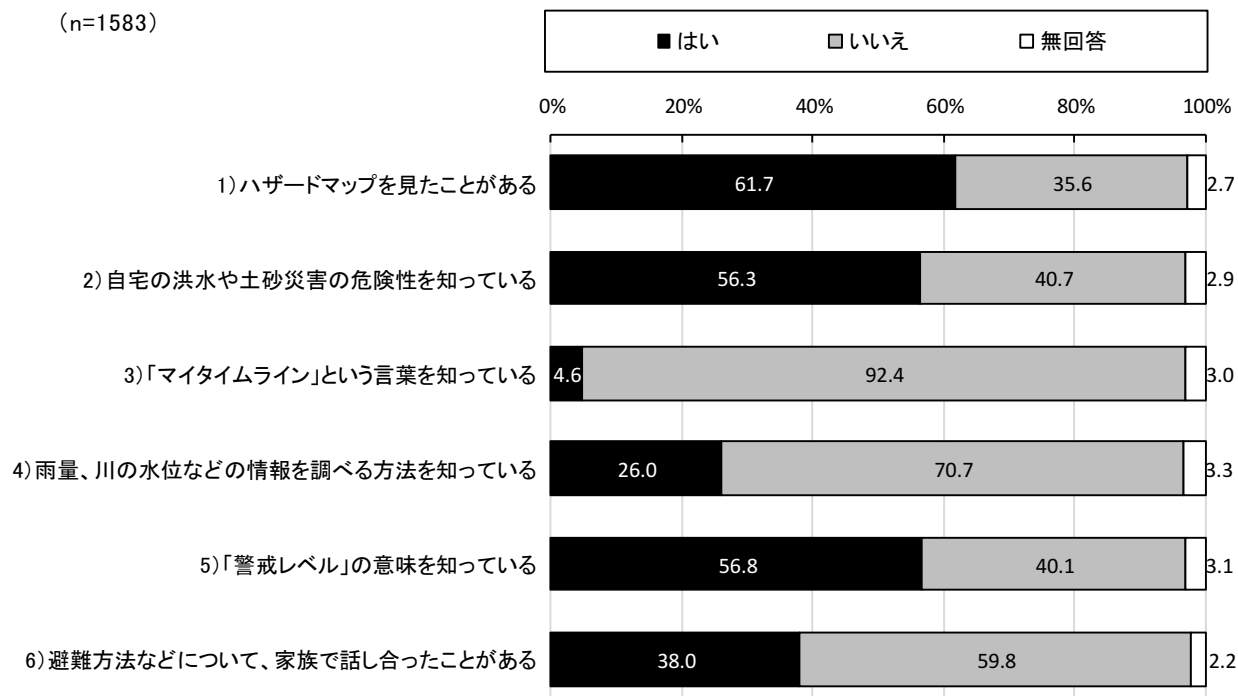


(14) 災害に備えての確認項目

〈全ての人に伺います〉

問12 あなたの自宅では台風や豪雨などの災害に備えて、次の各項目について確認していますか。
はい、いいえのいずれかを選んでください。

(n=1583)



災害に備えての確認項目の実施状況を尋ねたところ、“1) ハザードマップを見たことがある”、“2) 自宅の洪水や土砂災害の危険性を知っている”、“5) 「警戒レベル」の意味を知っている”の項目で「はい」と回答した人が5割以上を占めている。一方、“3) 「マイタイムライン」という言葉を知っている”については「いいえ」が92.4%と、ほとんど知られていない。

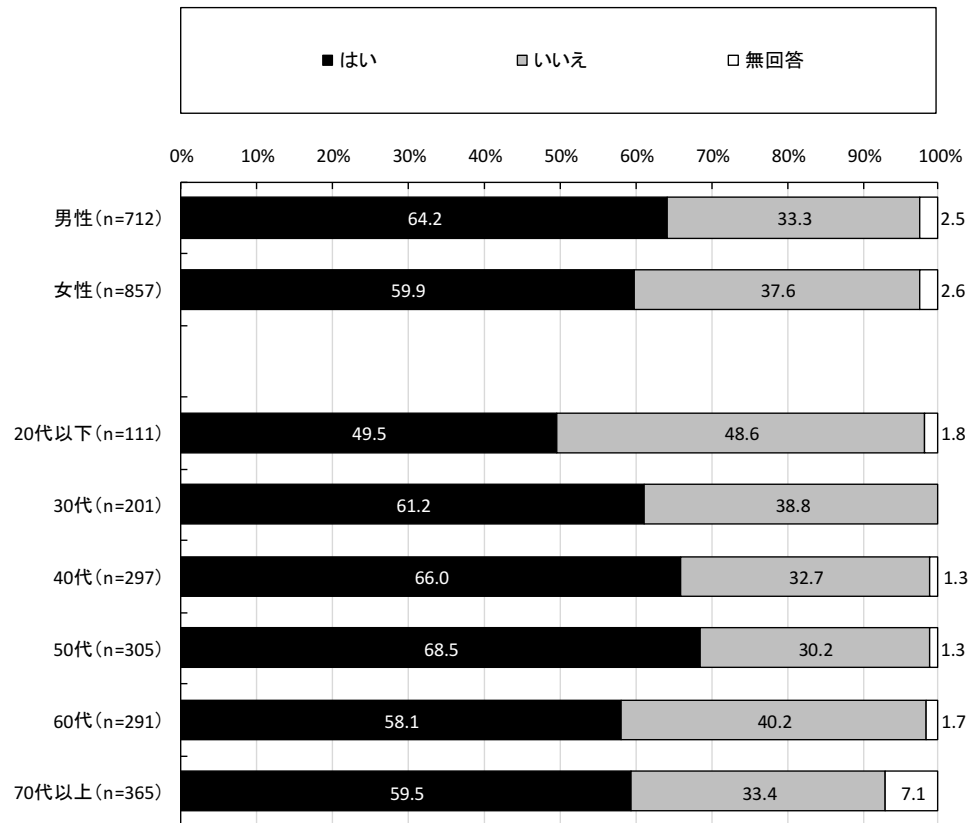
IV 調査結果

【性別・年代別】

1) 富士市の洪水や土砂災害のハザードマップ（紙媒体または市のウェブサイトに掲載）を見たことがある

性別で見ると、「はい」と回答した人は男性で64.2%、女性で59.9%と男性がやや高くなっている。

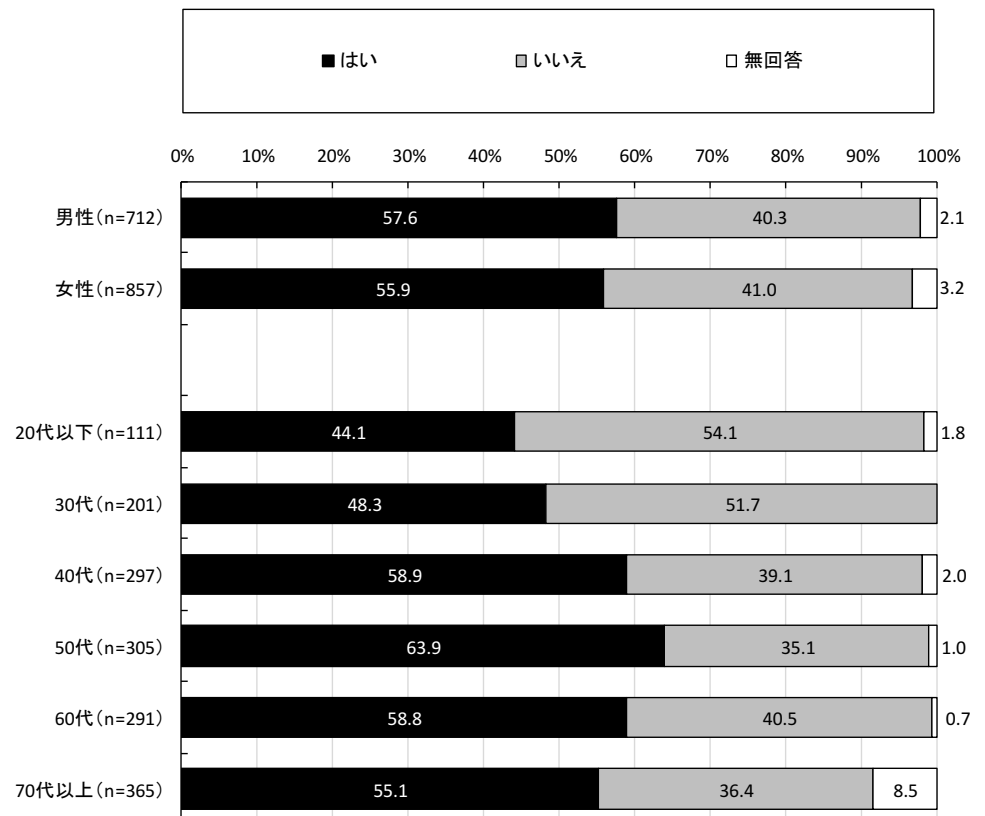
年代別では、30代、40代、50代では「はい」が6割以上と他の年代と比べて高くなっている。



2) 自宅の洪水や土砂災害の危険性を知っている

性別で見ると、「はい」と回答した人の割合は男女間で差は見られない。

年代別では、40代以上では「はい」が5割を超しているものの、30代以下では4割台と低くなっている。

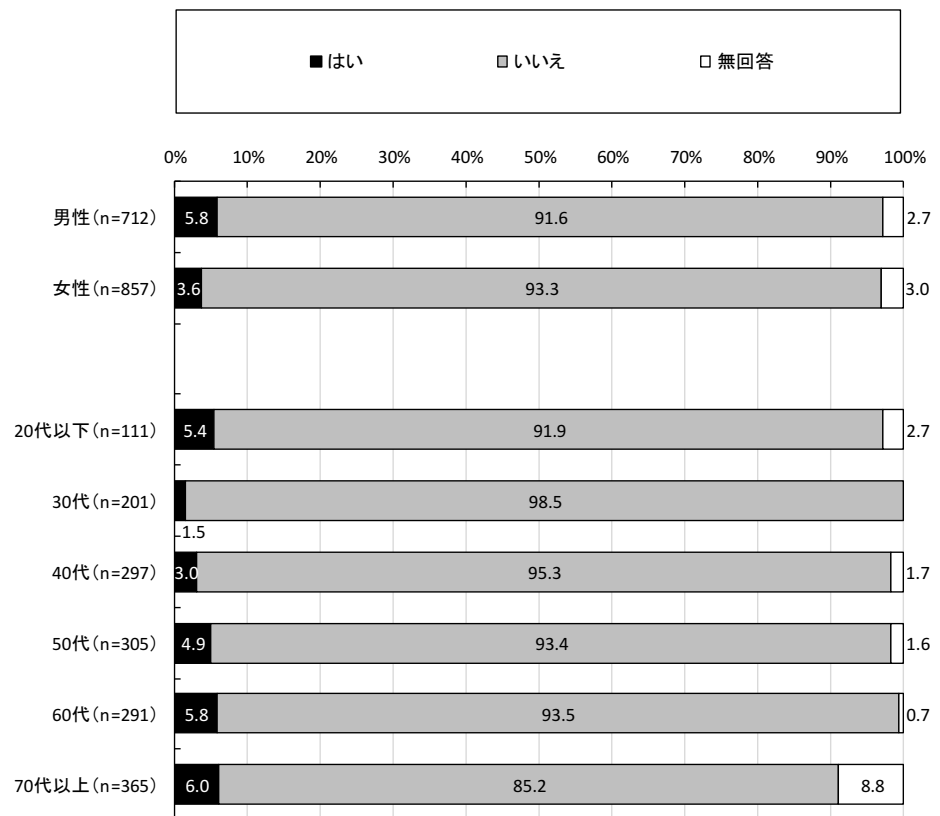


3) 「*マイタイムライン」という言葉を知っている

※風水害の発生に備えて、家族構成や生活環境に合わせ、一人一人があらかじめ作成する避難行動計画

性別で見ると、男女ともに「はい」と回答した人は1割に満たない。

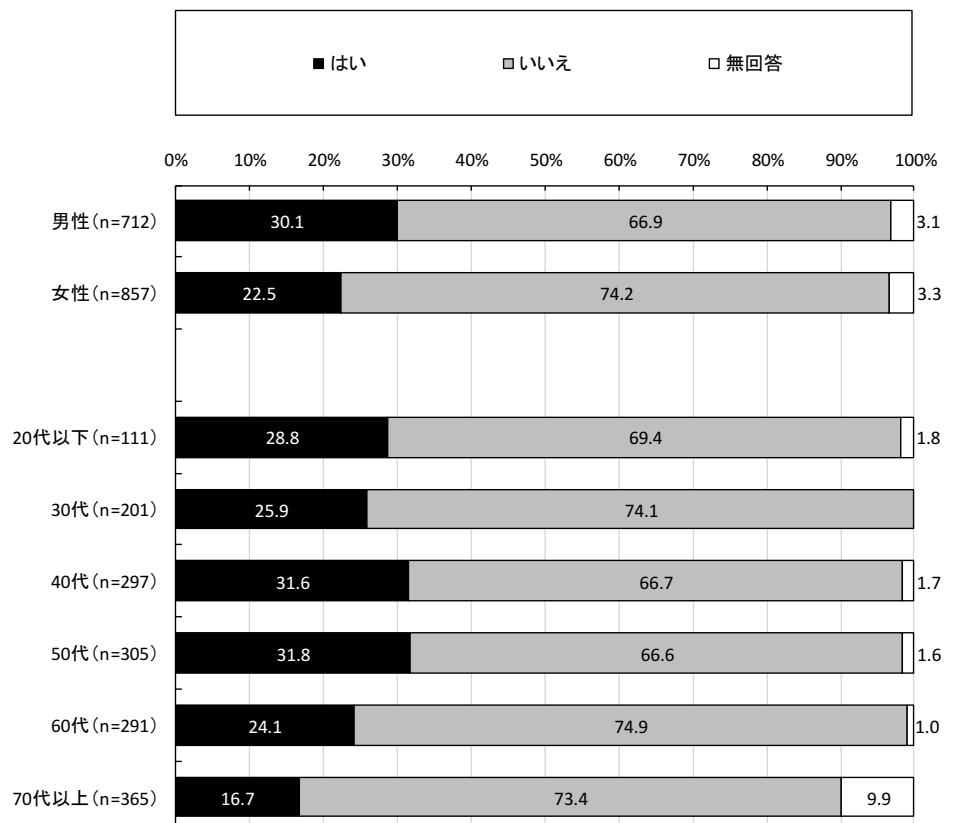
年代別で見ても、いずれの年代においても、1割未満と低くなっている。



4) 雨量、川の水位などの情報を調べる方法を知っている

性別で見ると、「はい」と回答した人は男性で30.1%、女性で22.5%と女性よりも男性のほうが高くなっている。

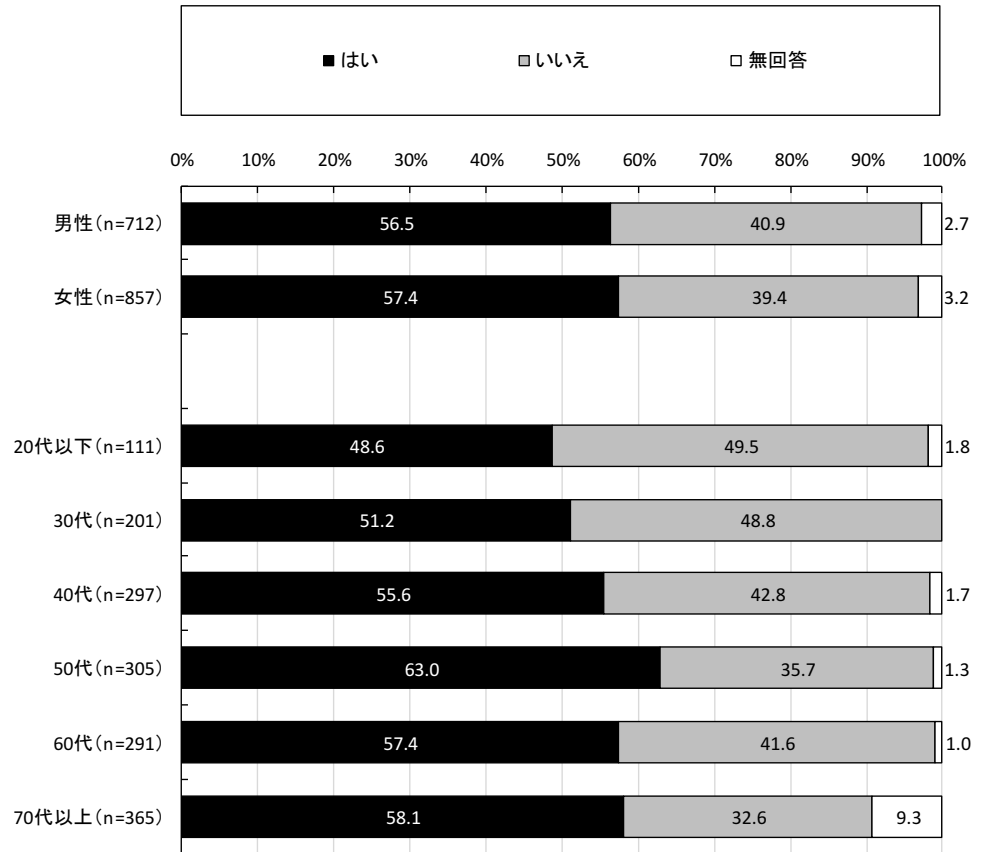
年代別では、「はい」の割合が、他の年代と比べて60代と70代以上で低くなっている。



5) 避難情報（避難勧告など）と一緒に伝達される「警戒レベル」の意味を知っている

性別で見ると、「はい」の割合は男女間で差は見られない。

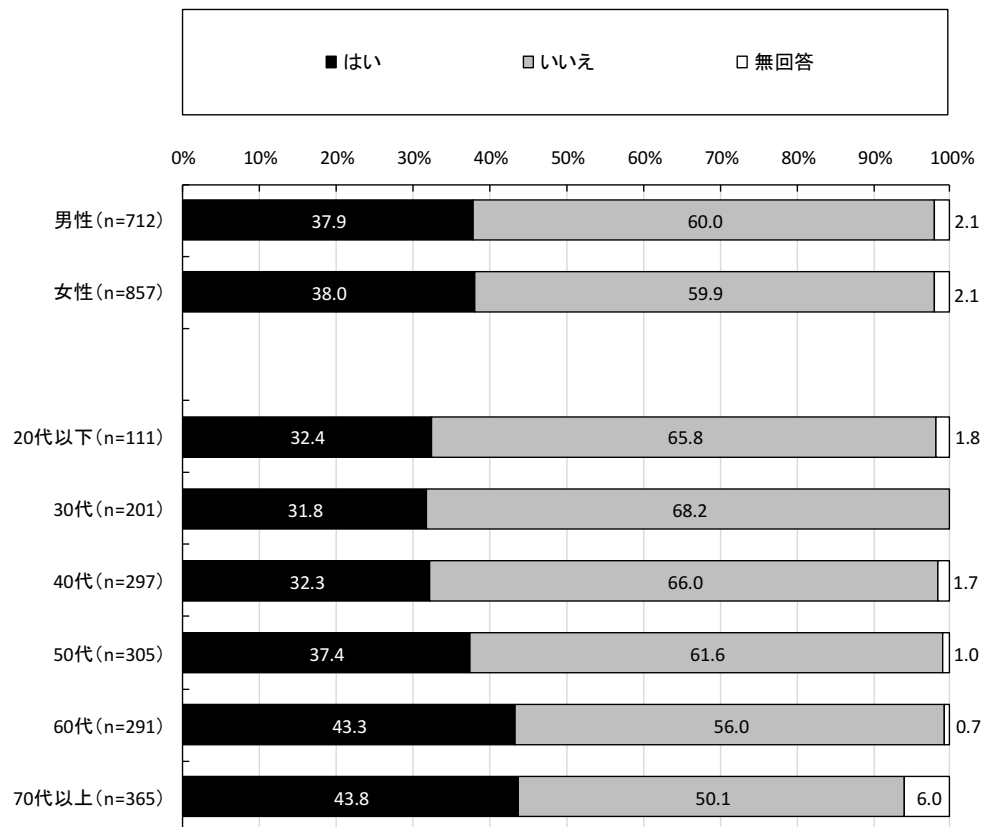
年代別で見ると、「はい」の割合は20代以下を除き、いずれの年代も軒並み5割以上となっている。特に50代では63.0%と他の年代と比べて高くなっている。



6) 台風や豪雨時の避難方法などについて、家族で話し合ったことがある

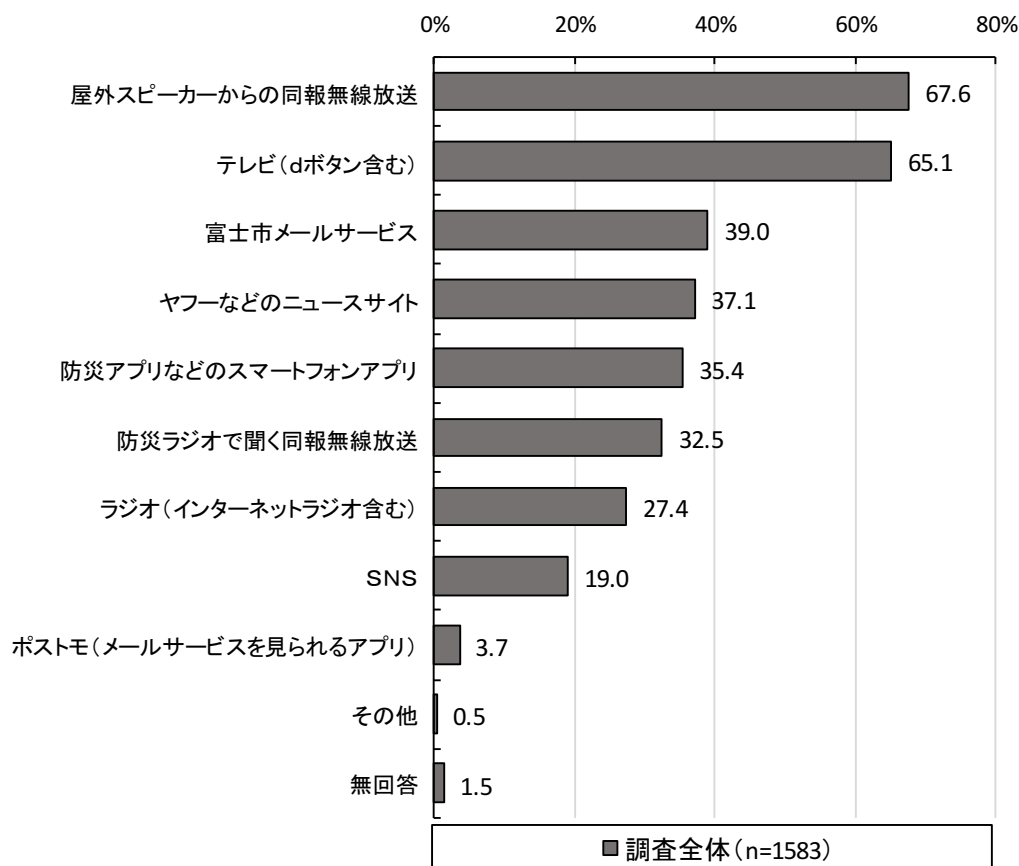
性別で見ると、「はい」の割合は男女間で差は見られない。

年代別では、「はい」の割合は60代と70代以上で4割台と高くなっている。一方、40代以下では3割程度と低くなっている。



(15) 災害情報の入手手段

問 13 災害発生のおそれが高まった場合、災害に関する情報をどのような手段で入手しようと思いますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。



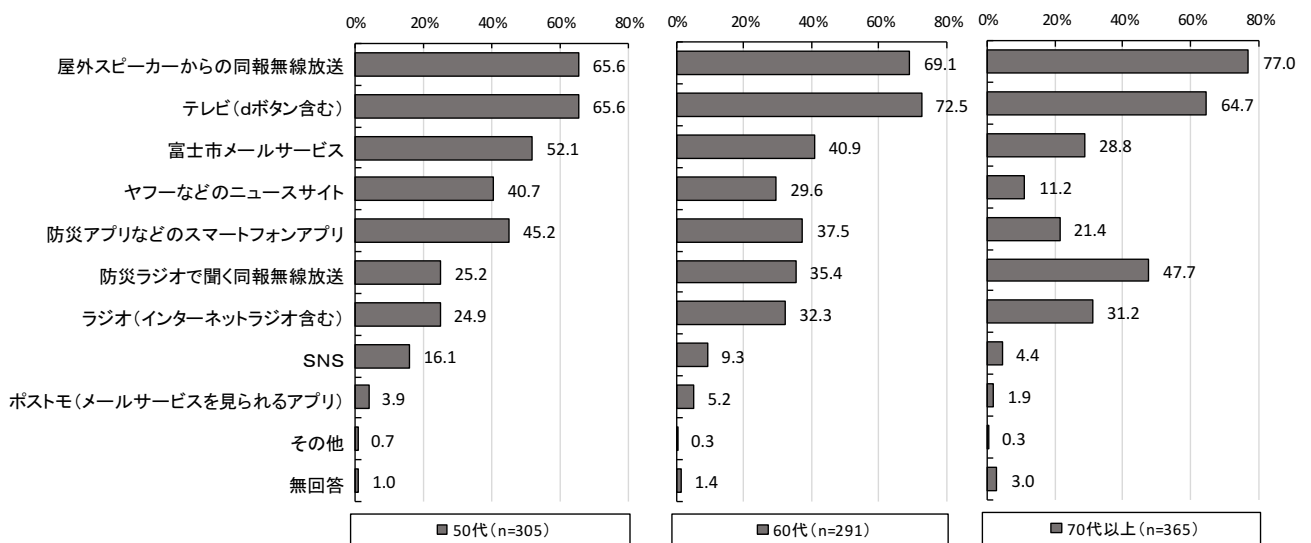
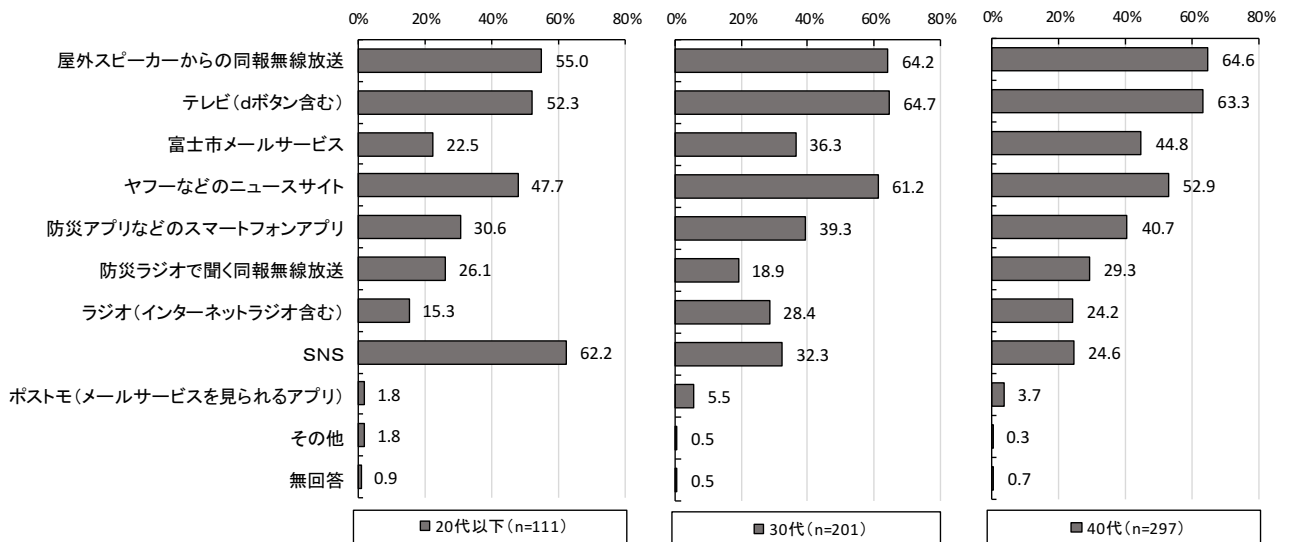
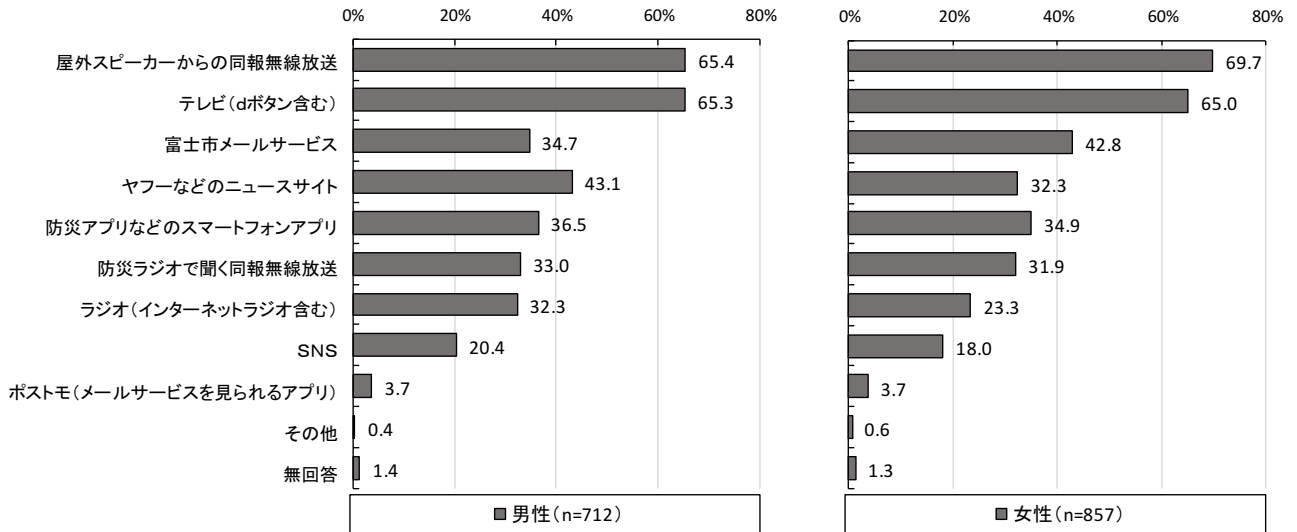
災害情報の入手手段について尋ねたところ、「屋外スピーカーからの同報無線放送」が67.6%、「テレビ」が65.1%で高くなっている。そのほか「富士市メールサービス」39.0%、「ヤフーなどのニュースサイト」37.1%、「防災アプリなどのスマートフォンアプリ」35.4%と続く。

性別で見ると、「屋外スピーカーからの同報無線放送」と「テレビ」のほかに、男性は「ヤフーなどのニュースサイト」が、女性では「富士市メールサービス」が4割以上と高くなっている。

年代別で見ると、「富士市メールサービス」は40代、50代、60代で4割以上と高くなっているものの、20代以下と70代以上では2割台と低くなっている。「防災アプリなどのスマートフォンアプリ」は40代と50代で4割を超えているが、20代以下と70代以上では2～3割台と低い。「防災ラジオで聞く同報無線放送」は70代以上で47.7%と高くなっているが、50代以下では3割に満たない。「SNS」は20代以下が62.2%と突出して高くなっている。

IV 調査結果

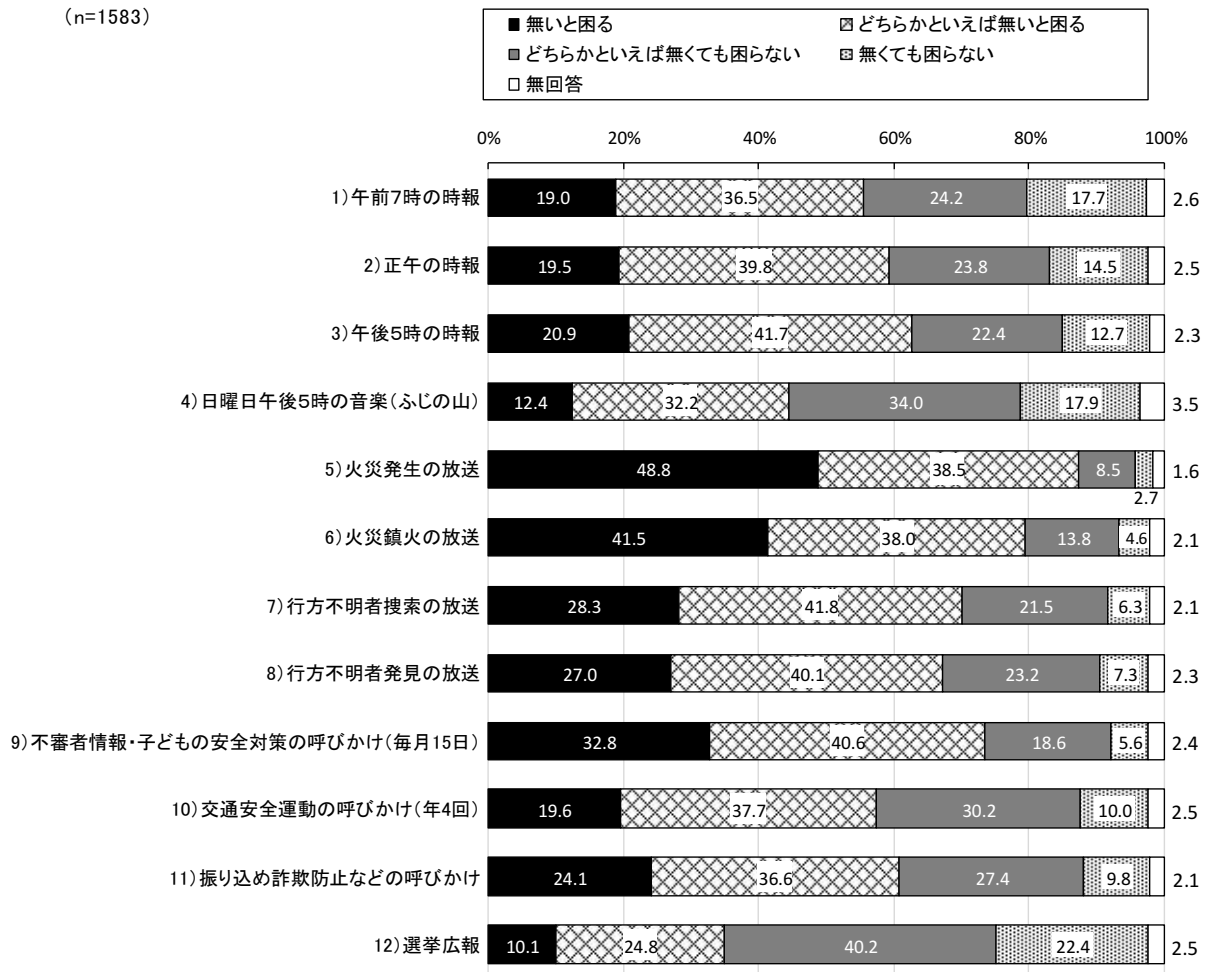
【性別・年代別】



(16) 同報無線放送の放送内容について感じること

問 14 「こちらは広報ふじです」で知られる同報無線放送は、日常生活の中で様々な情報をお知らせしています。あなたの生活において、それぞれの放送内容をどのように感じていますか。あなたのお気持ちに近いものを1つずつ選んでください。

(n=1583)



同報無線放送の放送内容について感じることを尋ねたところ、「5) 火災発生の放送」、「6) 火災鎮火の放送」は「無いと困る」が4割以上と高くなっている。また「無いと困る」と「どちらかといえば無いと困る」を合わせた割合で見ると、①「5) 火災発生の放送」87.3%、②「6) 火災鎮火の放送」79.5%、③「9) 不審者情報・子どもの安全対策の呼びかけ」73.4%、④「7) 行方不明者捜索の放送」70.1%、⑤「8) 行方不明者発見の放送」67.1%、⑥「3) 午後5時の時報」62.6%となっている。

一方、「どちらかといえば無くて困らない」と「無くて困らない」合わせて5割以上となったものは、「4) 日曜日午後5時の音楽」と「12) 選挙広報」であった。

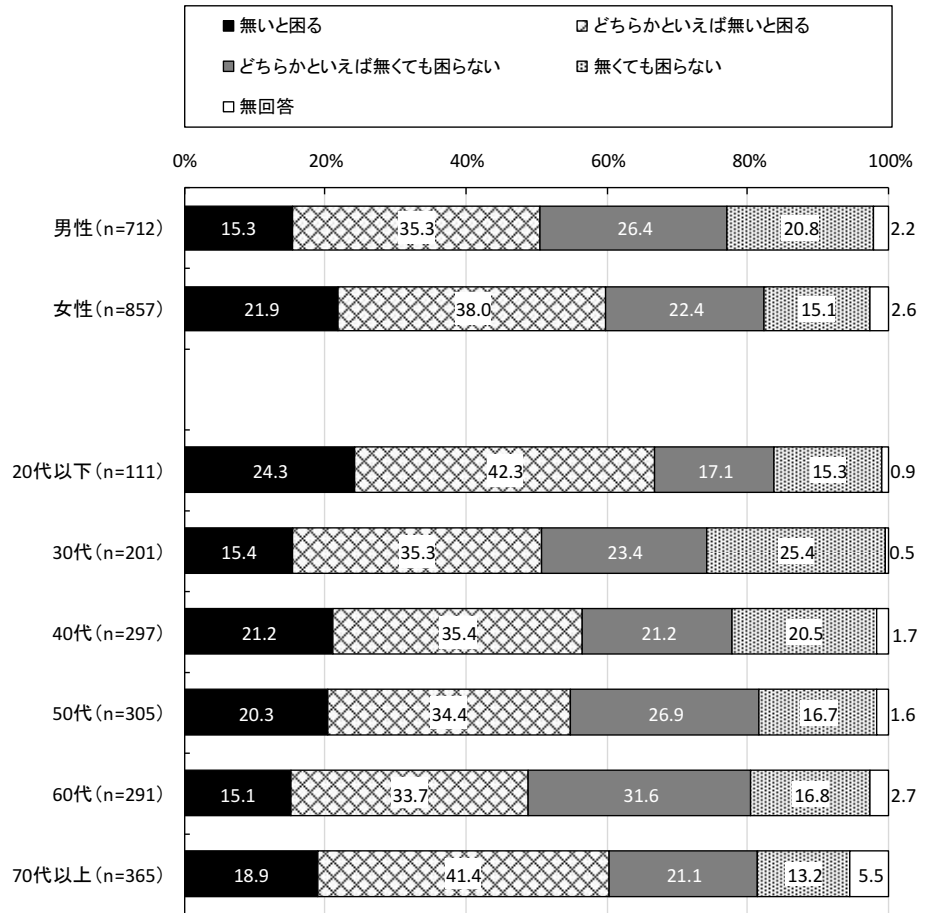
IV 調査結果

【性別・年代別】

1) 午前7時の時報

性別で見ると、“困る”割合は男性よりも女性で高くなっている。

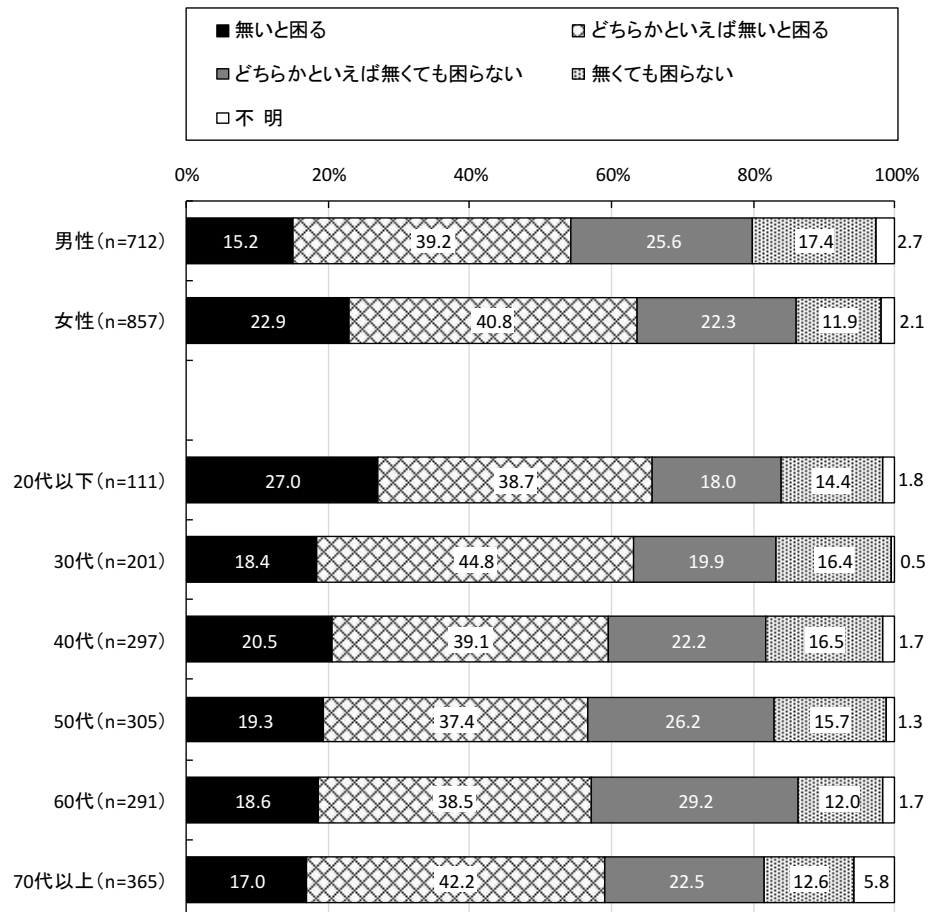
年代別では、特に20代以下の“困る”割合は66.6%で他の年代と比べて高い。



2) 正午の時報

性別で見ると、“困る”割合は男性よりも女性で高くなっている。

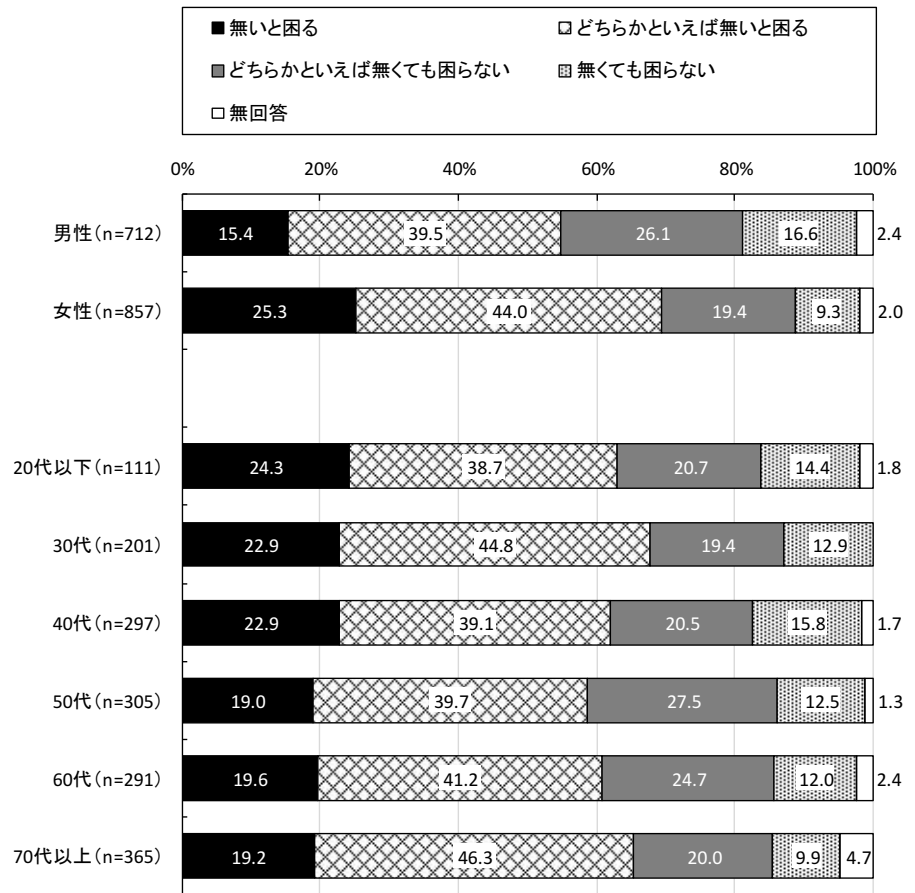
年代別では、20代以下の“困る”割合は65.7%で、他の年代と比べてやや高めとなっている。



3) 午後5時の時報

性別で見ると、“困る”割合は男性よりも女性で高くなっている。

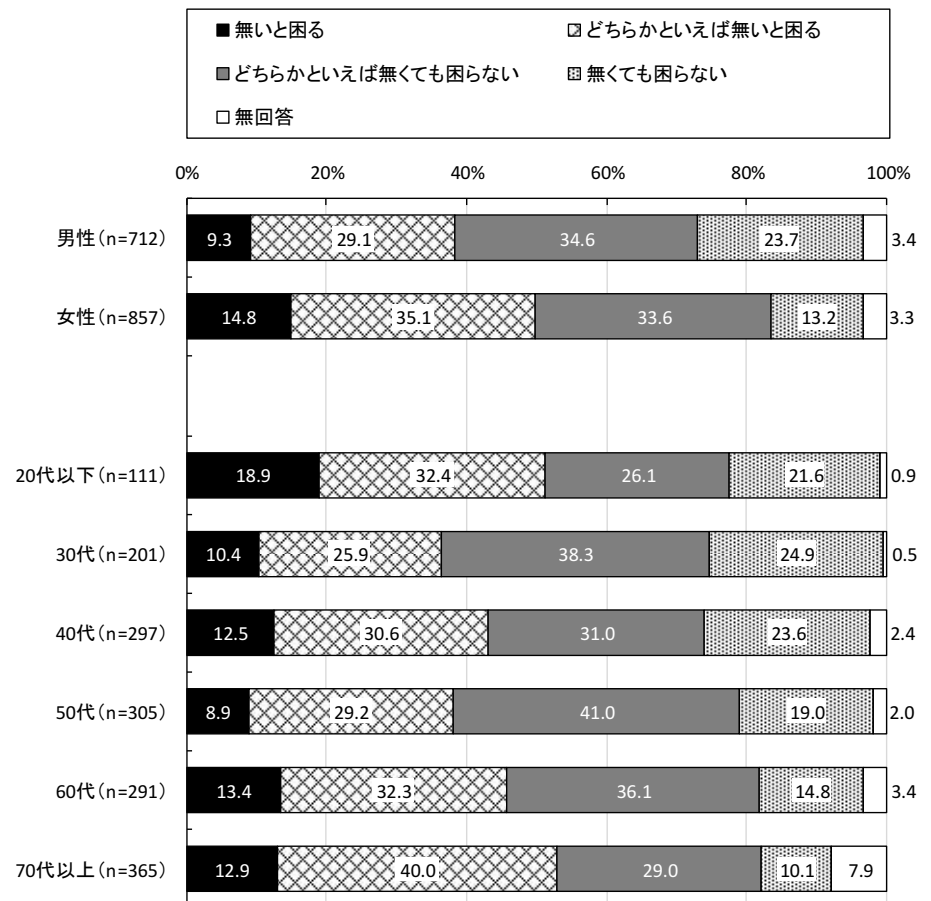
年代別では大きな差は見られない。



4) 日曜日午後5時の音楽 (ふじの山)

性別で見ると、“困る”割合は男性よりも女性で高くなっている。

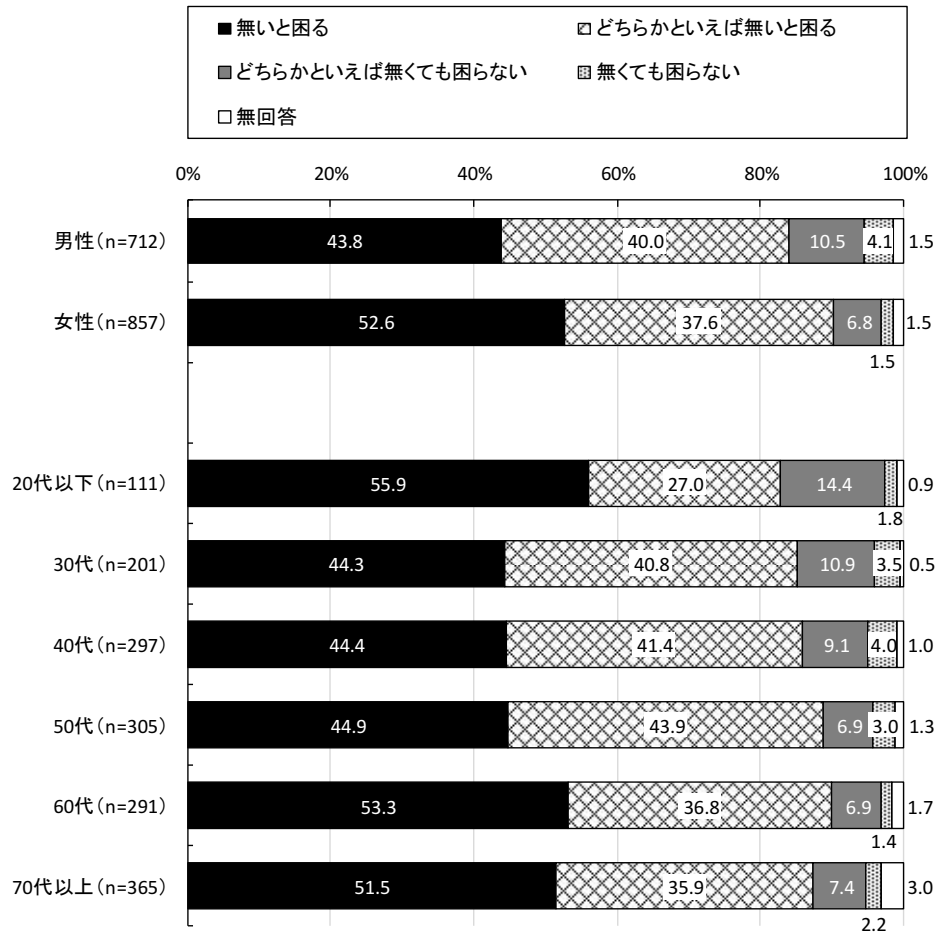
年代別では、20代以下は61.3%、70代以上は52.9%で、特に“困る”割合が高い。



5) 火災発生の放送

性別で見ると、“困る”割合は男性よりも女性で高くなっている。

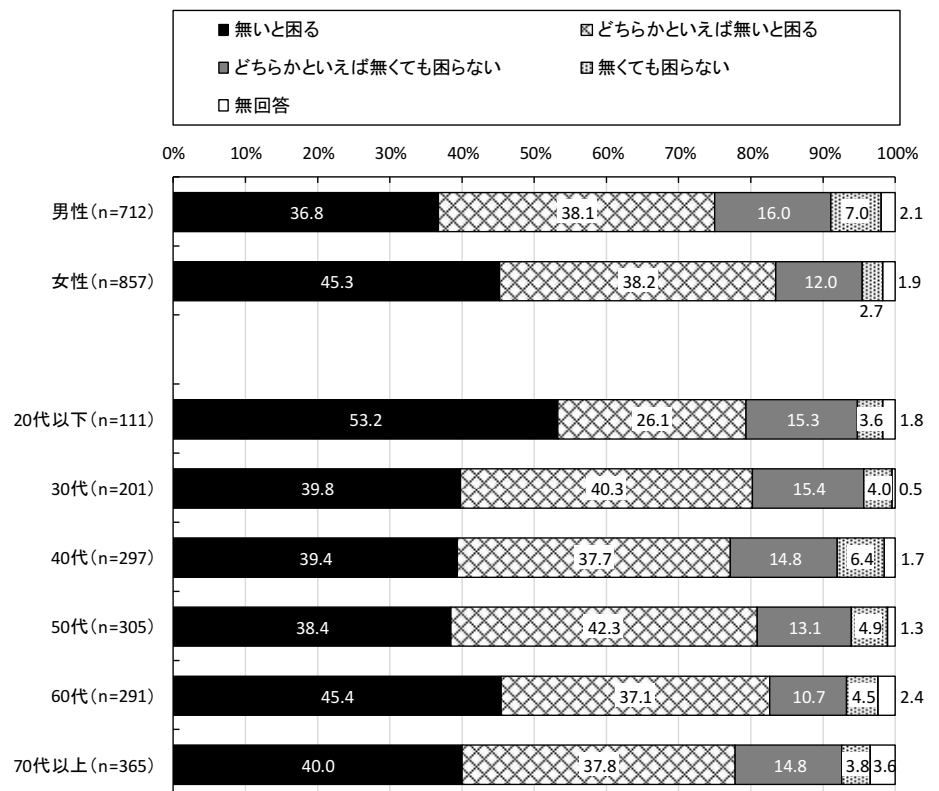
年代別では、“困る”割合に大きな差は見られないが、「無いと困る」だけで見ると、20代以下、60代、70代以上で5割を超えている。



6) 火災鎮火の放送

性別で見ると、“困る”割合は男性よりも女性で高くなっている。

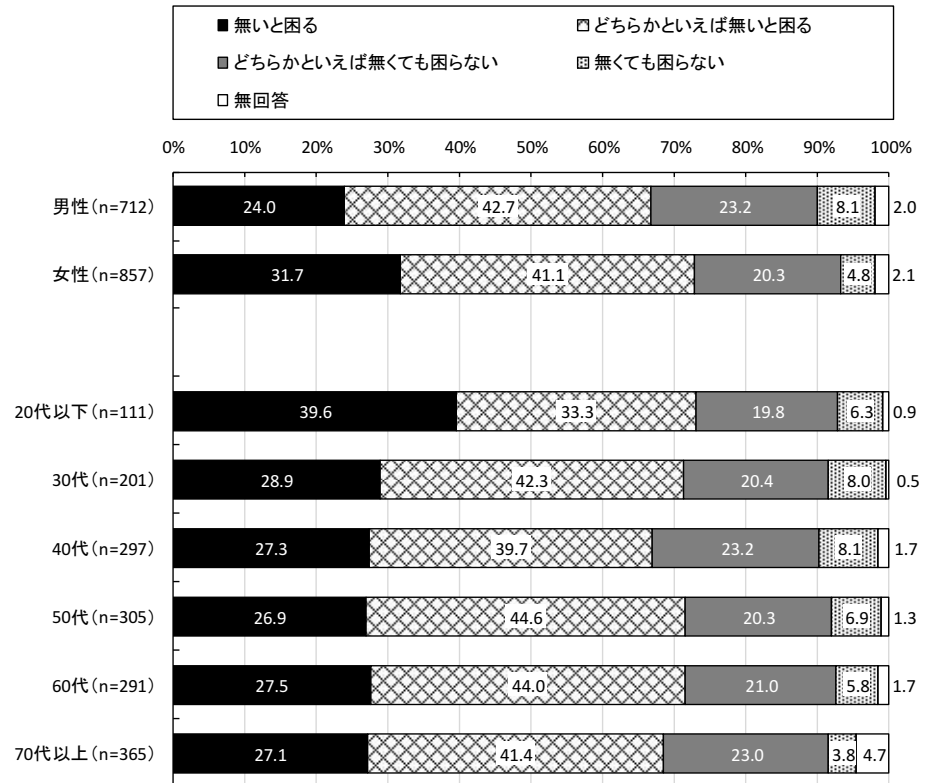
年代別では、“困る”割合に差は見られないが、「無いと困る」だけで見ると、20代以下が 53.2%と他の年代と比べて高くなっている。



7) 行方不明者搜索の放送

性別で見ると、「困る」割合は男性よりも女性で高くなっている。

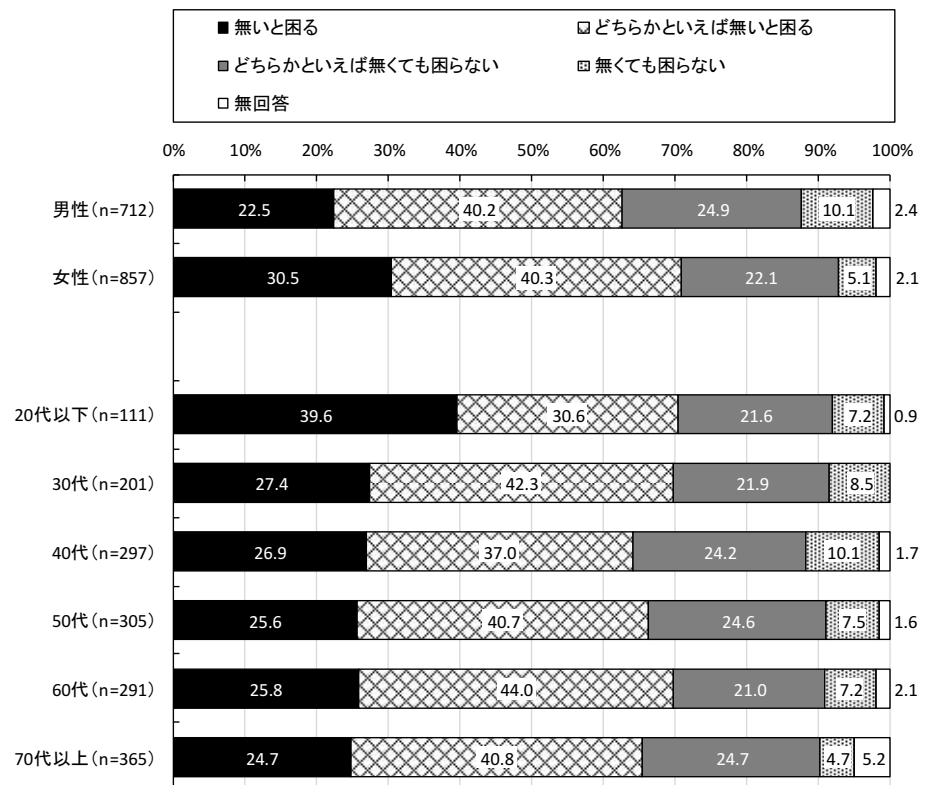
年代別では、「困る」割合に差は見られないが、「無いと困る」だけで見ると、20代以下が39.6%と他の年代と比べて高くなっている。



8) 行方不明者発見の放送

性別で見ると、「困る」割合は男性よりも女性で高くなっている。

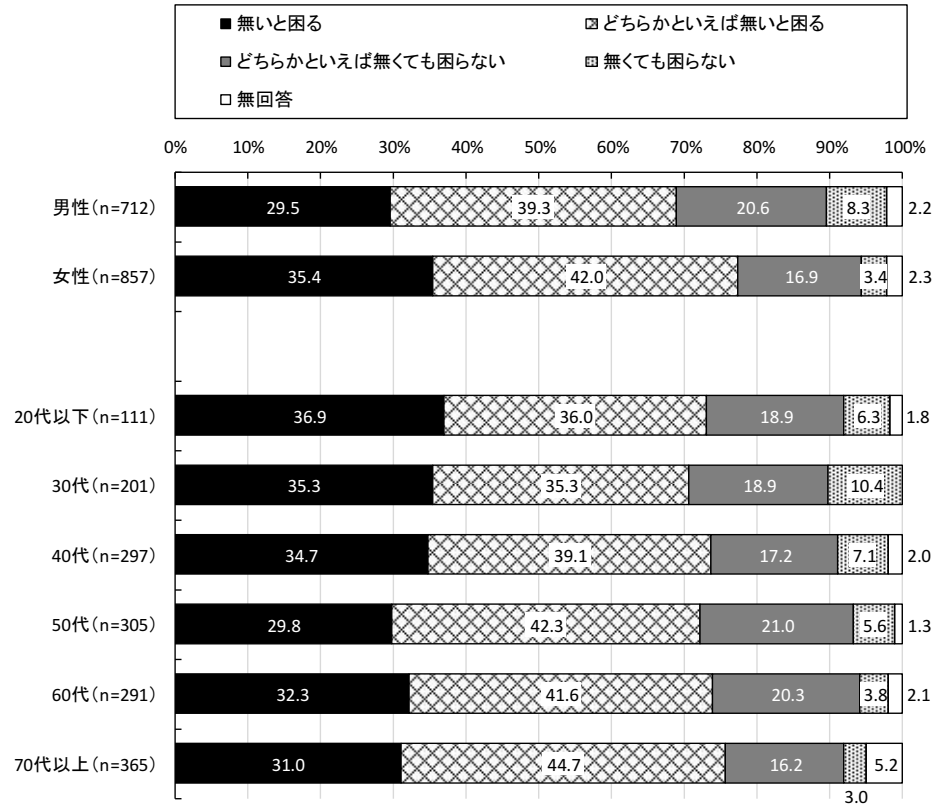
年代別では、「困る」割合に差は見られないが、「無いと困る」だけで見ると、20代以下が39.6%と他の年代と比べて高くなっている。



9) 不審者情報・子どもの安全対策の呼びかけ（毎月 15 日）

性別で見ると、“困る”割合は男性よりも女性で高くなっている。

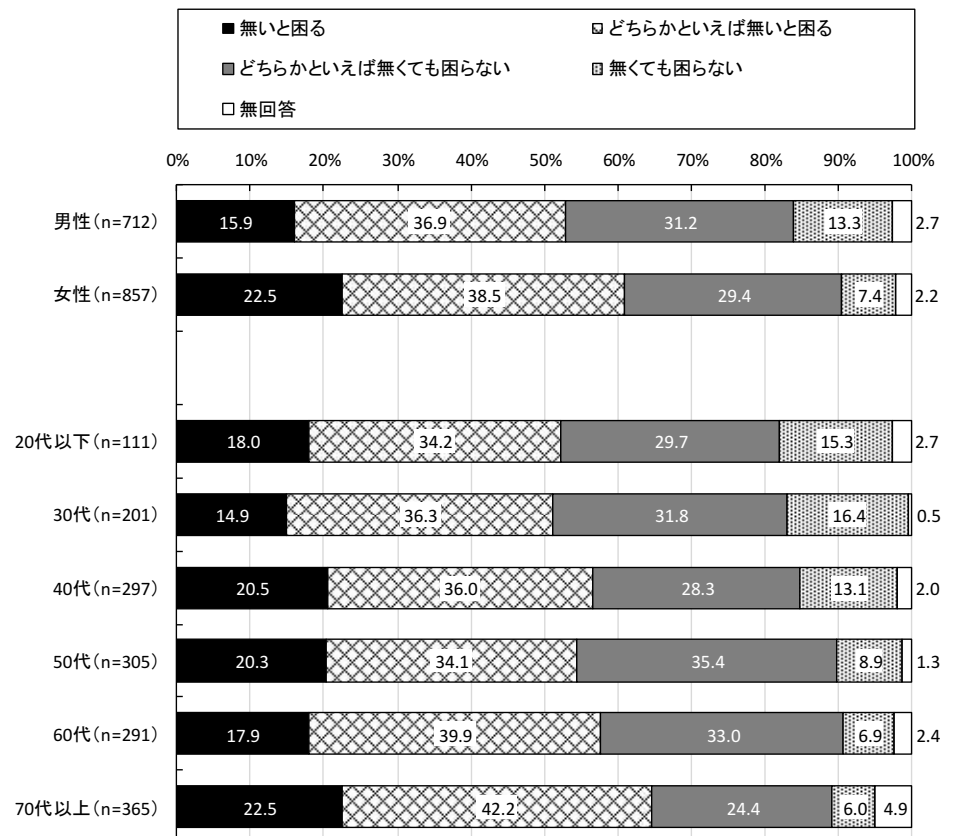
年代別では差が見られない。



10) 交通安全運動の呼びかけ（年 4 回）

性別で見ると、“困る”割合は男性よりも女性で高くなっている。

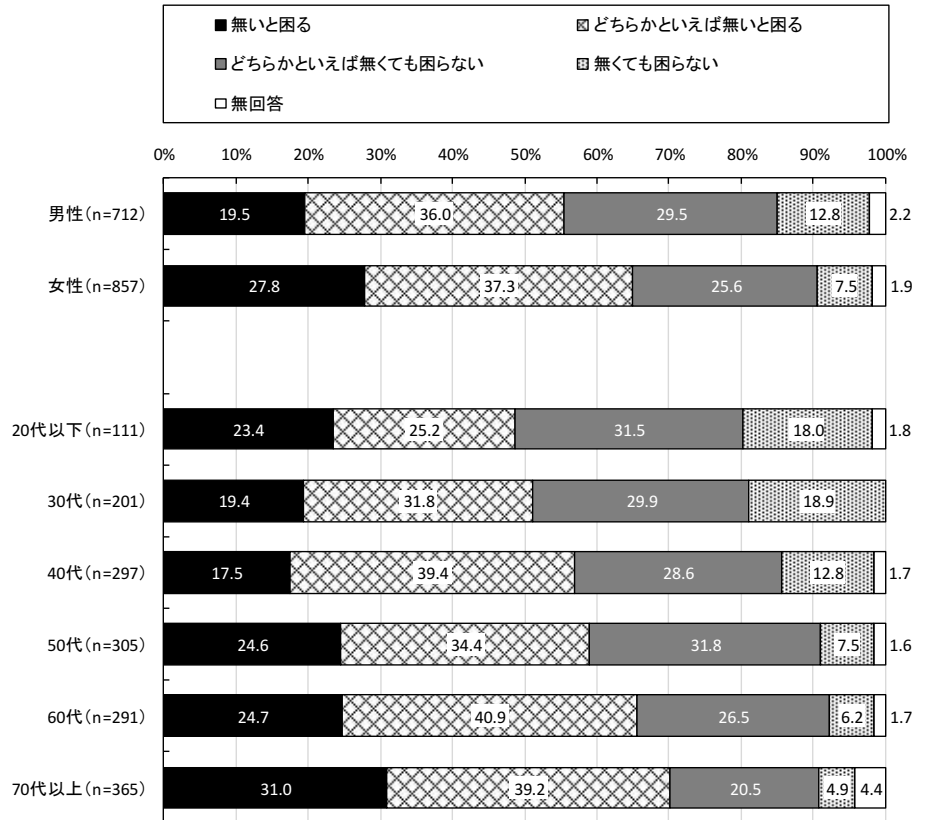
年代別では“困る”割合は 70 代以上は 64.7%で他の年代と比べて高い。



11) 振り込め詐欺防止などの呼びかけ

性別で見ると、“困る”割合は男性よりも女性で高くなっている。

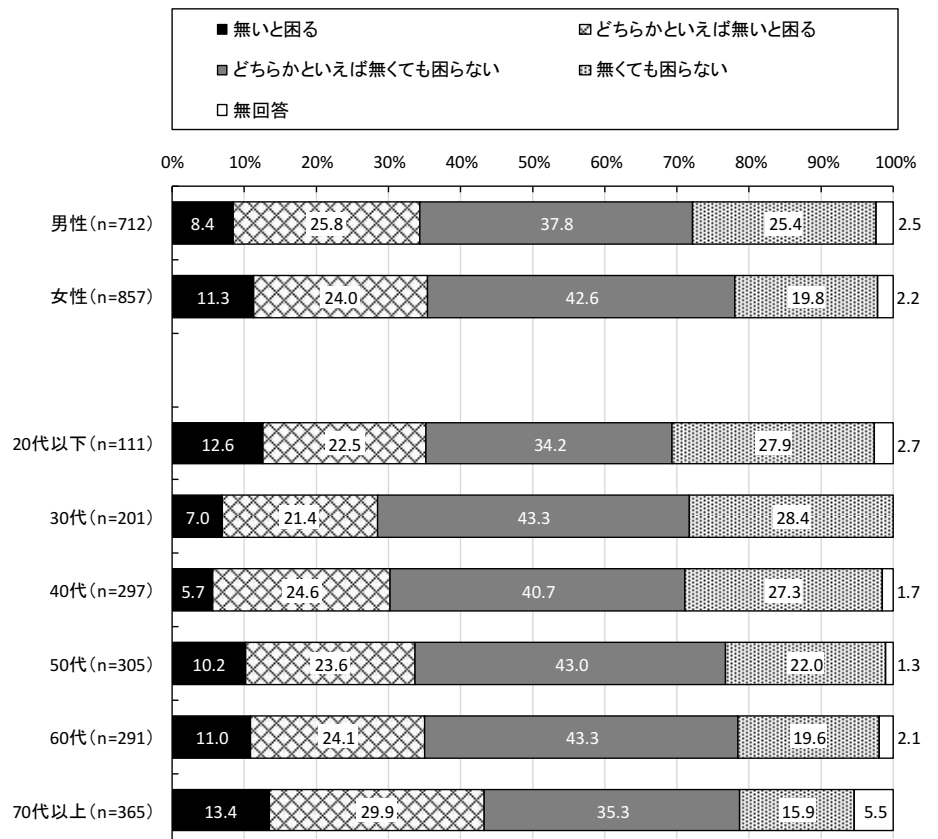
年代別では“困る”割合は年代を追うごとに高くなっており、60代以上では6割を超えている。



12) 選挙広報

性別で見ると、“困る”割合は男女間で大きな差はない。

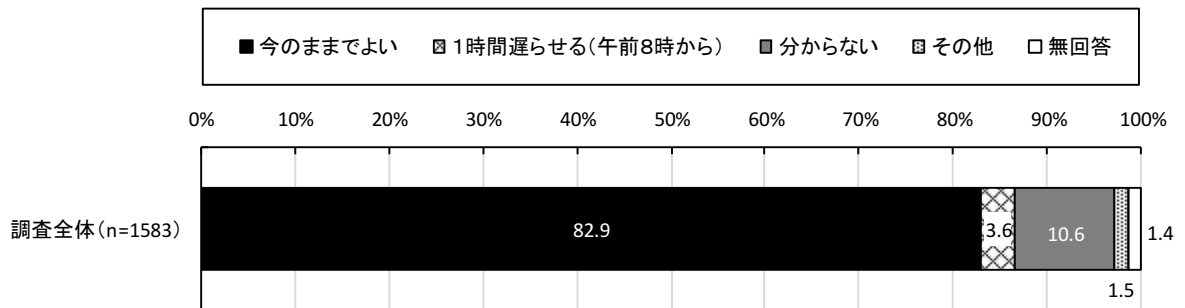
年代別では“困る”割合は特に70代以上で4割以上と高くなっている。



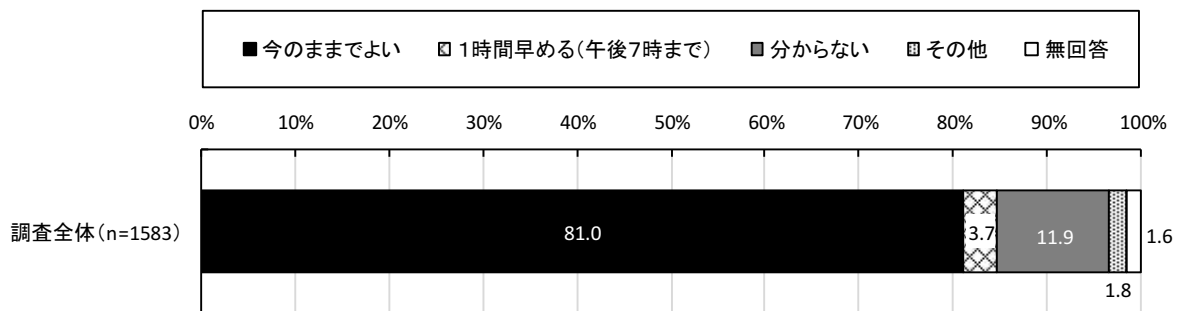
(17) 同報無線放送の放送時間について思うこと

問 15 同報無線放送を行う時間は、緊急放送を除き、原則午前7時から午後8時までの間としています。この放送時間について、どのように思いますか。それぞれ1つずつ選んでください。

1) 開始時刻の午前7時について



2) 終了時刻の午後8時について



同報無線放送の放送時間について思うことを尋ねたところ、“1) 開始時刻の午前7時について”は、「今のままでよい」が82.9%を占めた。

性別で見ても、男女ともに「今のままでよい」が8割以上に上った。

年代別においても、いずれの年代も7割以上が「今のままでよい」と回答している。

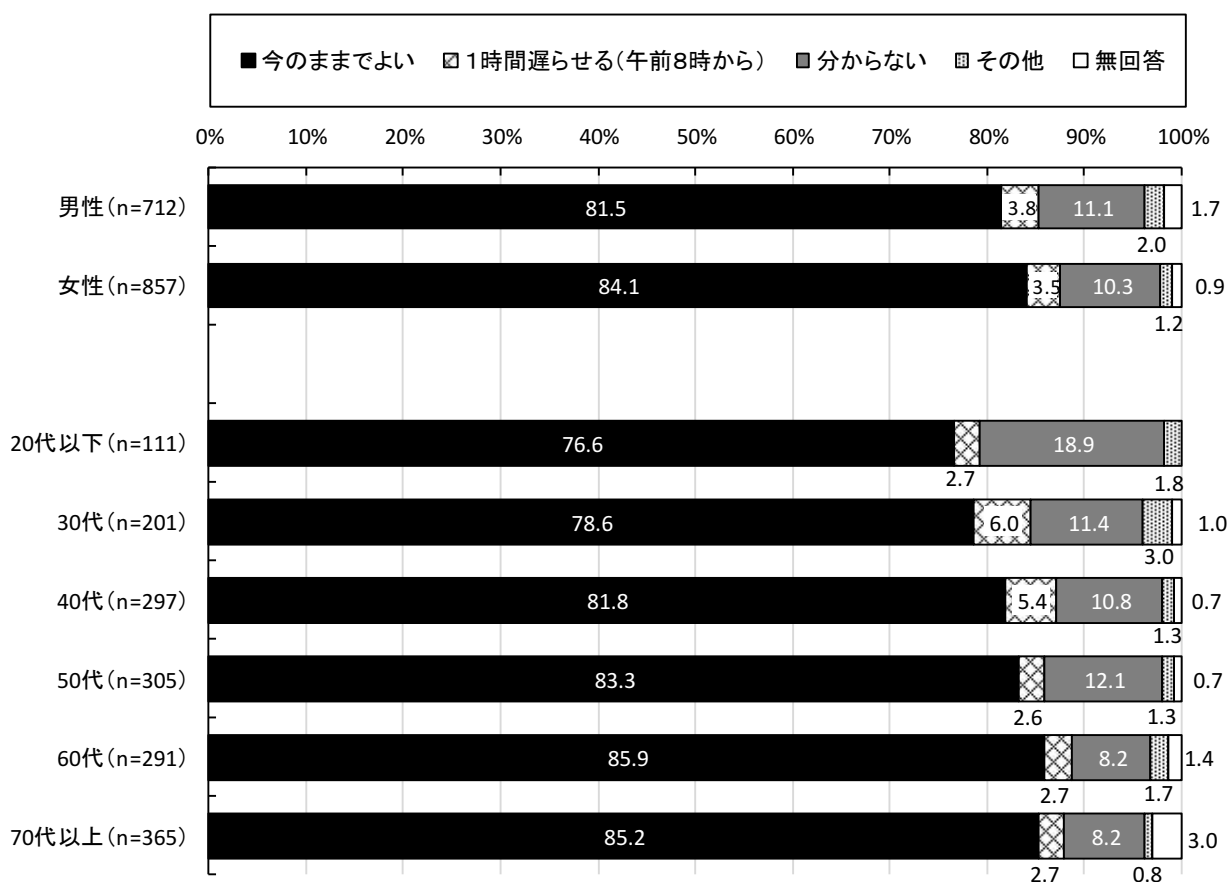
“2) 終了時刻の午後8時について”は「今のままでよい」が81.0%となった。

性別で見ても、男女ともに「今のままでよい」がおよそ8割を占めている。

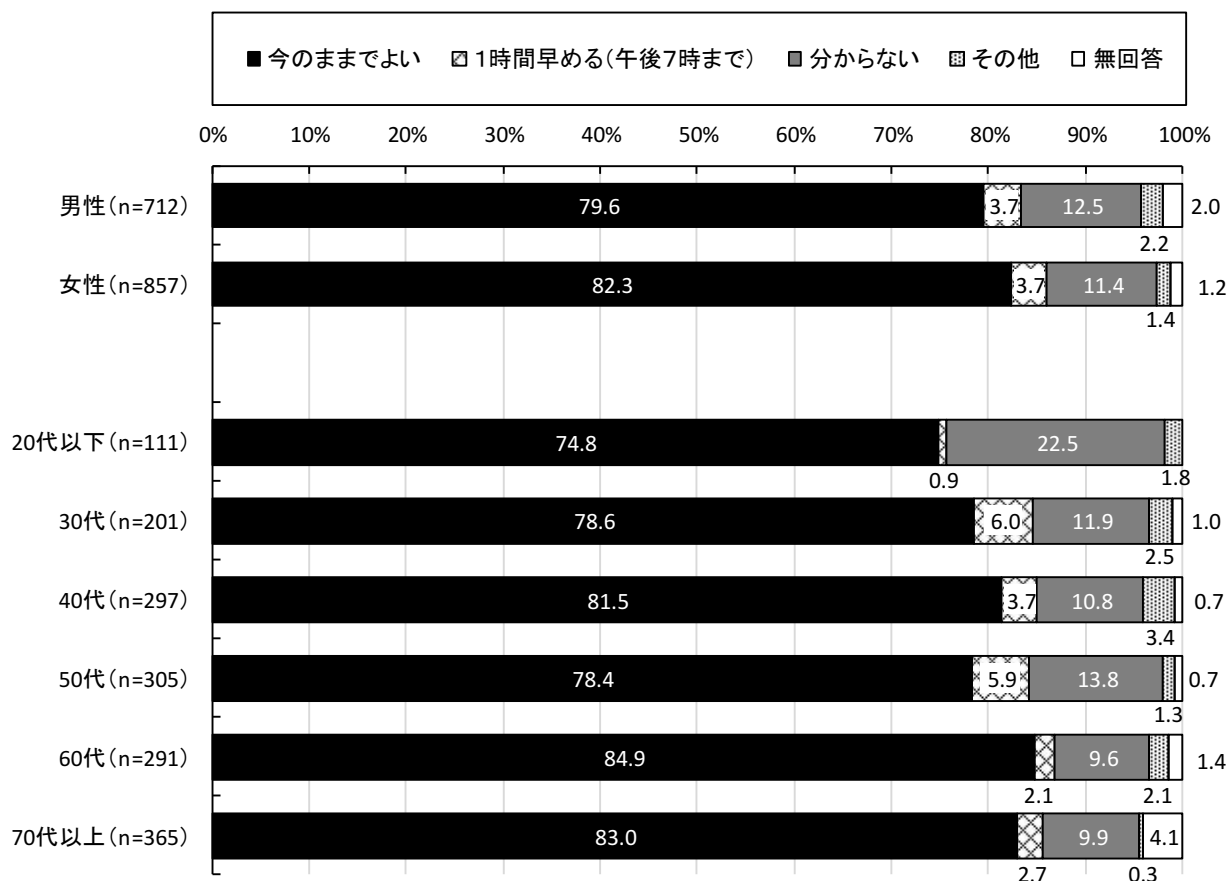
年代別においても、いずれの年代も「今のままでよい」が7割以上となっている。

【性別・年代別】

1) 開始時刻の午前7時について



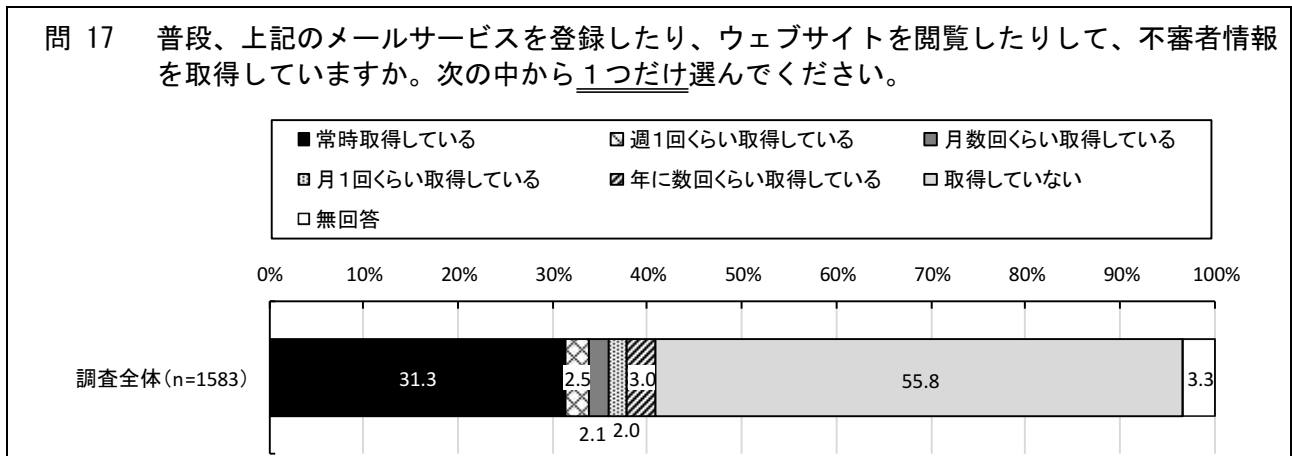
2) 終了時刻の午後8時について



II 不審者情報について

(1) 不審者情報の取得状況

問 17 普段、上記のメールサービスを登録したり、ウェブサイトを開覧したりして、不審者情報を取得していますか。次の中から1つだけ選んでください。

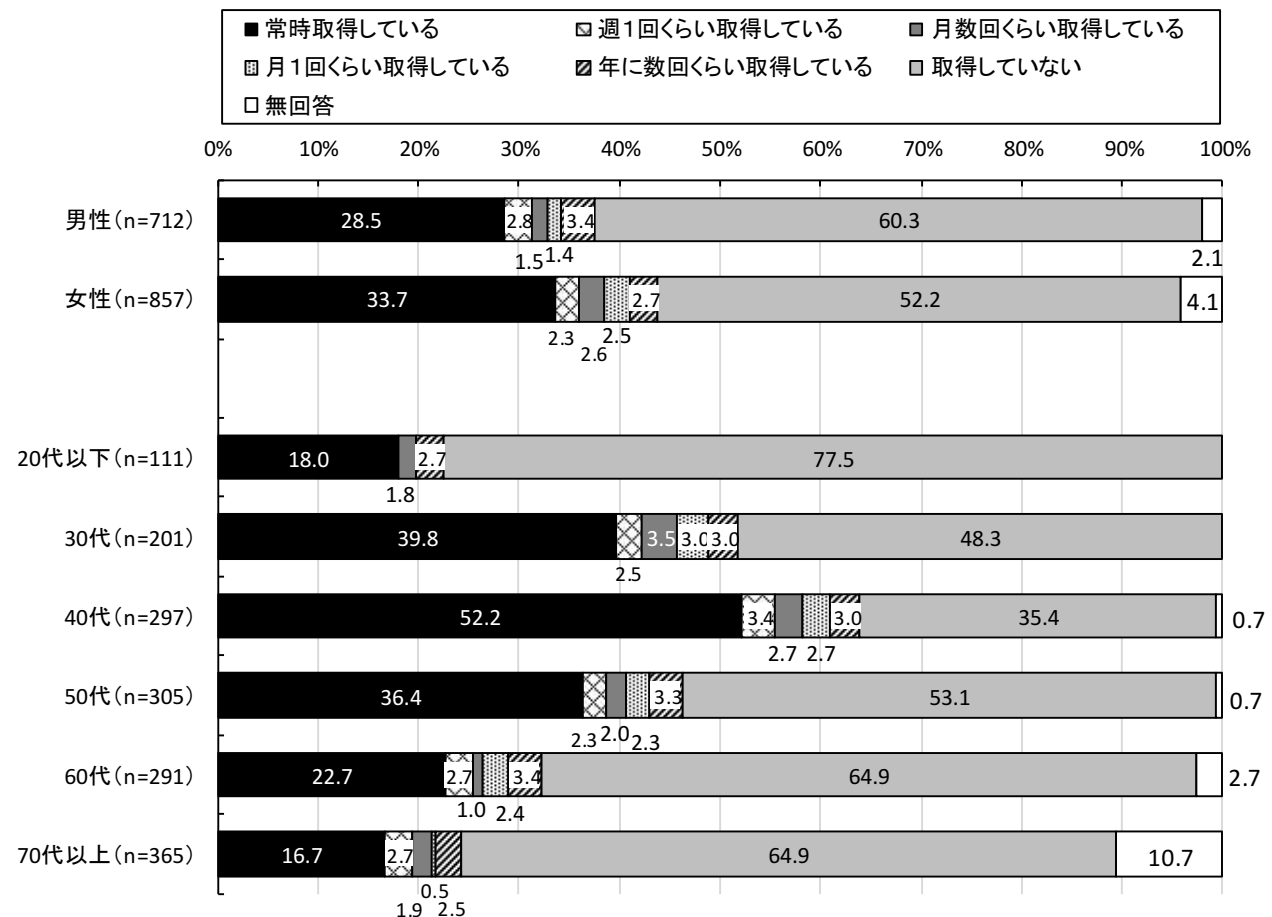


不審者情報の取得状況について尋ねたところ、「常時取得している」が31.3%となった。一方、「取得していない」は55.8%に上る。

性別で見ると、「常時取得している」は男性が28.5%、女性が33.7%と男性よりも女性で高くなっている。

年代別では、「常時取得している」は子育て世代の30代と40代で高く、特に40代では52.2%に上る。一方、20代以下及び60代、70代以上では「常時取得している」は2割またはそれ以下と低くなっており、「取得していない」が6割以上を占めている。

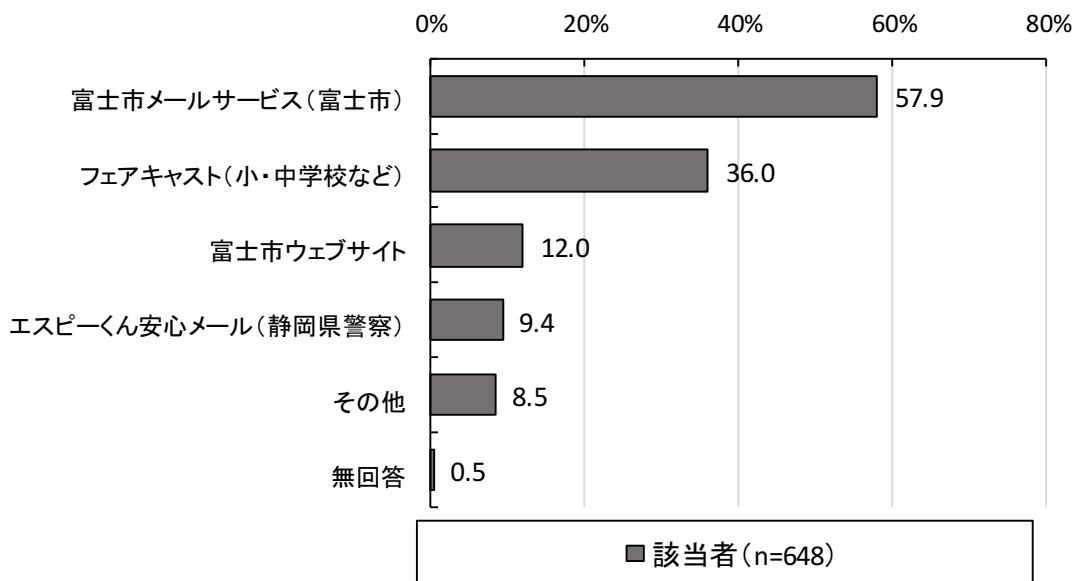
【性別・年代別】



(2) 不審者情報の取得方法

〈問 17 で 1～5 のいずれかに答えた人に伺います〉

問 17-1 不審者情報はどのような方法で取得していますか。
次の中から当てはまるものを全て選んでください。



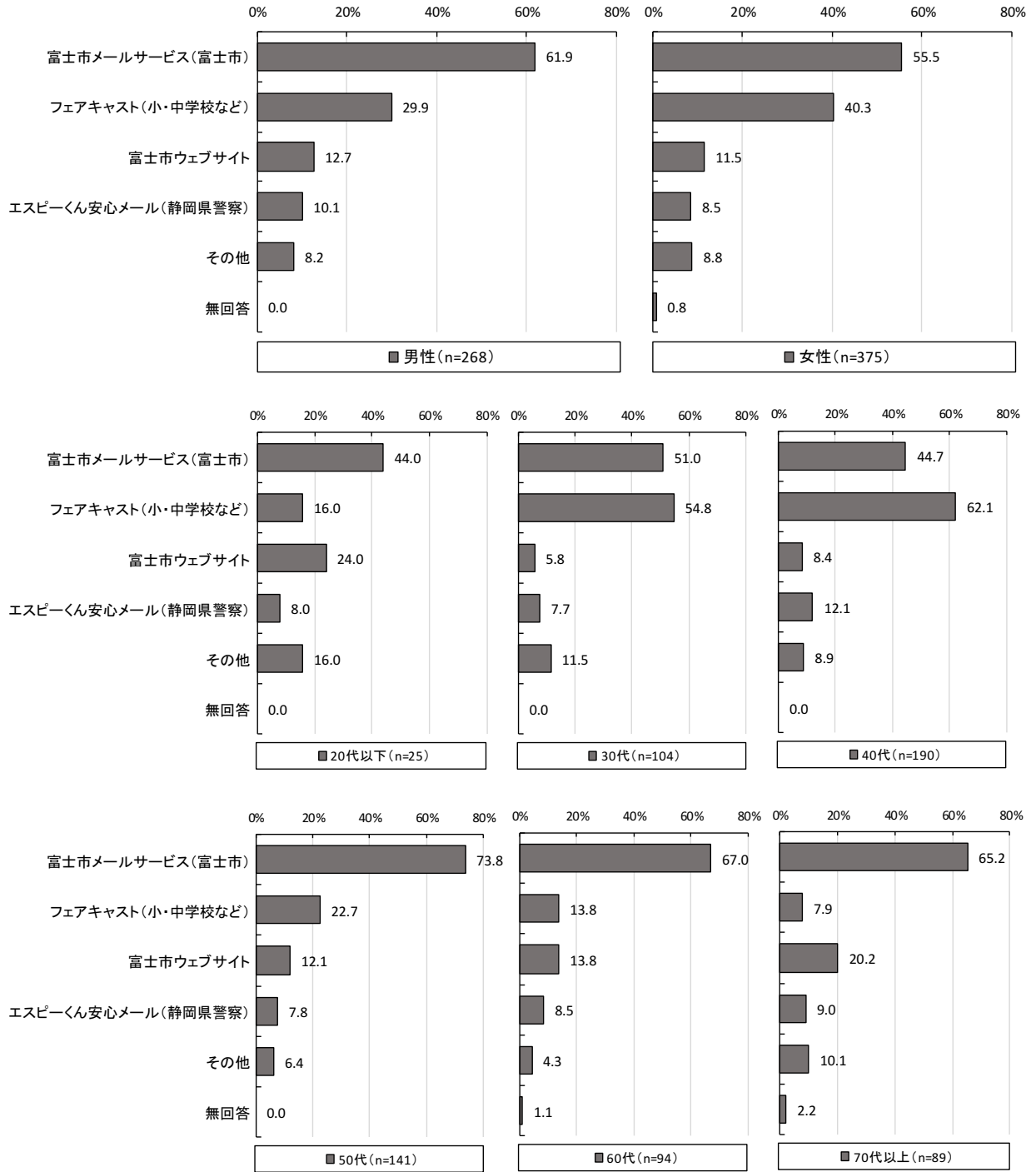
不審者情報を取得している人に、その取得方法について尋ねたところ、「富士市メールサービス」が 57.9%と最も高く、次いで、「フェアキャスト」が 36.0%と続く。

性別で見ると、「富士市メールサービス」は男性で 61.9%、女性で 55.5%と男性のほうが高くなっている。「フェアキャスト」については、男性が 29.9%、女性が 40.3%と女性のほうが高い。

年代別では、「富士市メールサービス」はいずれの年代も 4 割以上と高いが、特に 50 代以上では 6 割を超えている。「フェアキャスト」については、30 代と 40 代で 5 割以上と高く、「富士市ウェブサイト」は 20 代以下と 70 代以上で 2 割を超え、他の年代よりも高くなっている。

IV 調査結果

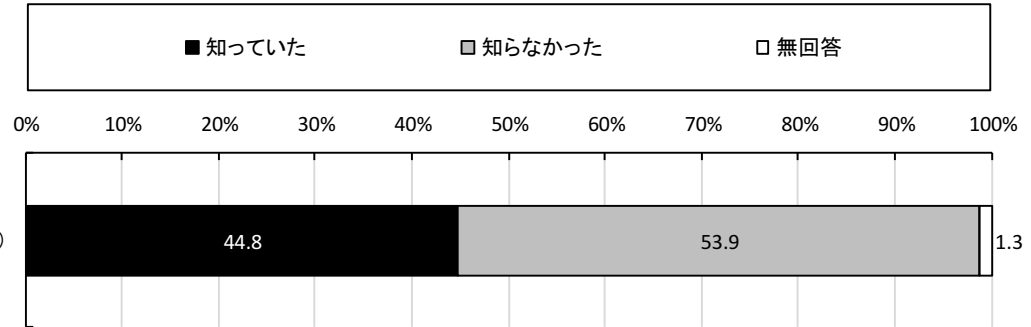
【性別・年代別】



(3) 同報無線放送における「軒先運動」や不審者情報放送の認知

〈全ての人に伺います〉

問 18 富士市が、同報無線放送（火災や行方不明の情報提供の依頼などが流れる放送システム）により、毎月15日の「子どもの安全を守る市民行動の日」に家の前や通りに出て子どもたちを見守る「軒先（のきさき）運動」へのご協力をお願いや不審者情報発生件数を放送していることを知っていましたか。次の中から1つだけ選んでください。

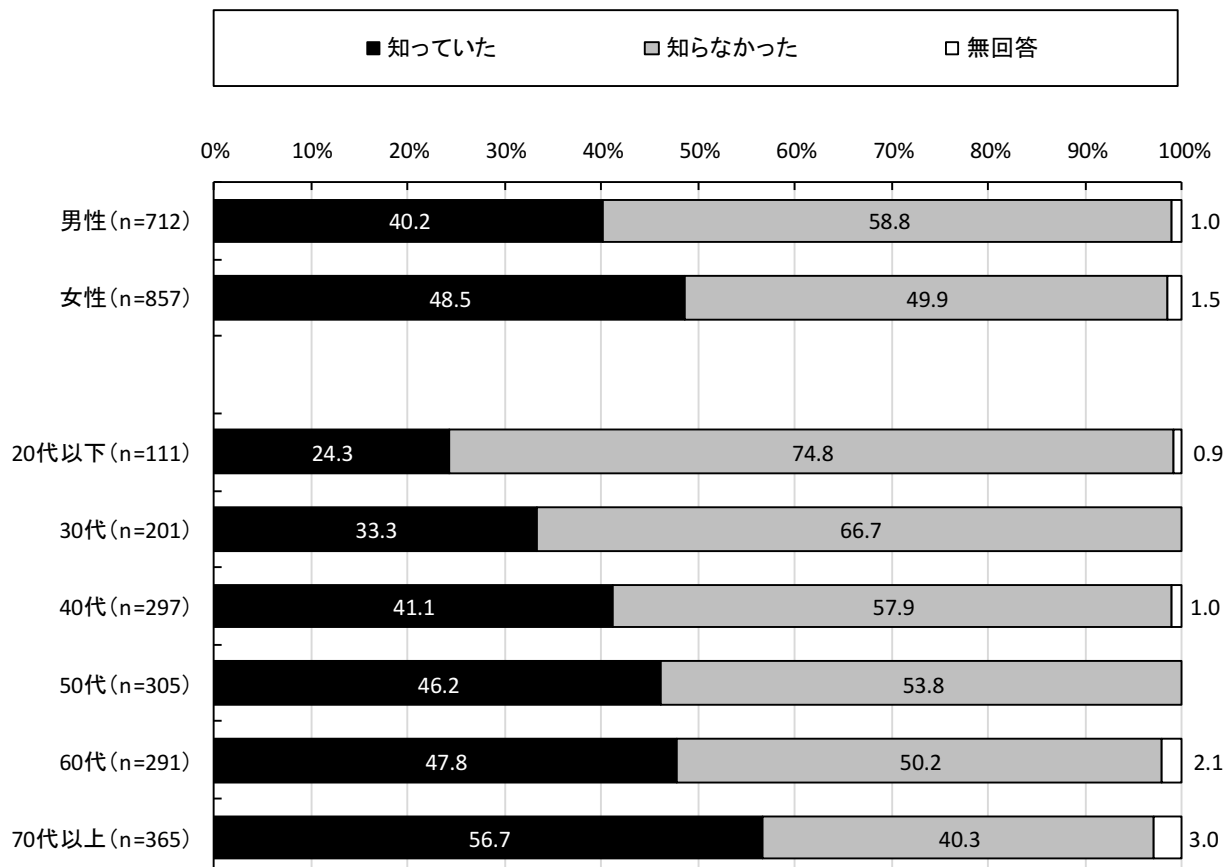


同報無線放送における「軒先運動」や不審者情報放送の認知を尋ねたところ、「知っていた」は44.8%となった。

性別で見ると、「知っていた」は男性で40.2%、女性で48.5%と女性のほうが高くなっている。

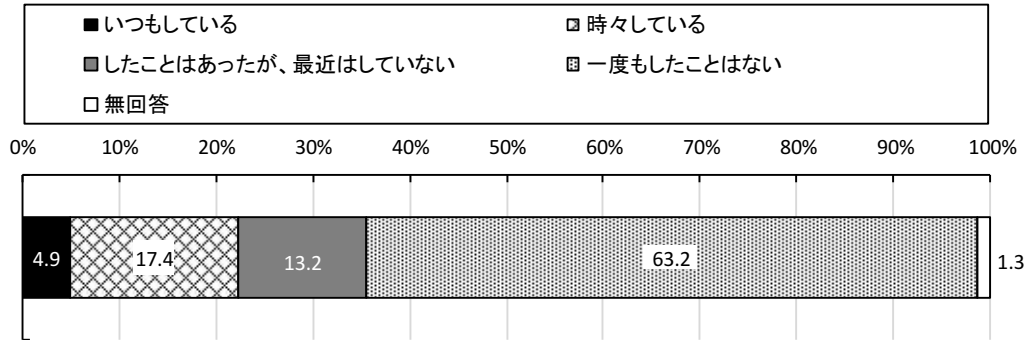
年代別では、「知っていた」は年代を追うごとに顕著に高くなっており、20代では24.3%であるのに対し、70代以上では56.7%と30ポイント以上の差となっている。

【性別・年代別】



(4) 「軒先運動」「ながら見守り」の経験

問 19 あなたは今までに、「軒先運動」や散歩や買い物をしながら子どもたちを見守る「ながら見守り」をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

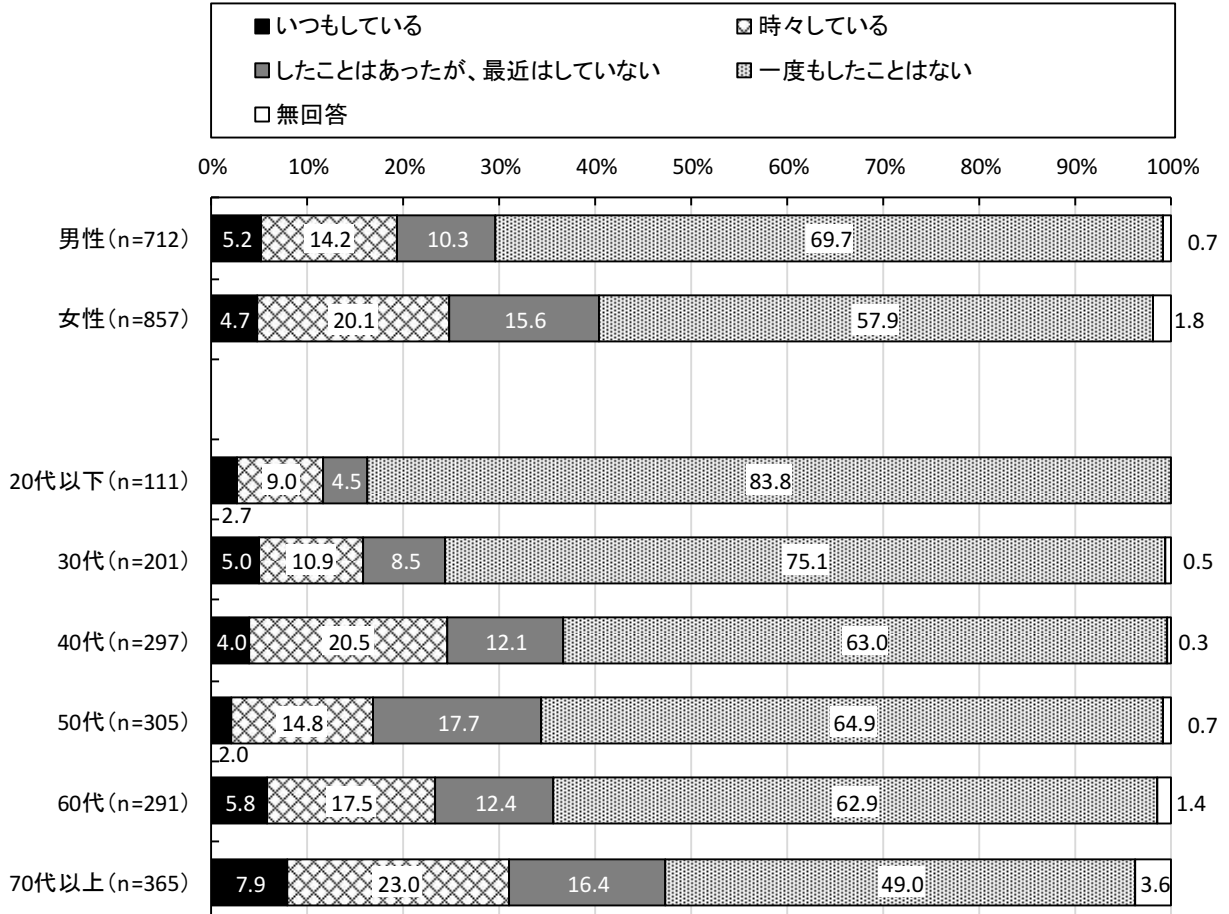


「軒先運動」「ながら見守り」の経験を尋ねたところ、「いつもしている」が4.9%、「時々している」が17.4%とおおよそ2割の実施率となっている。また「したことはあったが、最近はしていない」も含め、経験した人の割合は35.5%となった。

性別で見ると、「いつもしている」と「時々している」を合わせた実施率は、男性で19.4%、女性で24.8%と男性よりも女性で高くなっている。

年代別では特に70代以上における実施率が3割と高い。

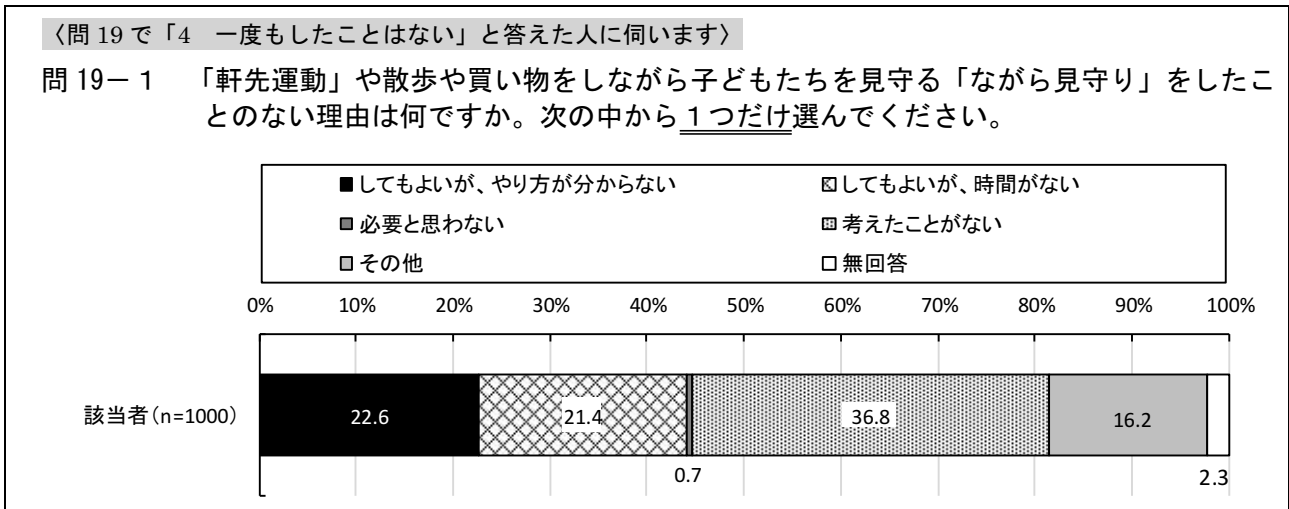
【性別・年代別】



(5) 「軒先運動」「ながら見守り」をしたことのない理由

〈問 19 で「4 一度もしたことはない」と答えた人に伺います〉

問 19-1 「軒先運動」や散歩や買い物をしながら子どもたちを見守る「ながら見守り」をしたことのない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

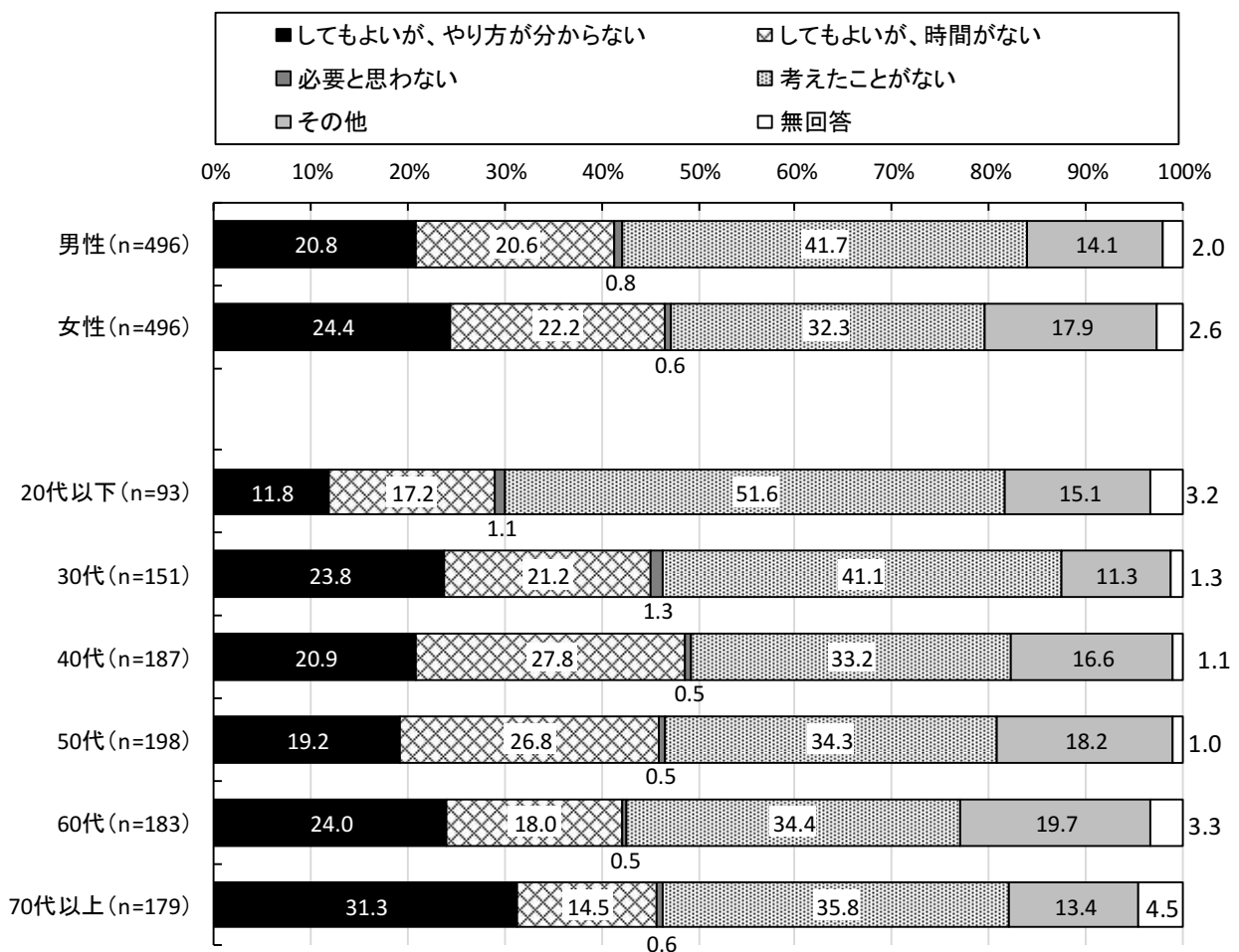


「軒先運動」「ながら見守り」をしたことのない理由を尋ねたところ、「考えたことがない」が 36.8%と最も高く、次いで「してもよいが、やり方が分からない」が 22.6%、「してもよいが、時間がない」が 21.4%となった。

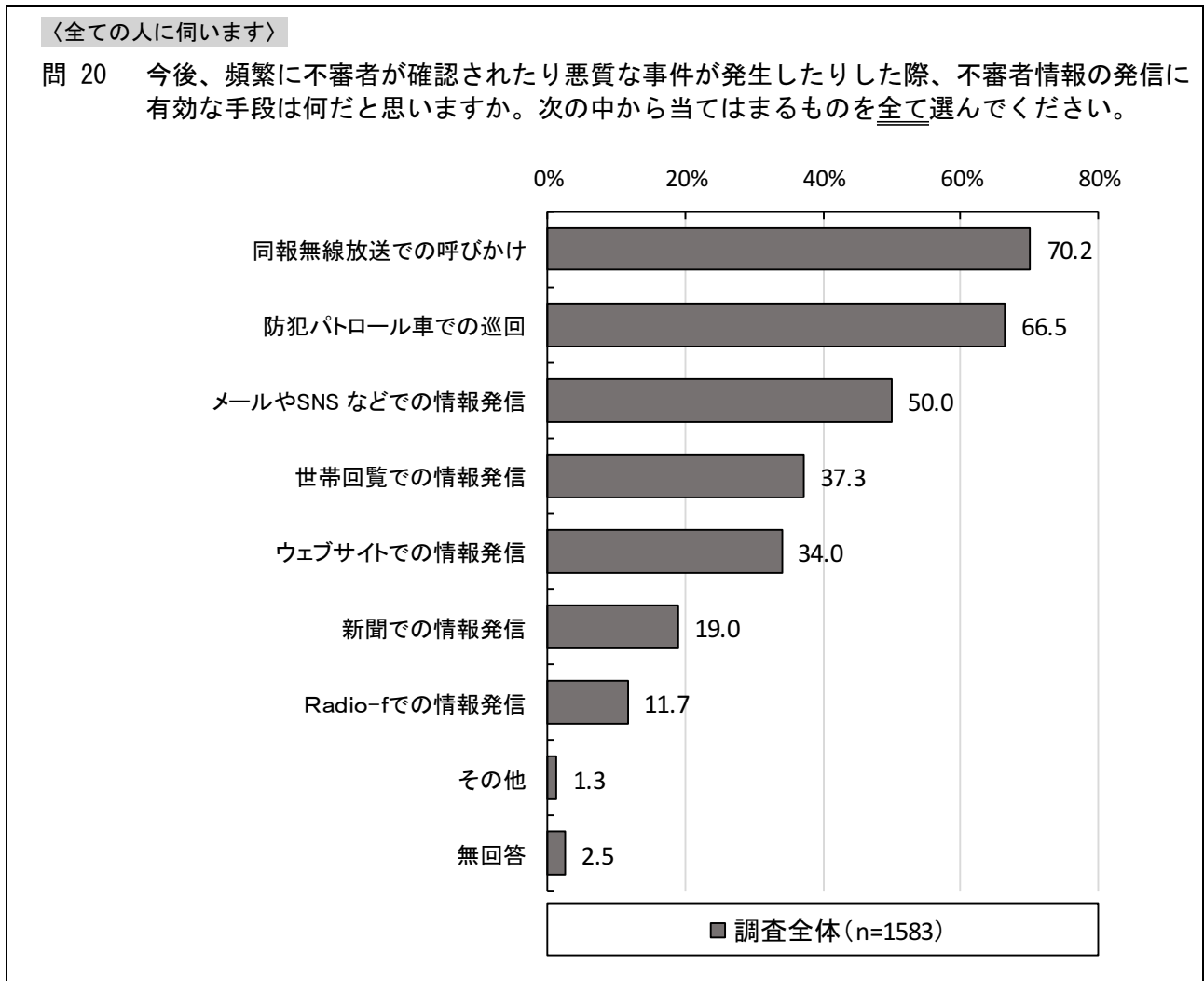
性別で見ると、「してもよいが、やり方が分からない」、「してもよいが、時間がない」のいずれも男性よりも女性で高くなっている。

年代別では、40代、50代では「してもよいが、時間がない」がおおよそ3割と高くなっている。また、70代以上では「してもよいが、やり方が分からない」が 31.3%と高い。

【性別・年代別】



(6) 不審者情報の発信に有効だと思う手段

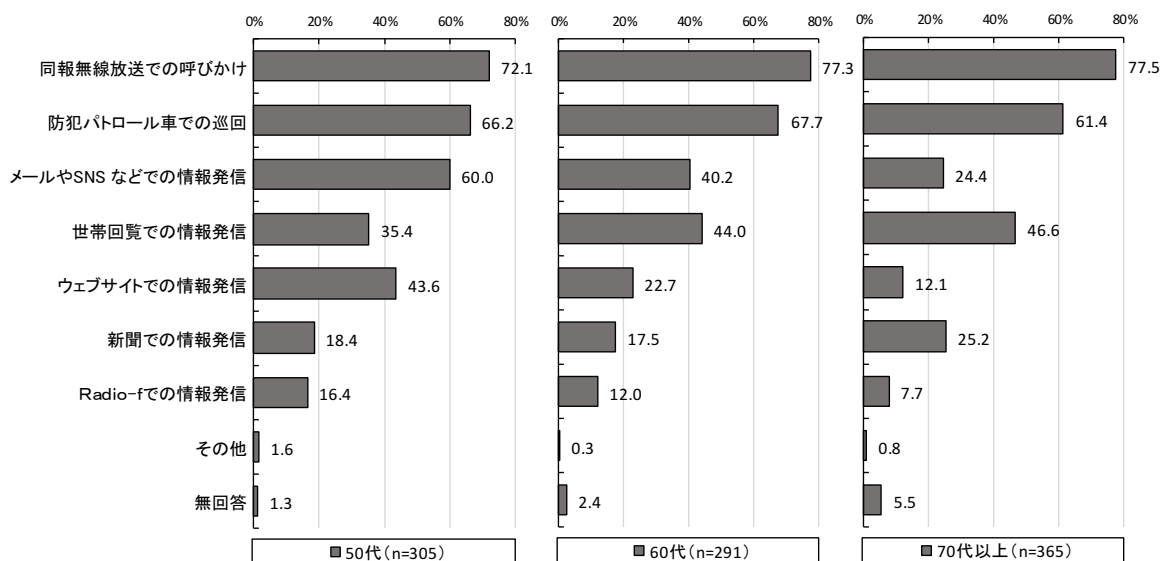
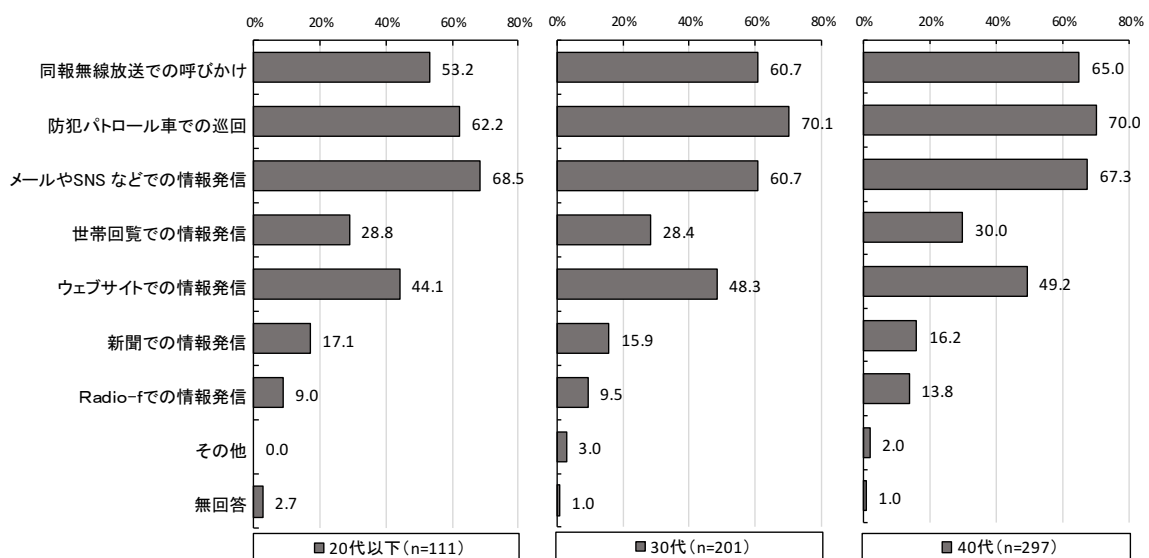
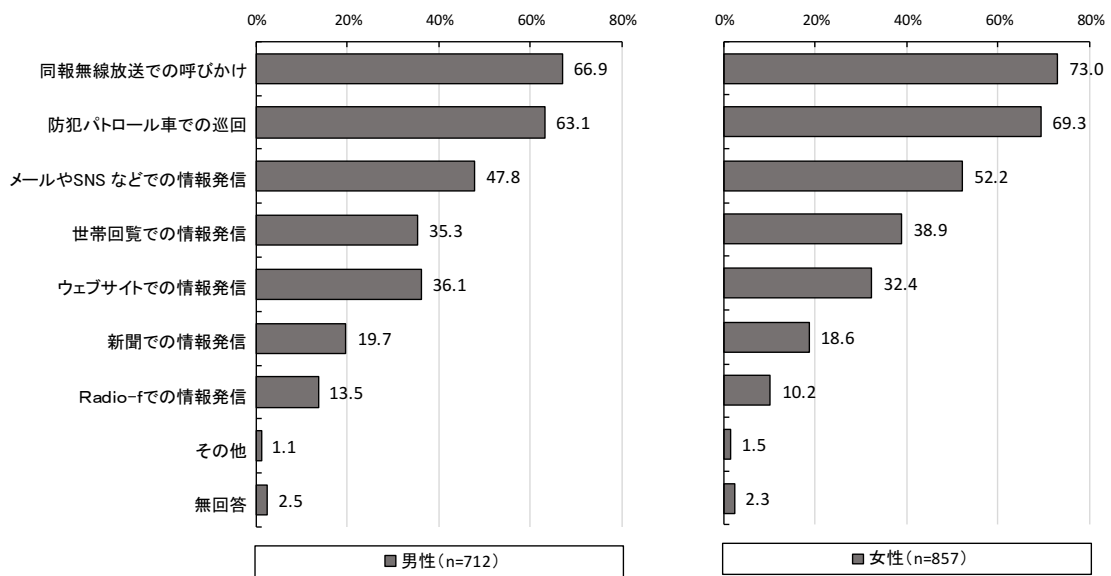


不審者情報の発信に有効だと思う手段を尋ねたところ、「同報無線放送での呼びかけ」が70.2%で最も高く、次いで「防犯パトロール車での巡回」が66.5%、「メールやSNSなどでの情報発信」が50.0%と続く。

性別では、男女間で差は見られない。

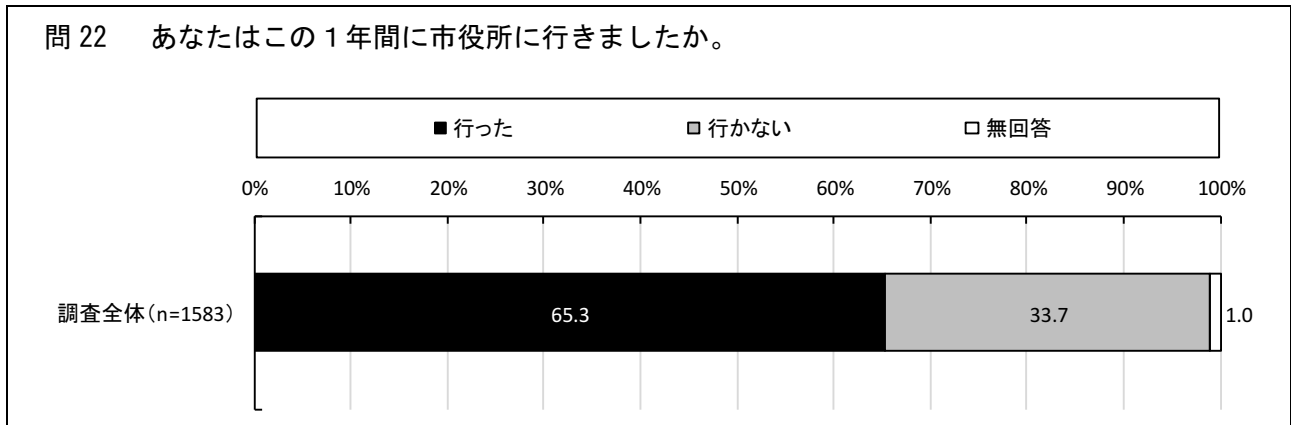
年代別で見ると、いずれの年代も「同報無線放送での呼びかけ」、「防犯パトロール車での巡回」は6割以上と高い。「世帯回覧での情報発信」は60代以上、「メールやSNSなどでの情報発信」と「ウェブサイトでの情報発信」は50代以下で高くなっている。

【性別・年代別】



Ⅲ 「職員に期待する～こんな職員であってほしい～」について

(1) 直近1年間の市役所訪問

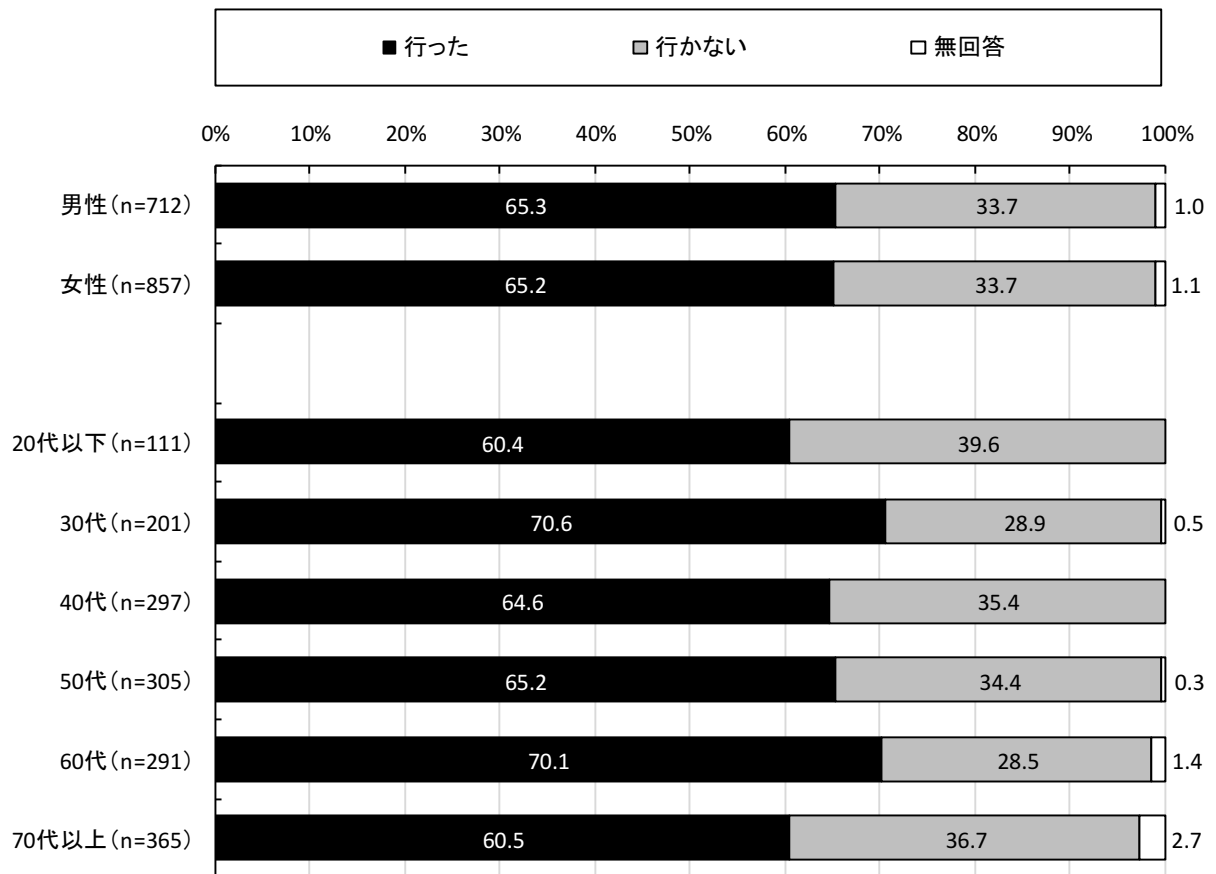


直近1年間の市役所訪問について尋ねたところ、「行った」が65.3%、「行かない」が33.7%となった。

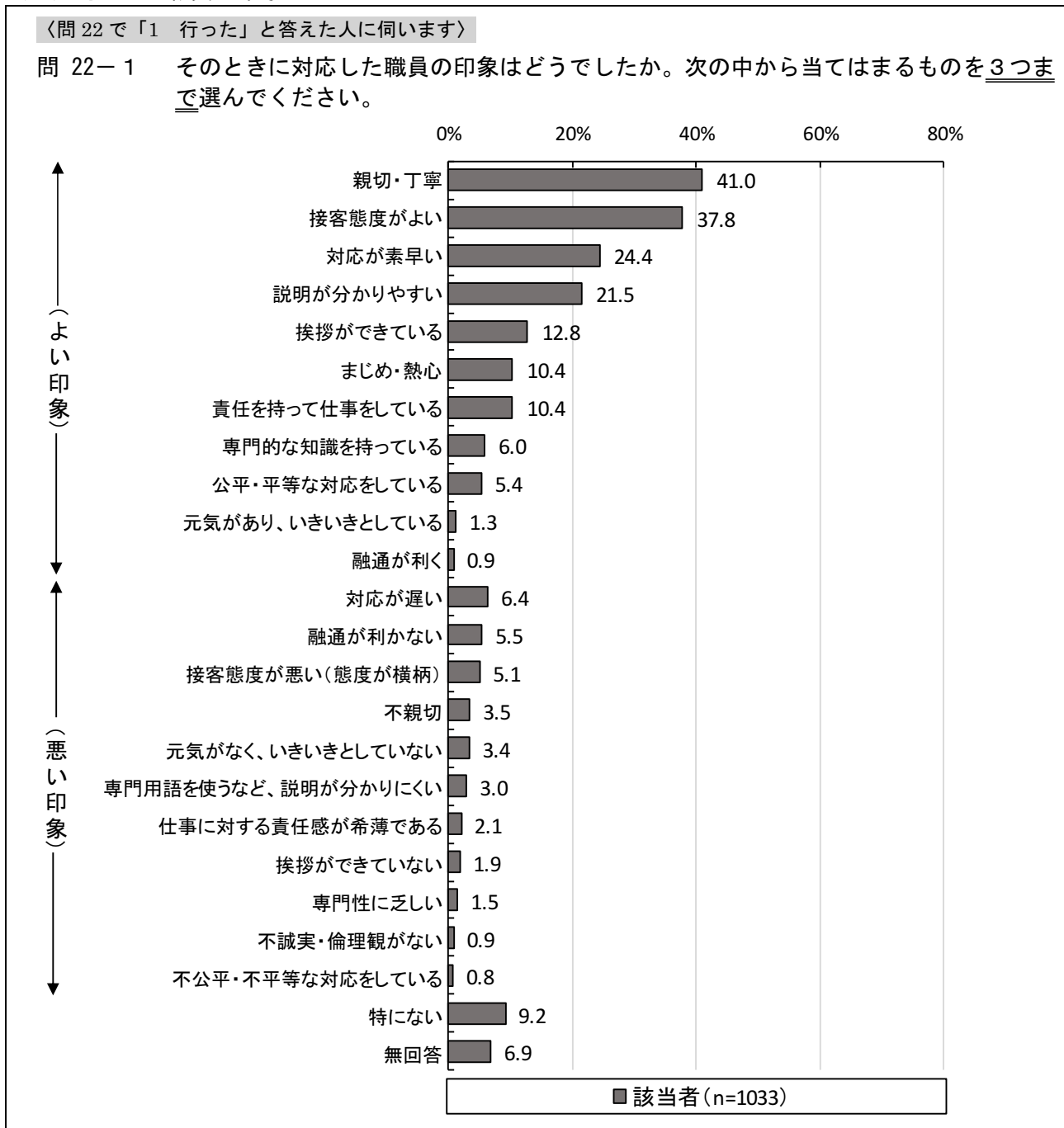
性別で見て、男女間で差は見られない。

年代別で見ると、30代と60代で「行った」が7割と、他の年代よりも高かった。

【性別・年代別】



(2) 対応した職員の印象



対応した職員の印象について尋ねたところ、「親切・丁寧」が41.0%と最も高く、次いで「接客態度がよい」37.8%、「対応が素早い」24.4%、「説明が分かりやすい」21.5%と続く。

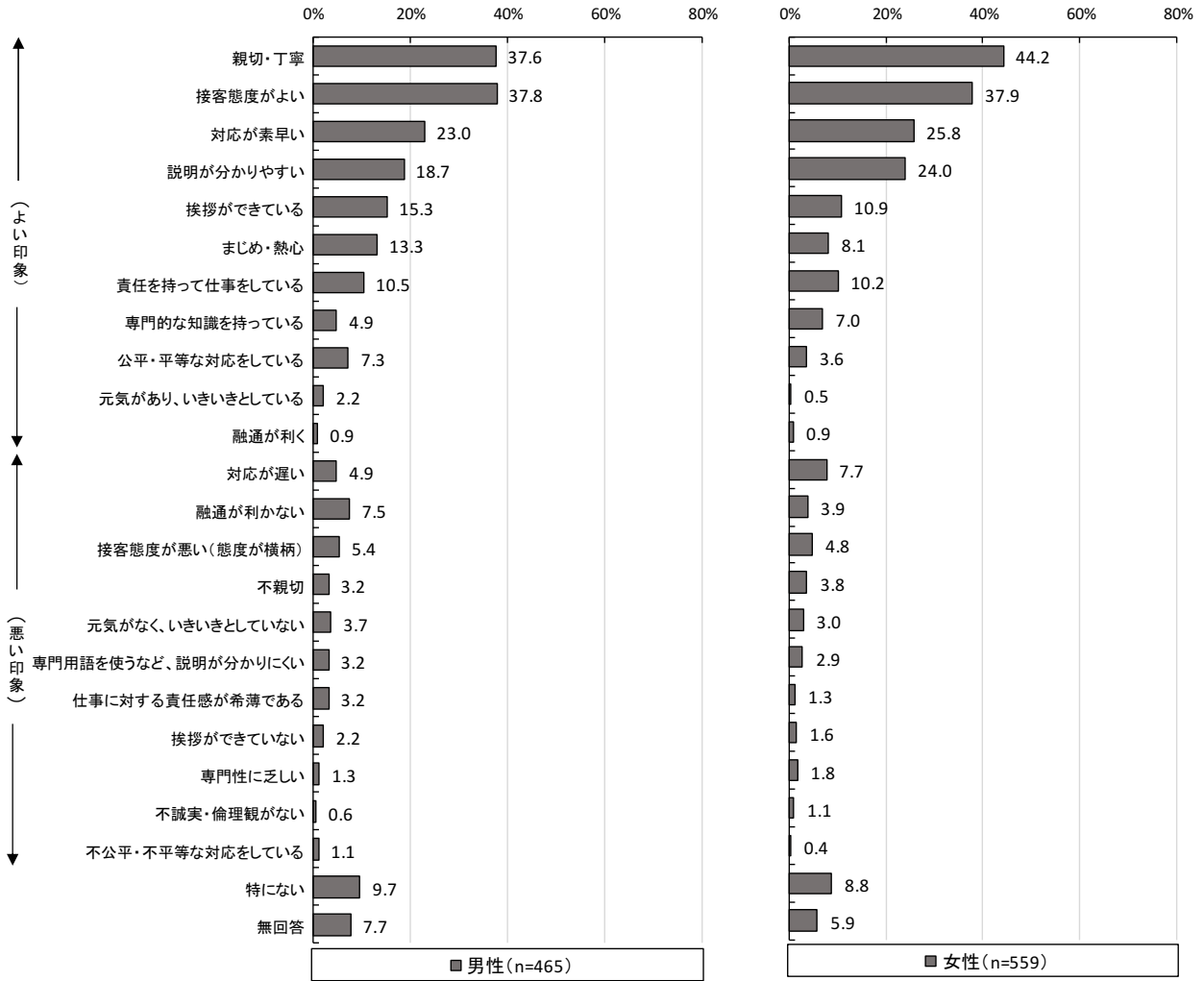
悪い印象の中では、「対応が遅い」が6.4%、「融通が利かない」が5.5%などで全ての項目が1割を下回った。

性別で見て、男女間で差は見られない。

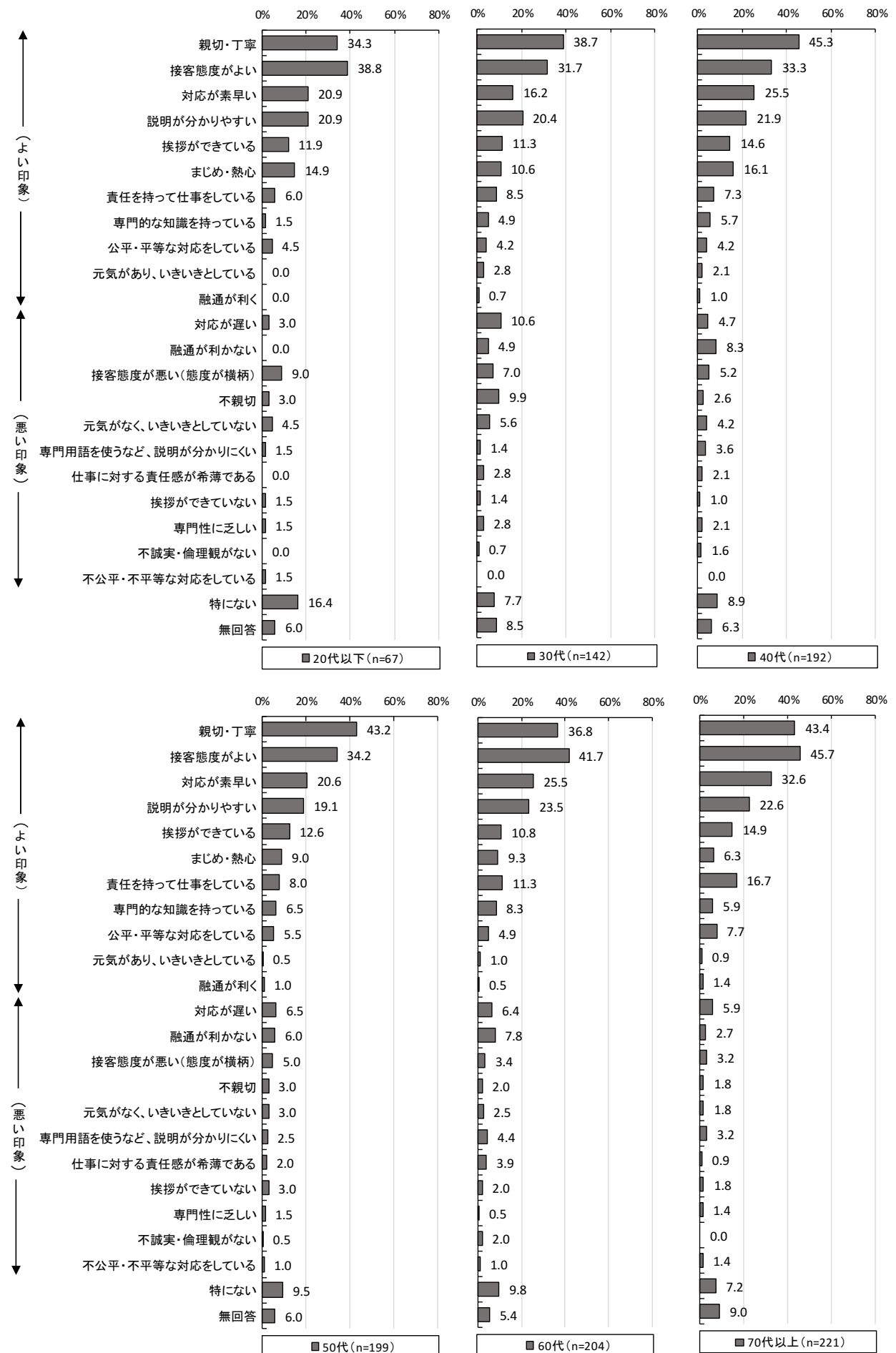
年代別で見て年代間で大きな差は見られないが、悪い印象の「対応が遅い」、「不親切」は30代でやや高めとなっている。

IV 調査結果

【性別】



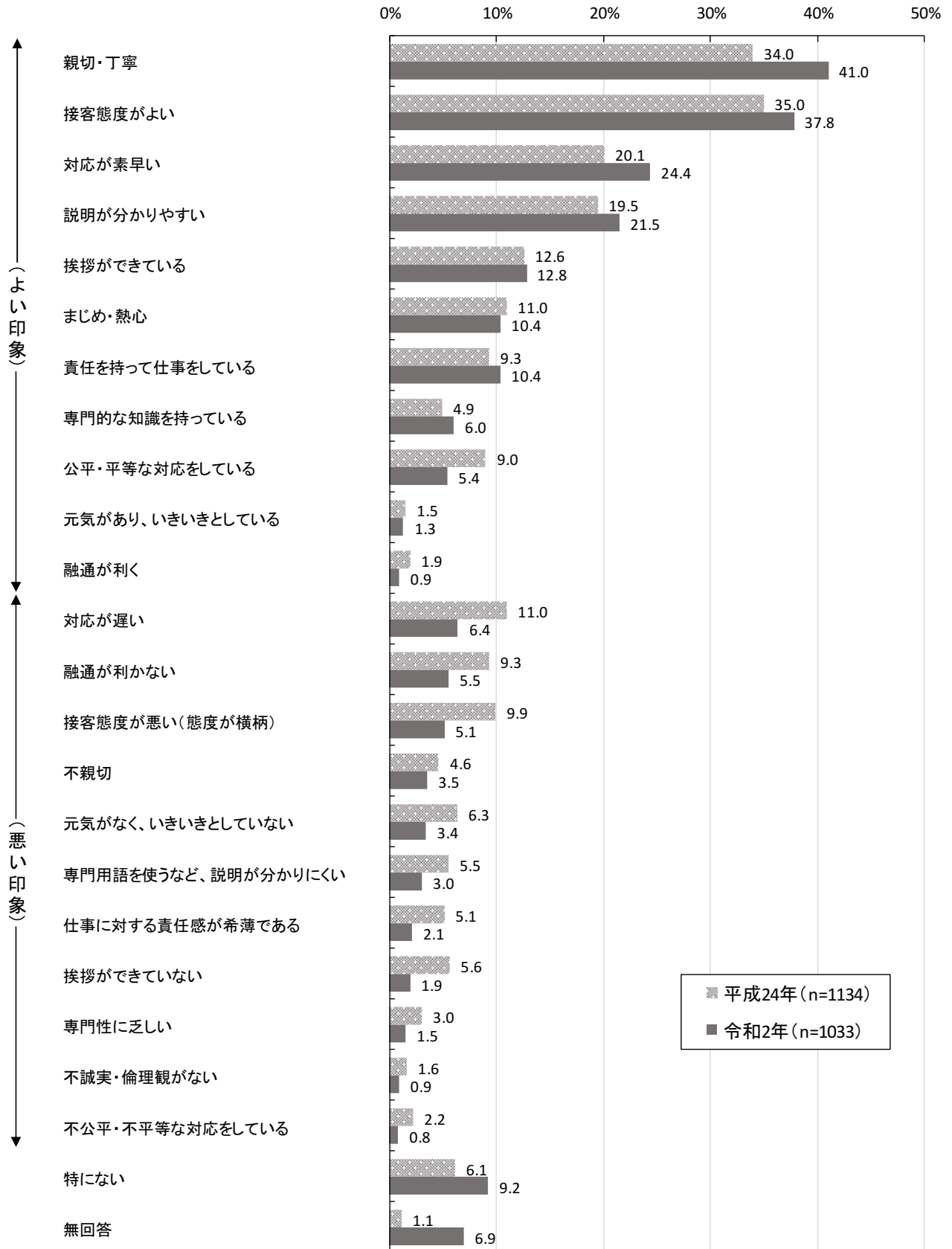
【年代別】



IV 調査結果

平成24年の調査結果と比較すると、“よい印象”としては「親切・丁寧」、「対応が素早い」のポイントが顕著に増加している。一方、“悪い印象”では全ての項目において減少している。

【経年変化】

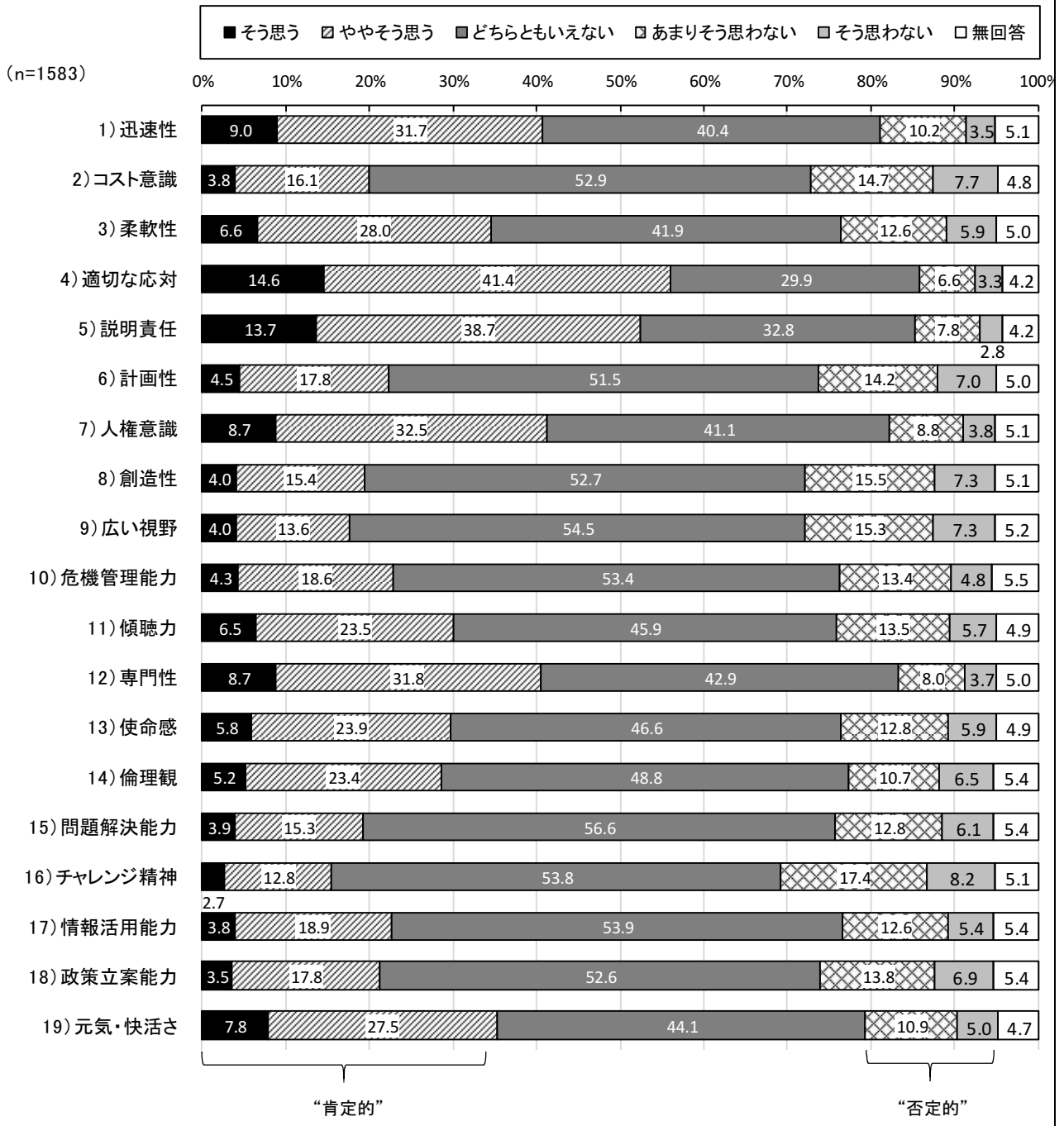


(3) 富士市職員の姿勢や態度、能力

〈全ての人に伺います〉

問 23 あなたは、現在の富士市の職員に、以下の姿勢や態度、能力が備わっていると思いますか。次の各項目についてそれぞれ1つずつ選んでください。

※よく分からない場合は、富士市の職員に対して、あなたが持っているイメージでお答えください。



富士市職員に対する評価を尋ねたところ、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた“肯定的”な回答の割合で見ると、“4) 適切な応対”、“5) 説明責任”は5割と高くなっている。また、“1) 迅速性”、“7) 人権意識”、“12) 専門性”も4割と高めとなっている。

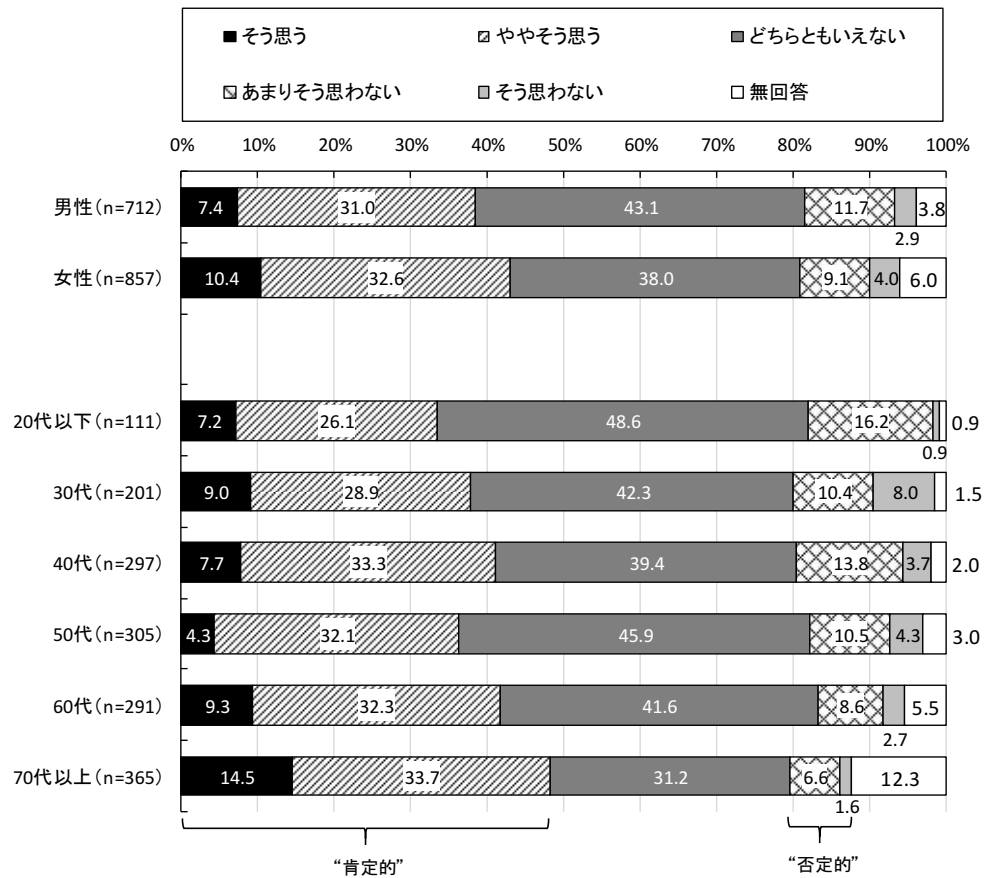
一方、“2) コスト意識”、“8) 創造性”、“9) 広い視野”、“15) 問題解決能力”、“16) チャレンジ精神”などは、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた“否定的”な回答が“肯定的”な回答を上回っている。

【性別・年代別】

1) 市民の要望に素早く対応している〔迅速性〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

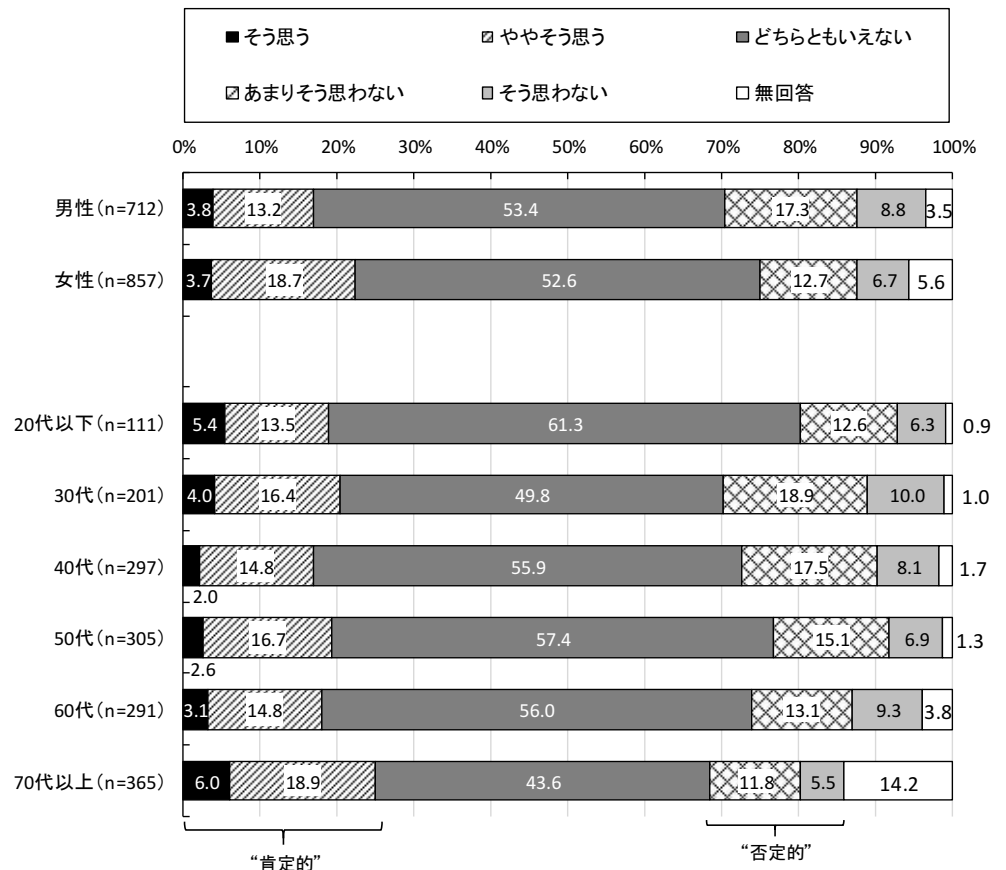
年代別では“肯定的”が70代以上で48.2%と高くなっている。



2) 最少の経費で最大の効果を得る努力をしている〔コスト意識〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。男性では、“否定的”が“肯定的”を上回っている。

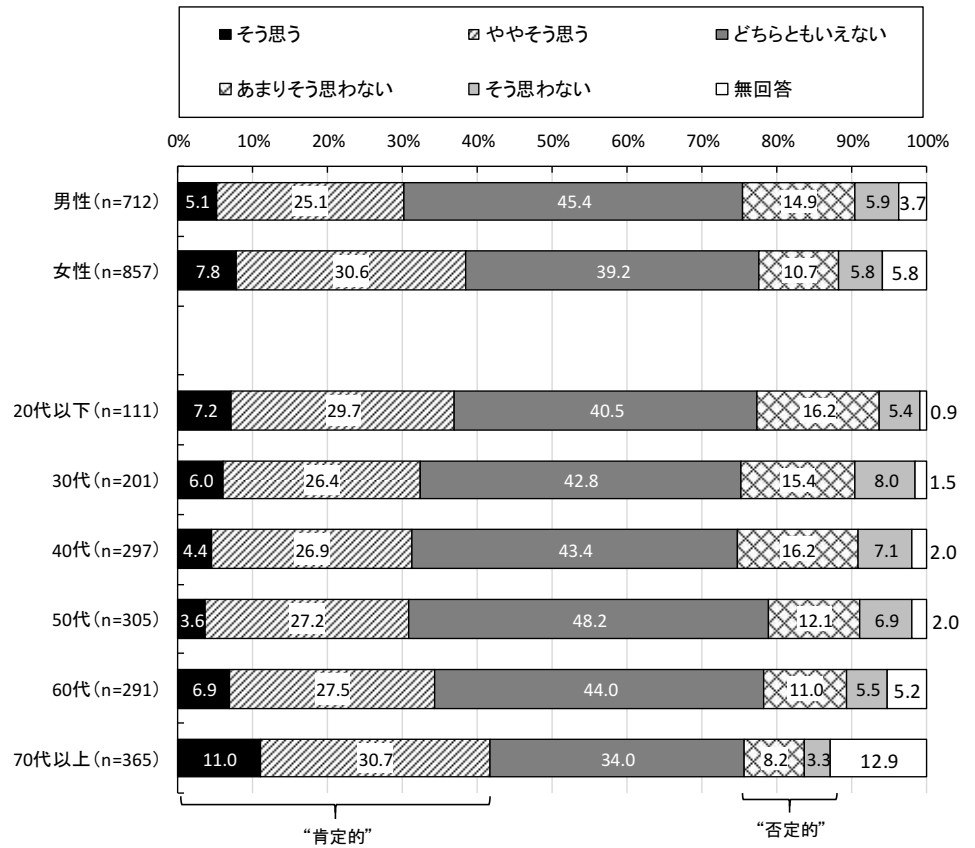
年代別で見ると“肯定的”は70代以上が最も高く、一方、30代~60代では“否定的”が“肯定的”を上回っている。



3) 状況に応じて柔軟に対処している〔柔軟性〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

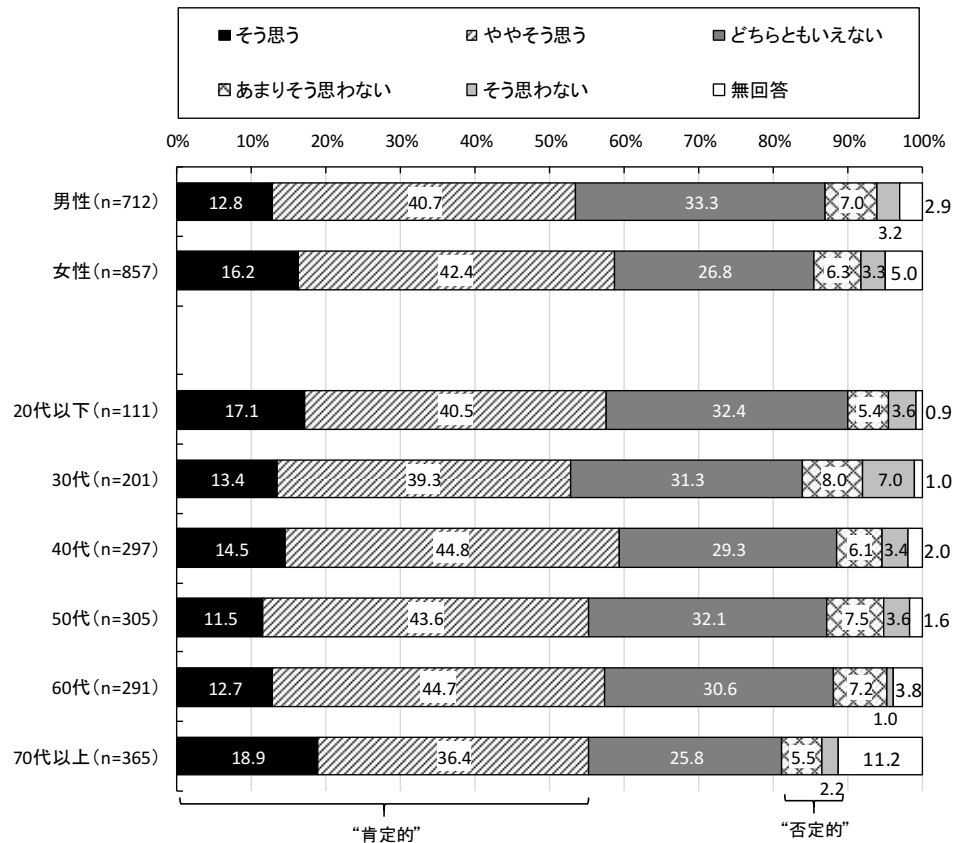
年代別では“肯定的”は70代以上で41.7%と高くなっている。



4) 明るく、親切・丁寧に対応している〔適切な対応〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

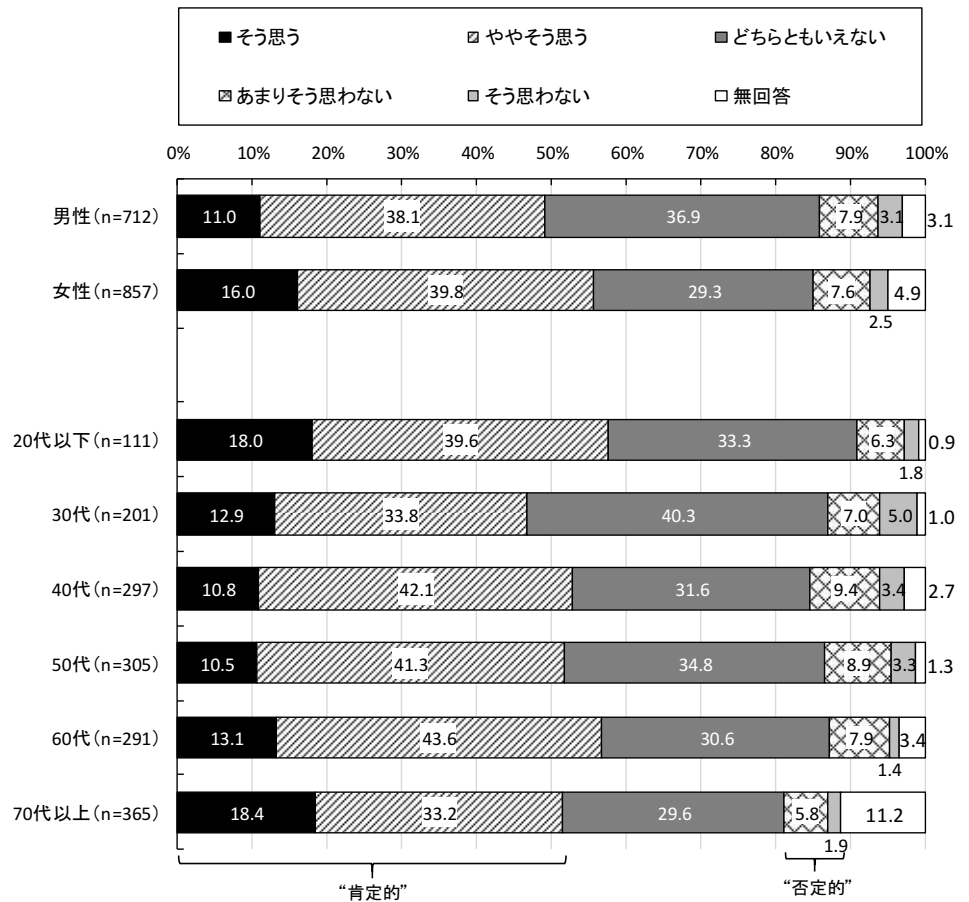
年代別では「そう思う」が20代以下と70代以上でやや高くなっており、全ての年代で“肯定的”が5割以上となっている。



5) 分かりやすく納得のいく説明ができています〔説明責任〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

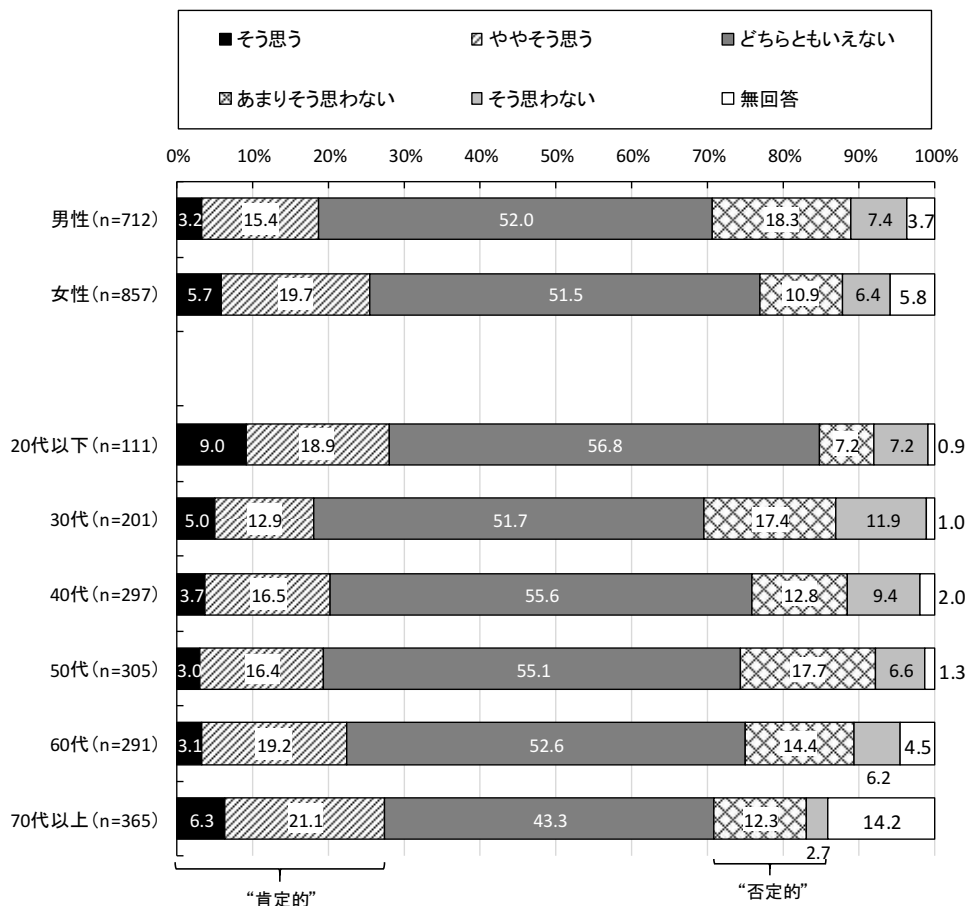
年代別では、20代以下と70代以上において「そう思う」がやや高めとなっている。30代を除くいずれの年代も“肯定的”が5割を超えている。



6) その場しのぎの仕事ではなく、将来を見据えて仕事をしている〔計画性〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。男性では“否定的”が“肯定的”を上回っている。

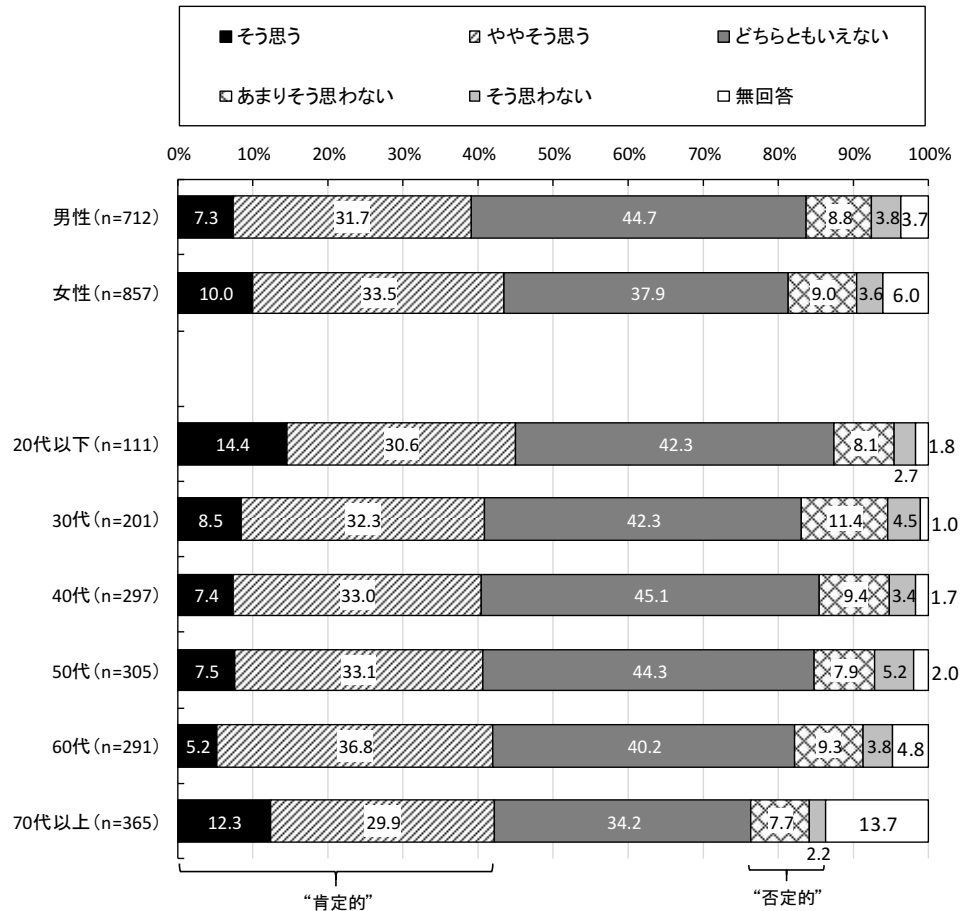
年代別では、20代以下と70代以上において“肯定的”がやや高めとなっている。一方、30代～50代では“否定的”が“肯定的”を上回っている。



7) 相手を尊重し、公平・平等に接している〔人権意識〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

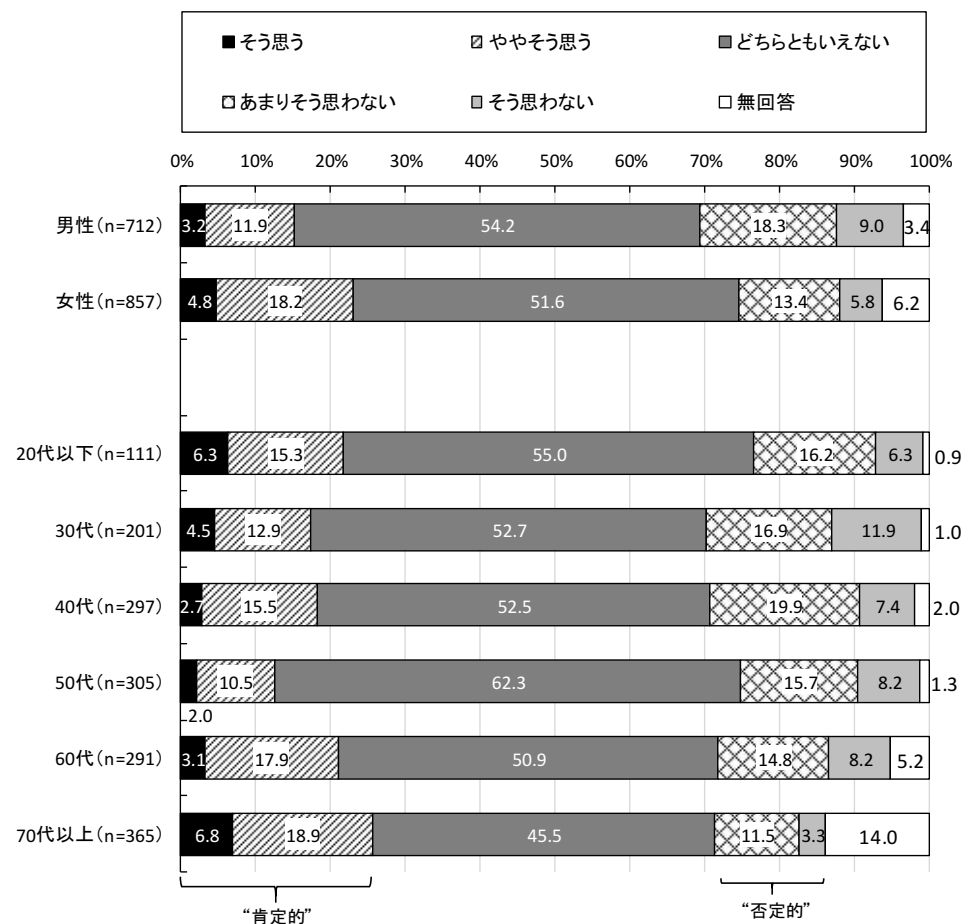
年代別では、年代間の差はほとんどなく、全ての年代で“肯定的”が4割を超えている。



8) 前例にとらわれず、改革の意識を持って仕事をしている〔創造性〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。男性では“否定的”が“肯定的”を12.2ポイント上回っている。

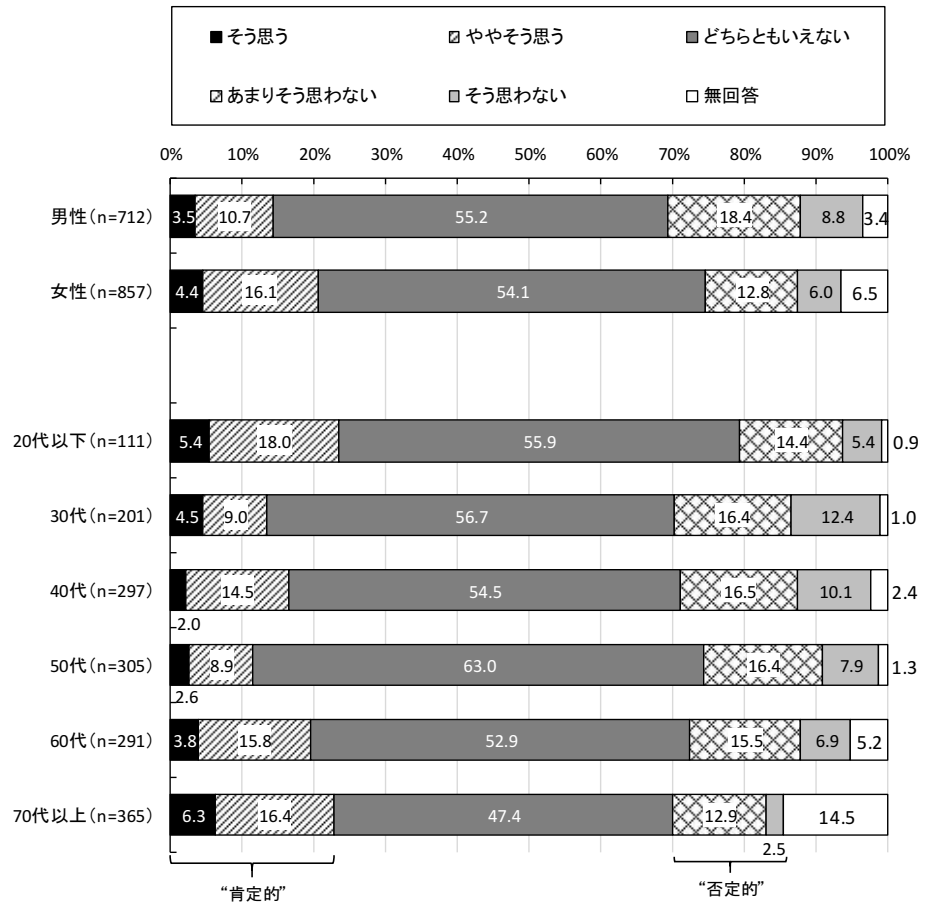
年代別では、70代以上を除くいずれの年代も“否定的”が“肯定的”を上回っている。



9) 枠にとらわれない、多面的な視点を持っている〔広い視野〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。男性では“否定的”が“肯定的”を上回っている。

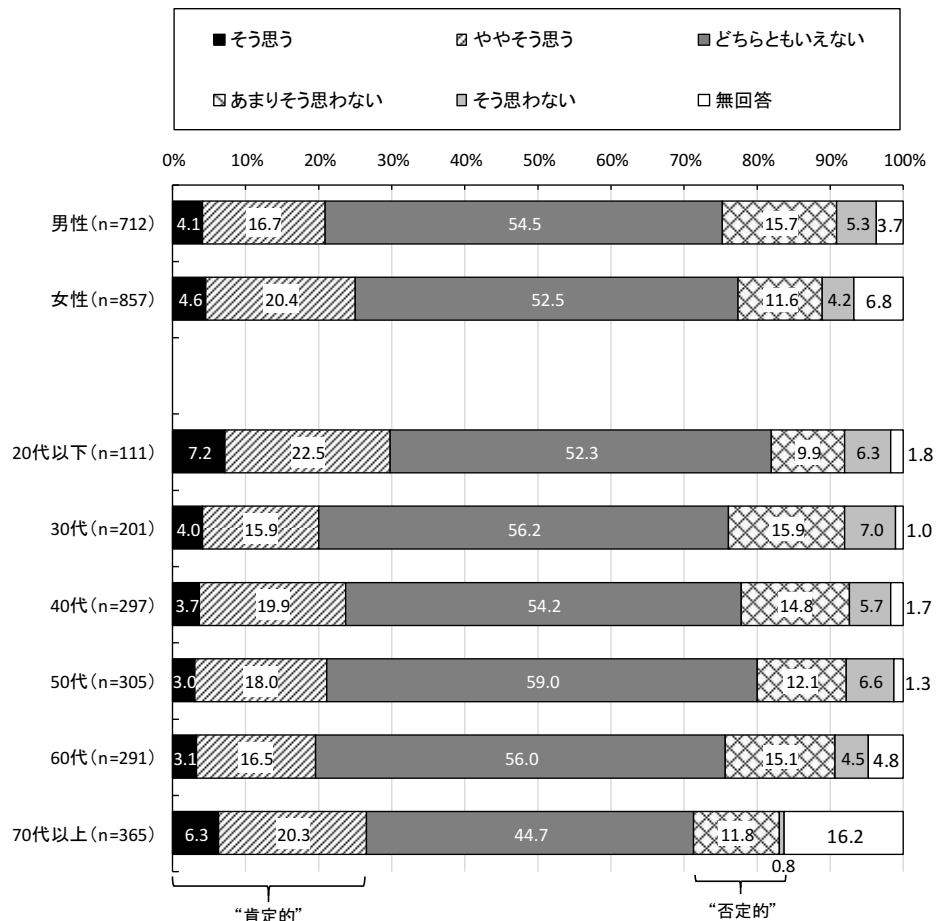
年代別では30代～60代において、“否定的”が“肯定的”を上回っている。



10) 危機に対する備えがあり、常に危機意識を持っている〔危機管理能力〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

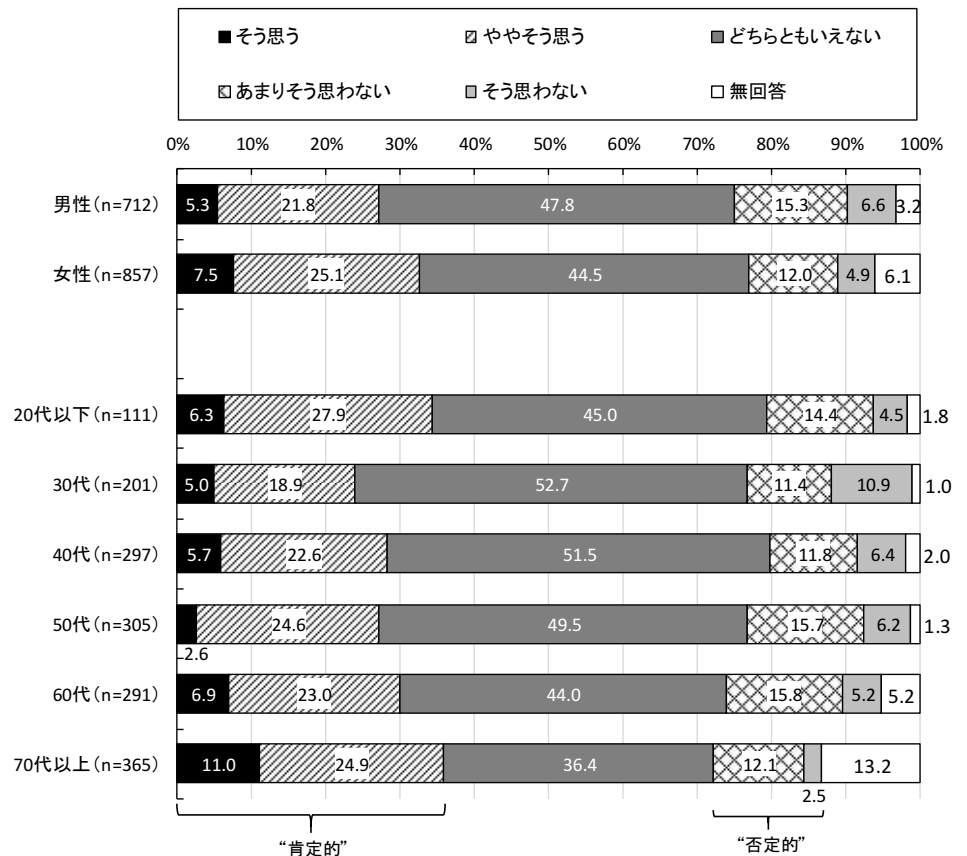
年代別では、20代以下と70代以上において“肯定的”な回答が他の年代と比べて高めとなっている。



11) 市民の言葉を謙虚に受け止めている〔傾聴力〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

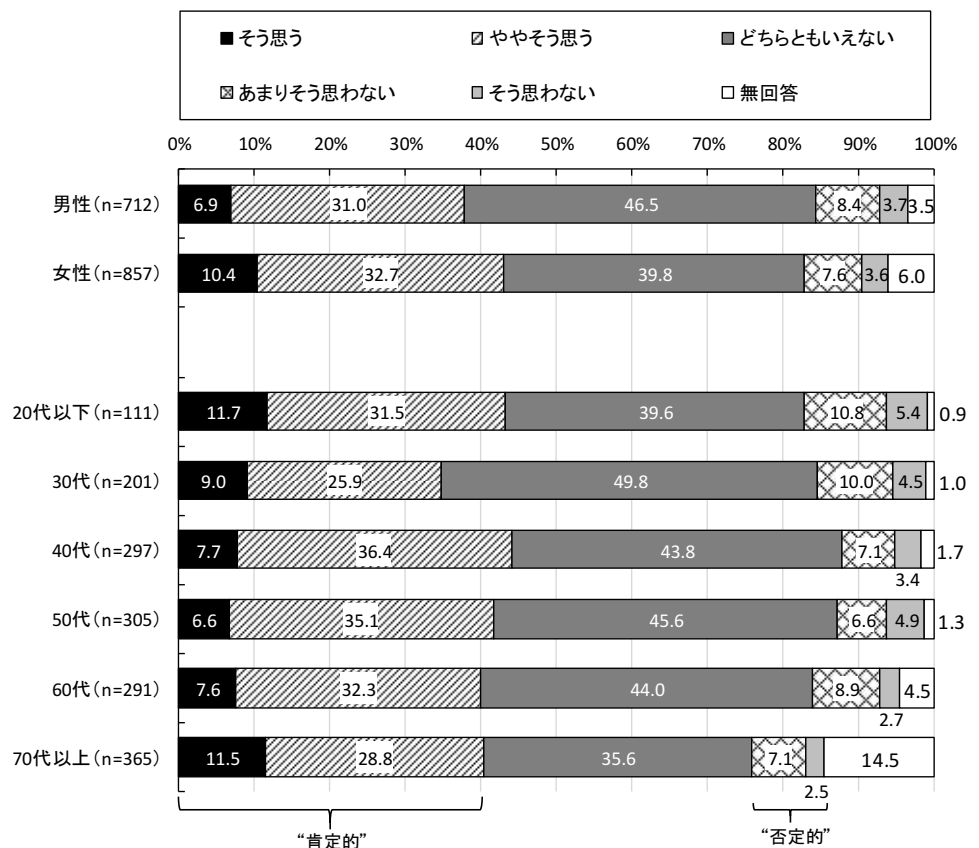
年代別では、20代以下と70代以上において“肯定的”な回答が他の年代と比べて高めとなっている。



12) 業務に関する専門性を持っている〔専門性〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

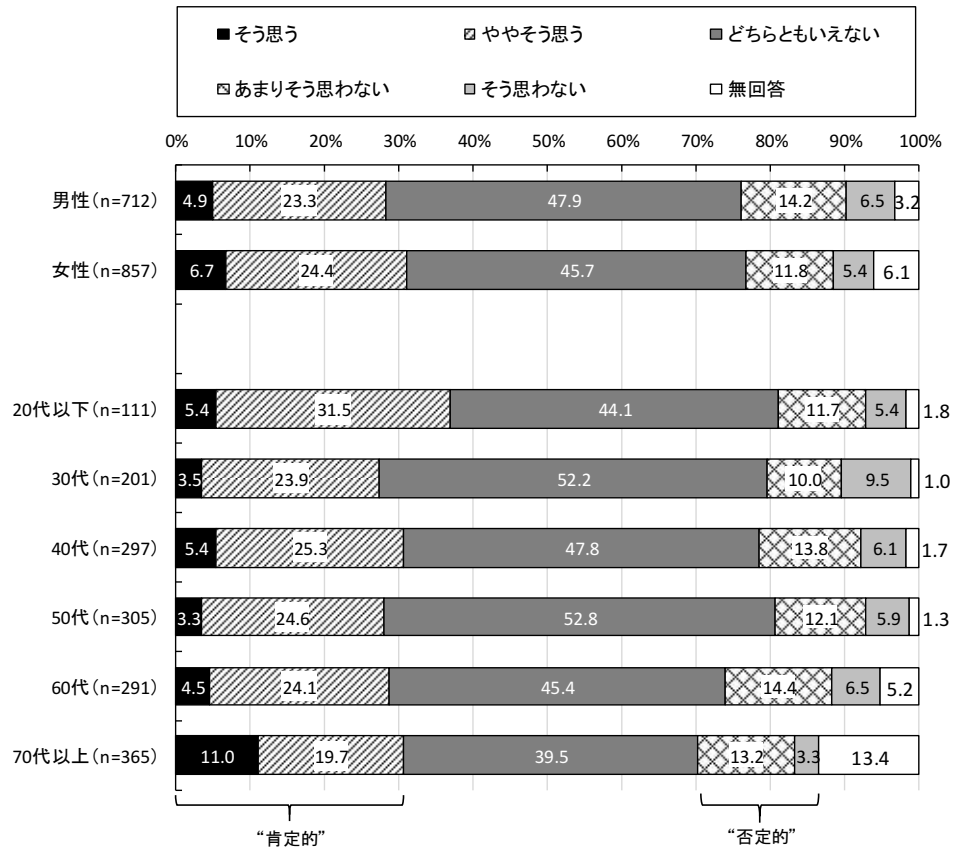
年代別では、30代において“肯定的”な回答が他の年代と比べて低くなっている。30代を除くいずれの年代も“肯定的”が4割程度となっている。



13) 奉仕者として、使命感を持って仕事をしている〔使命感〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

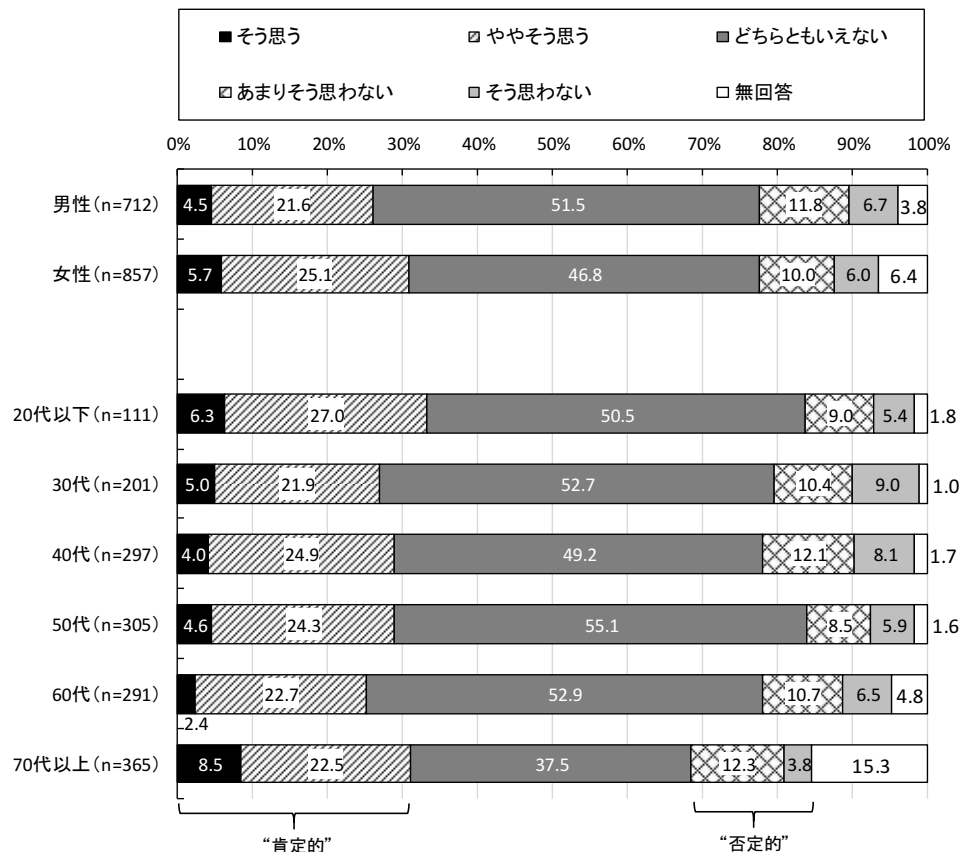
年代別では、20代以下で“肯定的”な回答が36.9%となり高くなっている。



14) 公務員としての倫理観を持っている〔倫理観〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

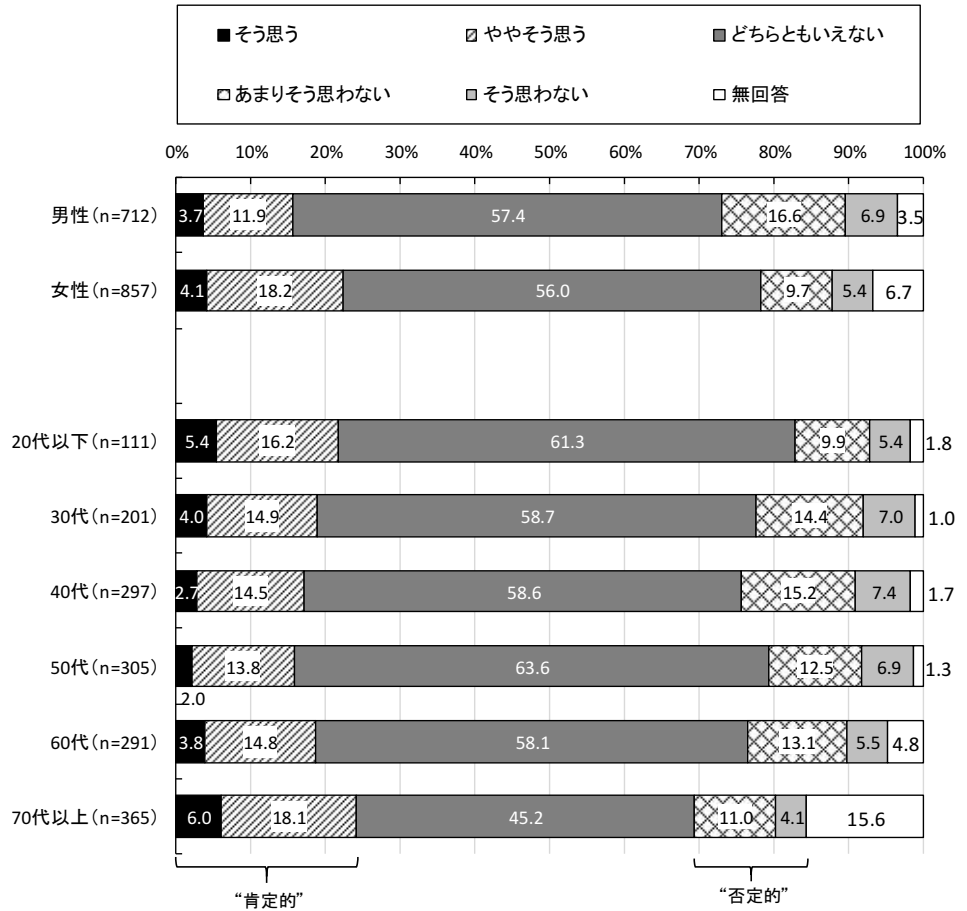
年代別では、年代間で大きな差は見られない。



15) 課題を見つけ、解決する能力がある〔問題解決能力〕

性別で見ると、女性においては“肯定的”な回答が“否定的”を上回り、男性においては、“否定的”が上回っている。

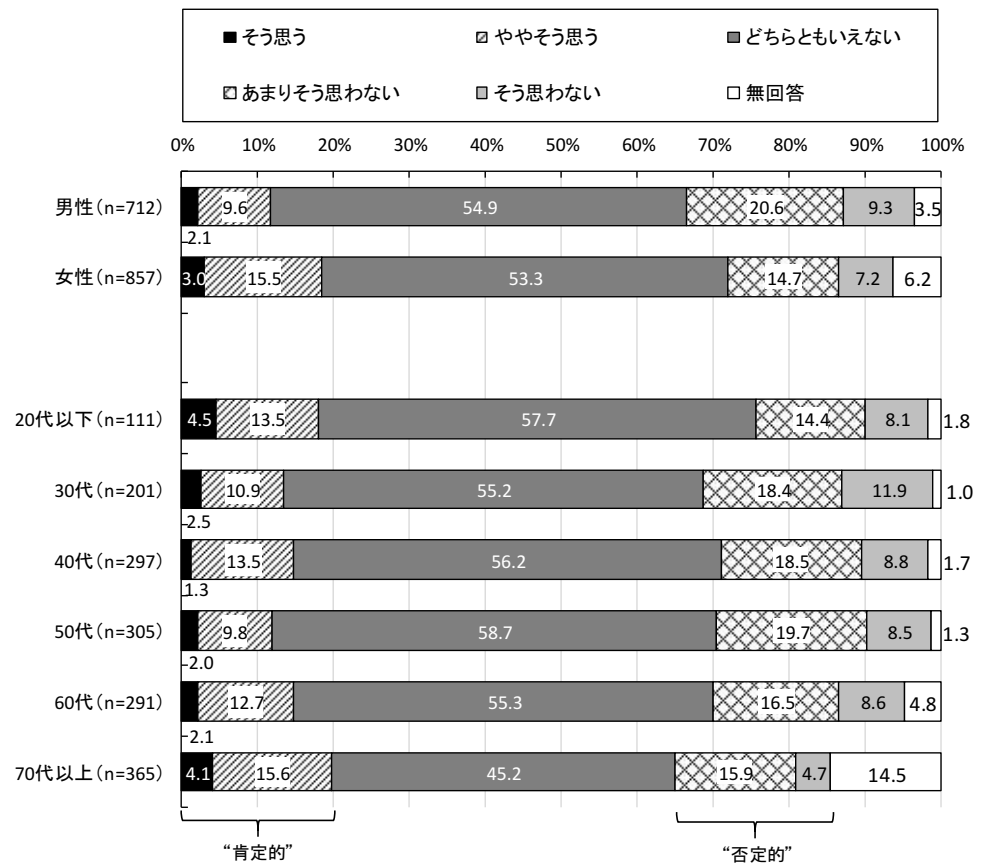
年代別で見ると、30代～60代では“肯定的”と“否定的”な回答が拮抗しており、40代では“否定的”が“肯定的”をやや上回っている。



16) 失敗を恐れず、新たな事に挑戦している〔チャレンジ精神〕

性別で見ると、男性において、“否定的”な回答が“肯定的”な回答を大きく上回っている。

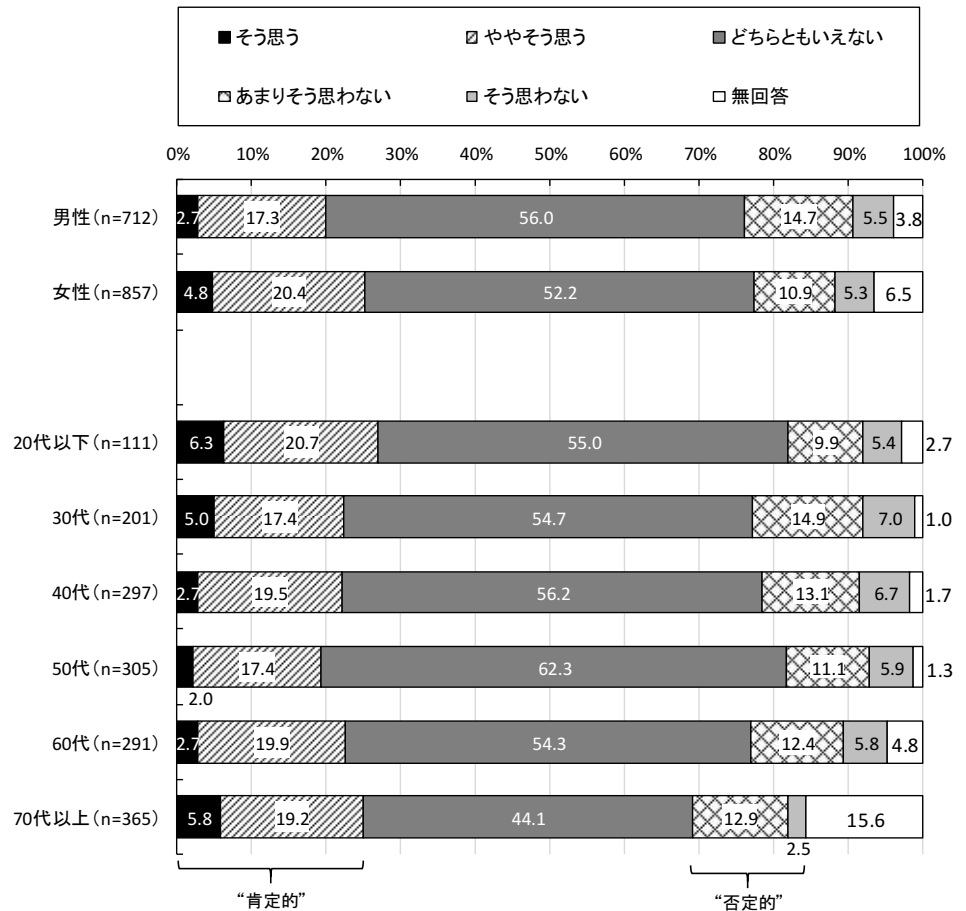
年代別で見ると、30代～50代では“否定的”な回答がおよそ3割を占め、高くなっている。



17) 広く情報を収集し、有効に活用している〔情報活用能力〕

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

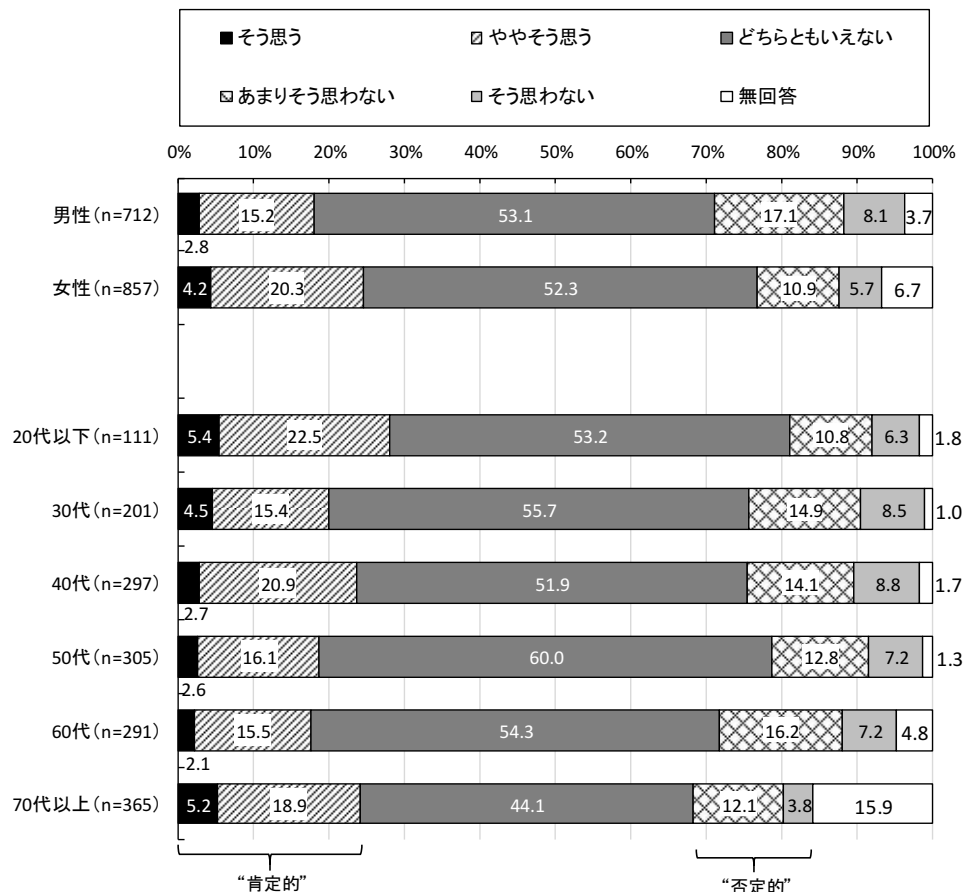
年代別で見て、年代間で大きな差は見られない。



18) 時代の流れに対応した政策を立案している〔政策立案能力〕

性別で見ると、女性においては“肯定的”な回答が“否定的”を上回ったのに対し、男性においては、“否定的”が上回っている。

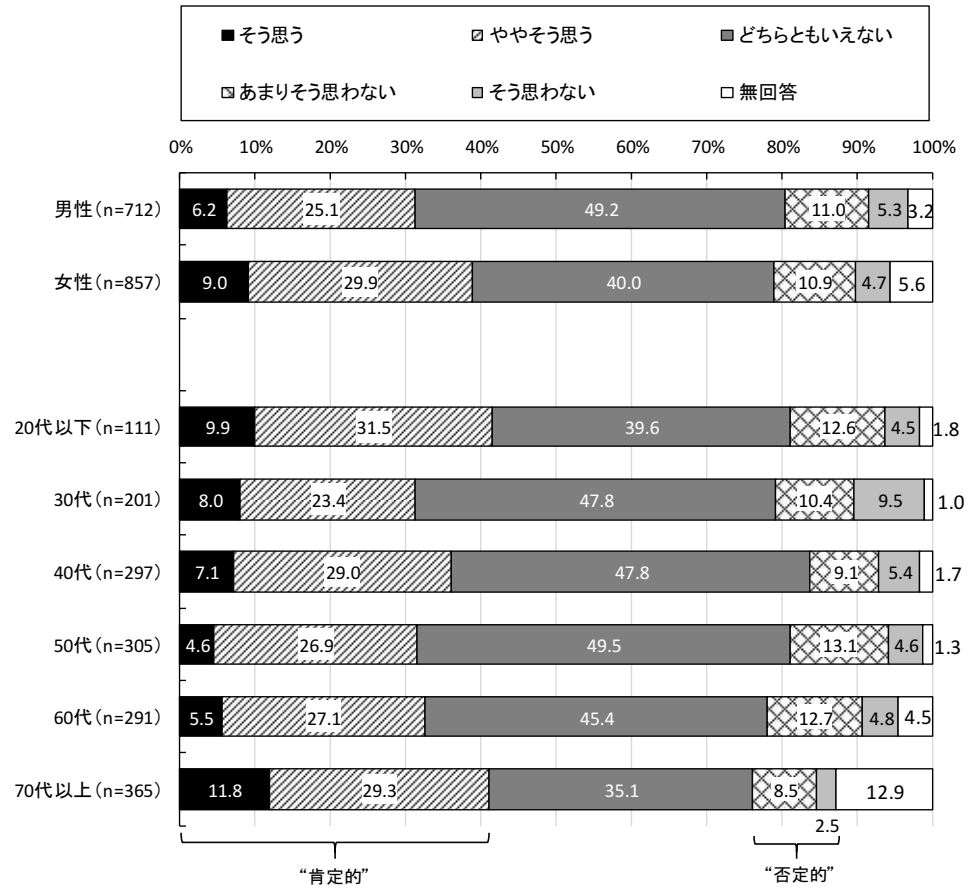
年代別で見て、20代以下では“肯定的”な回答が“否定的”を上回ったのに対し、60代では“否定的”が上回っている。



19) 説明や対応のときに元気があり、いきいきと仕事をしている【元気・快活さ】

性別で見ると、“肯定的”な回答は男性よりも女性でやや高い。

年代別で見ると、20代以下と70代以上において“肯定的”な回答が4割を占め、他の年代と比べて高くなっている。

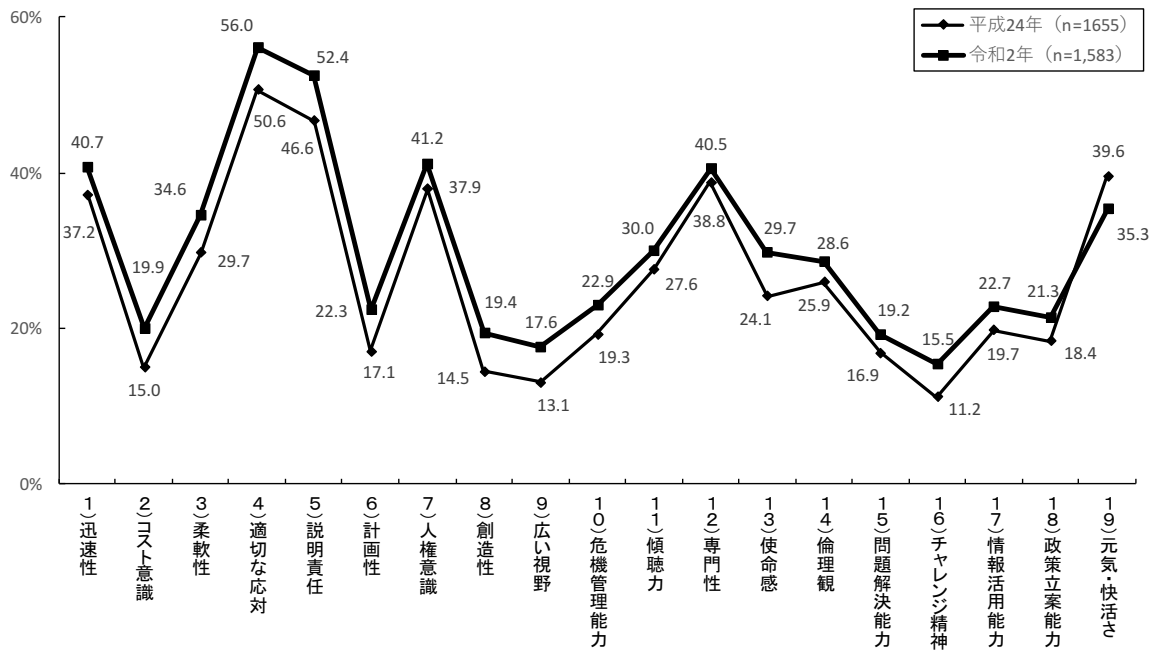


IV 調査結果

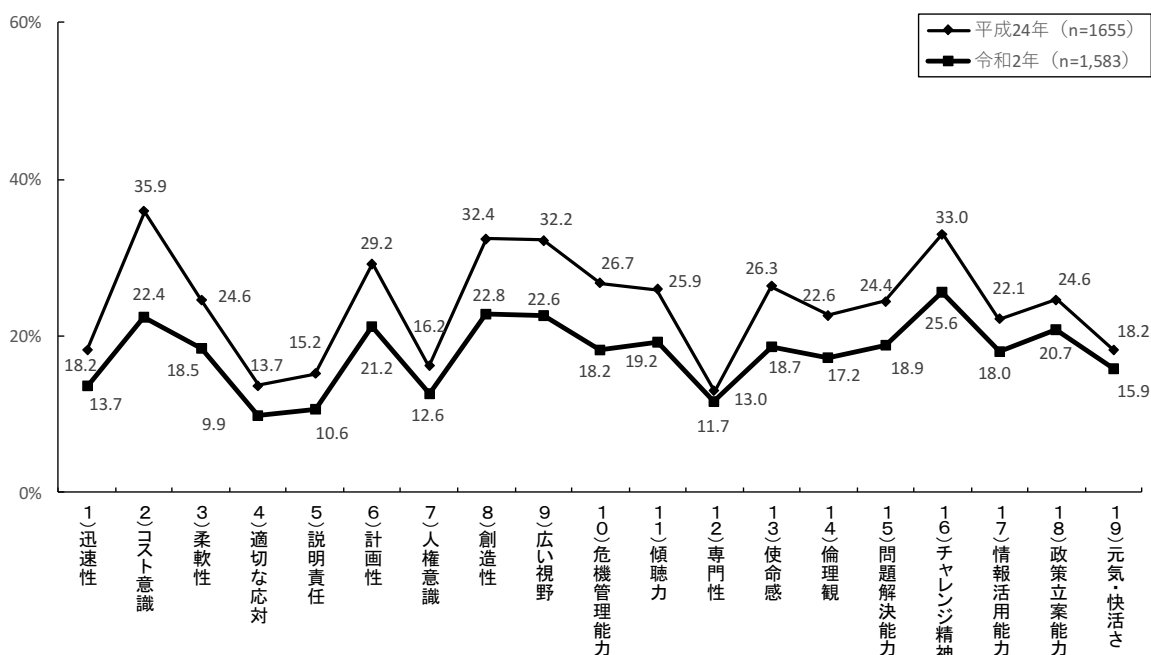
平成24年の調査結果と比較すると、全体的に“肯定的”が増加傾向、“否定的”が減少傾向にある。特に“肯定的”では「適切な対応」、「説明責任」、「使命感」などが顕著に増加している。“否定的”では全項目にわたって軒並み減少しているが、特に「コスト意識」については13.5ポイント減少している。

【経年変化】

“肯定的”（「そう思う」＋「ややそう思う」）

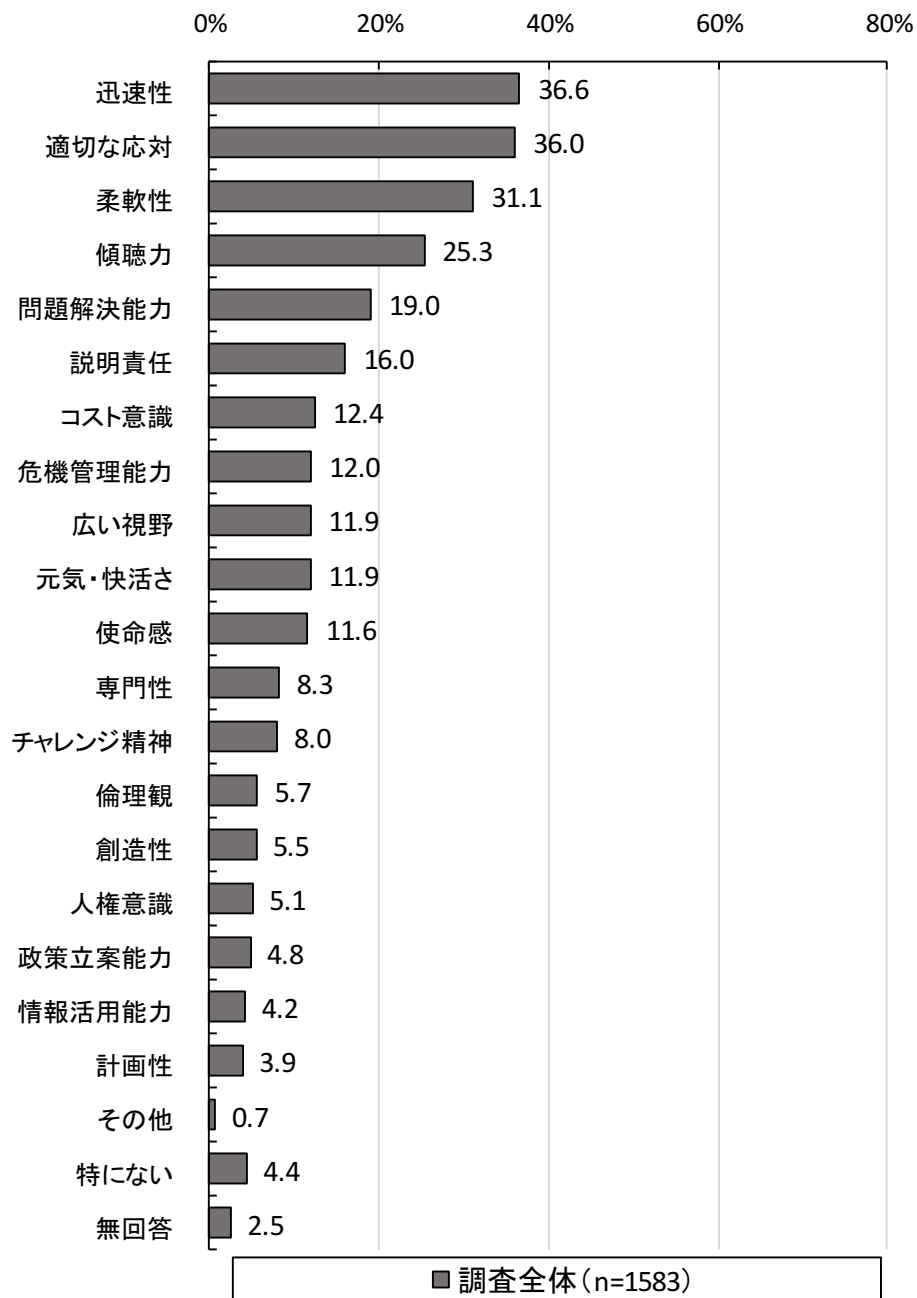


“否定的”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）



(4) 富士市職員に望む姿勢や態度、能力

問 24 問 23 の項目の中で、あなたが富士市の職員に望む姿勢や態度、能力はなんですか。次の中から当てはまるものを3つまで選んでください。



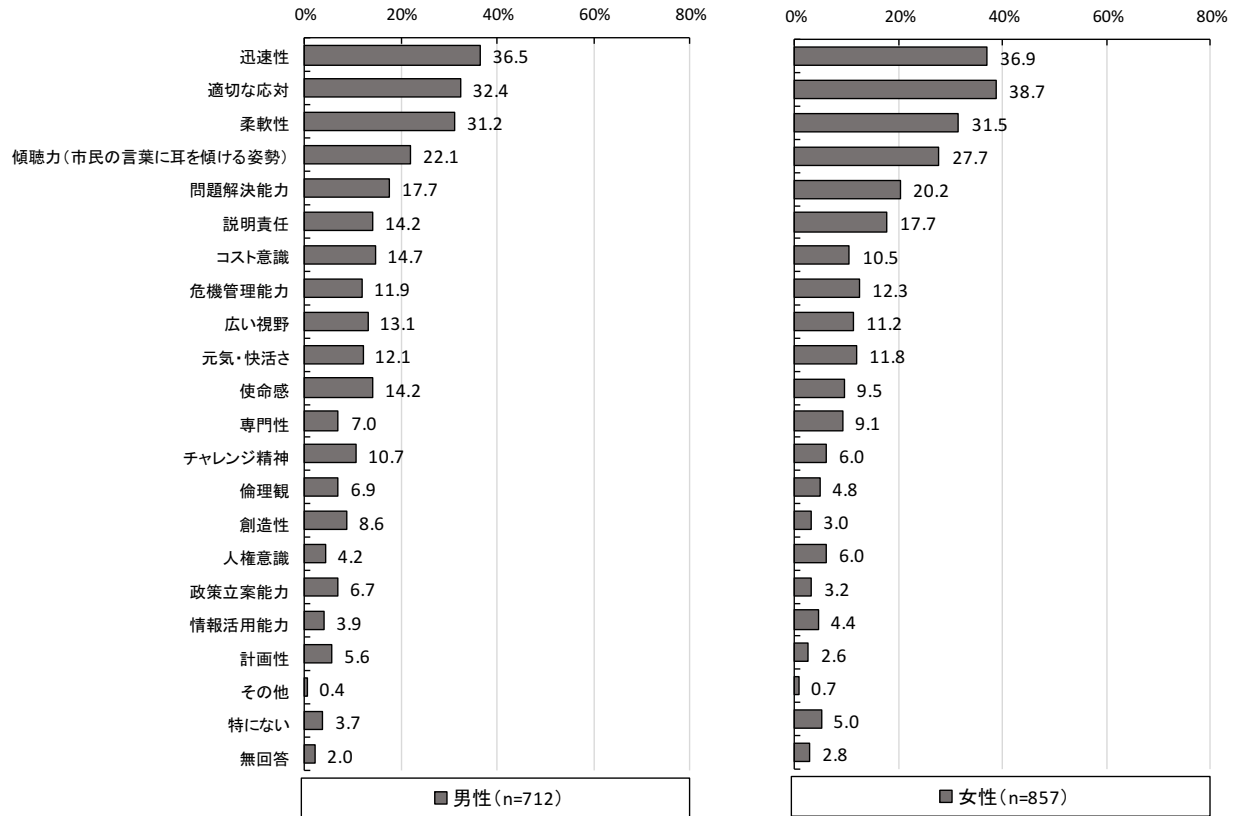
富士市職員に望む姿勢や態度、能力を尋ねたところ、「迅速性」が 36.6% で最も高く、次いで「適切な対応」が 36.0%、「柔軟性」が 31.1%、「傾聴力」が 25.3% となっている。

性別で見ても、男女間で大きな差は見られない。

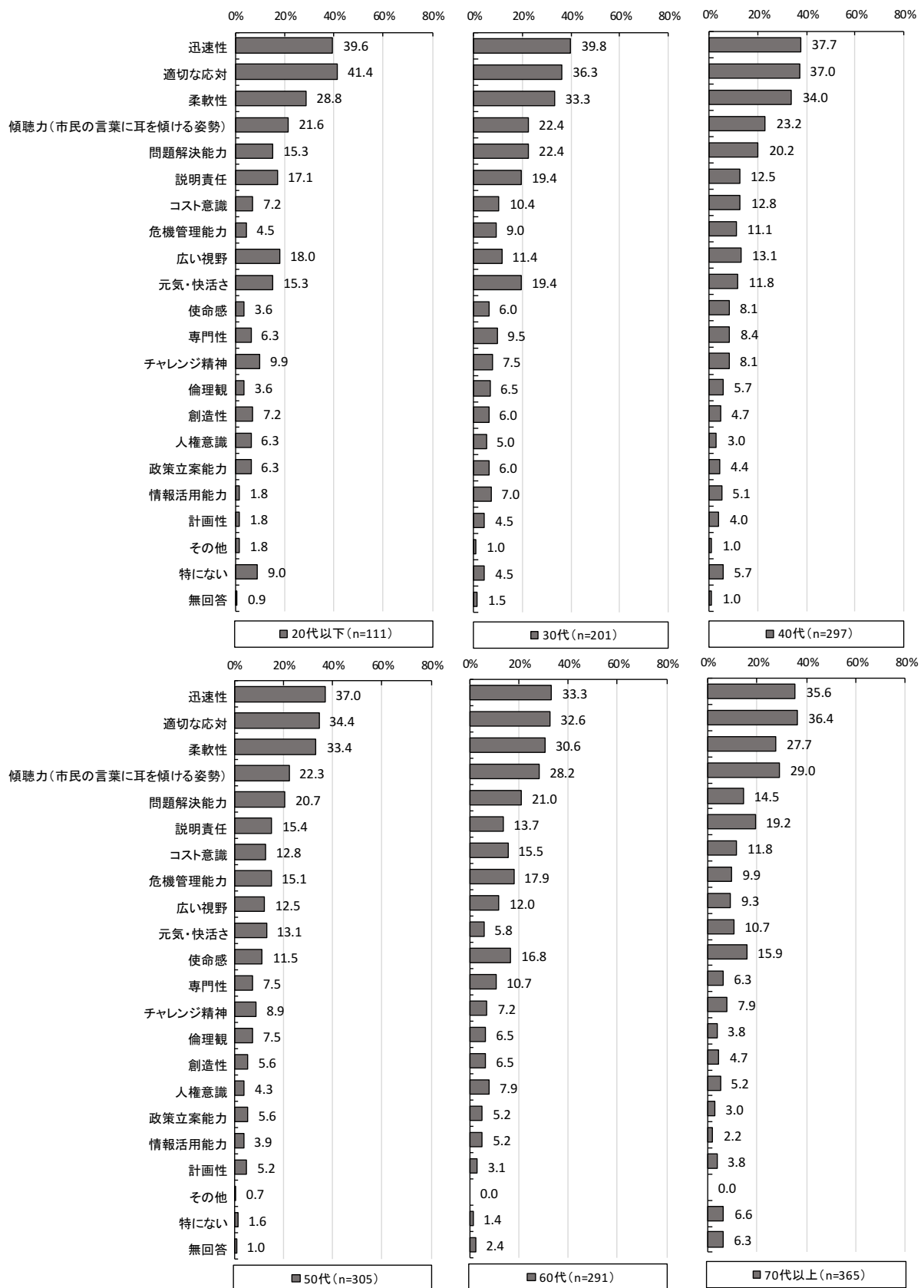
年代別で見ると、20 代では「広い視野」、30 代では「元気・快活さ」、60 代では「危機管理能力」と「使命感」なども高くなっている。

IV 調査結果

【性別】



【年代別】



IV 調査結果

平成24年の調査結果と比較すると、「迅速性」、「柔軟性」が顕著に増加しており、求める職員像の変化が見られる。

【経年変化】

